

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第328集

## 上寺田遺跡・本巻遺跡発掘調査報告書

胆沢南部地区広域営農団地農道整備事業関連遺跡発掘調査



(財) 岩手県文化振興事業団  
埋蔵文化財センター

かみ てら だ もと まき

# 上寺田遺跡・本巻遺跡発掘調査報告書

胆沢南部地区広域営農団地農道整備事業関連遺跡発掘調査

## 序

岩手県には旧石器時代の遺跡をはじめとする数多くの埋蔵文化財包蔵地が各地域にあり、平成10年度の岩手県教育委員会でのまとめでは10,500箇所を超えております。先人の残したこれらの埋蔵文化財を保護し、保存していくことは私たち県民に課せられた責務であります。

一方、本調査の原因となりました広域農業整備事業を例に挙げるまでもなく、現代社会を豊かにし、快適な生活を送るための地域開発もまた県民の切実な願いでもあります。埋蔵文化財の保護・保存と地域開発という相容れない要素をもつ事業の調和のとれた施策が今日的な課題となっております。

財団法人岩手県文化振興事業団は、埋蔵文化財センター創設以来、埋蔵文化財保護の立場に立って、県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡について発掘調査を行い、その記録を残す措置をとってまいりました。

本書は、広域農業整備事業に関連して平成9・10年度に発掘調査を実施した上寺田遺跡・本巣遺跡の調査結果についてまとめたものであります。遺跡は縄文時代後期前葉を主体とすることが明らかになりました。特に縄文時代後期前葉のものと考えられる柱穴が多数検出されたことで、貴重な資料を提供することができました。

本書が広く活用され、考古学の研究に寄与するとともに埋蔵文化財に対する関心と理解をいっそう深めることに役立つことを切に希望いたします。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書作成にご協力と援助を賜りました水沢地方振興局、胆江土地改良事業所や衣川教育委員会をはじめとする関係機関・関係各位に深く感謝申し上げます。

平成12年2月

財団法人 岩手県文化振興事業団  
理事長 船越昭治

## 例 言

1. 本報告書は岩手県胆沢郡衣川村大字上衣川字上寺田 99-4 他、岩手県胆沢郡衣川村大字上衣川字上寺田 97-3 他に所在する上寺田遺跡及び岩手県胆沢郡衣川村大字上衣川字本巻 43 に所在する本巻遺跡の発掘調査の結果を収録したものである。
2. 本遺跡の岩手県遺跡台帳の遺跡番号と遺跡略号は次の通りである。

遺 跡 名	遺 蹤 番 号	遺 蹤 略 号
上寺田遺跡（平成9年度）	NE54-0254	KTD-97
上寺田遺跡（平成10年度）	NE54-0254	KTD-98
本巻遺跡	NE64-1616	MM-98

3. 本遺跡の調査は広域営農団地農道整備事業に伴う緊急発掘調査である。調査は水沢地方振興局胆江土地改良事業所と岩手県教育委員会文化課との協議を経て、水沢地方振興局胆江土地改良事業所の委託を受けた財団法人岩手県文化財振興事業団埋蔵文化財センターが実施した。

4. 野外調査の期間と調査面積・調査担当者は次の通りである。

遺 跡 名	調 査 期 間	調 査 面 積	調 査 担 当 者
上寺田遺跡（平成9年度）	平成9年4月8日～5月15日	442m <sup>2</sup>	中村直美 大森博文
上寺田遺跡（平成10年度）	平成10年7月16日～9月30日	900m <sup>2</sup>	中村比呂志 鳥居達人
本巻遺跡	平成10年10月1日～10月30日	500m <sup>2</sup>	鳥居達人 佐々木志麻

5. 室内整理作業は平成9年2月1日～3月31日及び平成10年11月2日～平成11年3月31日の期間に行なった。

6. 出土品のうち石材鑑定は花崗岩研究会に依頼した。

7. 座標原点の測量及び空中写真は次の機関に委託した。

座標原点の測量については上寺田遺跡（平成9年度）は㈱第一航業、上寺田遺跡（平成10年度）は㈱総合土木コンサルタント、本巻遺跡は㈱興国設計に委託した。

空中写真撮影については上寺田遺跡（平成9年度）は㈱シン技術コンサル、上寺田遺跡（平成10年度）は㈱東邦航空、本巻遺跡は㈱ハイマーテックに委託した。

8. 発掘調査において、次の機関の協力を頂いた。

水沢地方振興局胆江土地改良事業所・衣川教育委員会

9. 野外調査では衣川村・胆沢町をはじめとする地元の方々に協力を頂いた。

10. 本書の執筆は、上寺田遺跡は 3. (1) 平成9年度遺構と遺物を中村直美、その他を中村比呂志が担当した。

本巻遺跡は鳥居達人が担当した。I 調査に至る経過は高橋與右衛門が担当した。

11. 本遺跡で出土した遺物及び調査資料は、岩手県立埋蔵文化財センターに保管している。

12. 実測図の凡例等は III 調査・整理の方法に記載した。

# 目 次

## 序

## 例言

## 〔本文〕

I 調査に至る経過	3	⑤ 溝跡	37
II 遺跡の立地と環境		4. 出土遺物	42
1. 遺跡の位置と地形	3	(1) 土器	42
2. 周辺の遺跡	4	(2) 石器・石製品・土製品	43
III 調査・整理の方法		5. まとめ	67
1. 野外調査	7	V 本巻遺跡	
2. 室内整理	7	1. 遺跡の立地と環境	106
IV 上寺田遺跡		(1) 遺跡の位置と地形	106
1. 遺跡の位置と立地	12	(2) 遺跡の立地	106
2. 基本層序	12	(3) 基本層序	106
3. 検出された遺構と遺物		2. 検出された遺構と出土遺物	108
(1) 平成9年度遺構と遺物		(1) 土坑	108
① 土坑	15	(2) 溝跡	111
② 焼土遺構	18	(3) 柱穴	111
③ 埋設土器	20	(4) 遺構外出土遺物	114
④ 集石遺構	20	① 土器	114
⑤ 柱穴群	20	② 石器	115
⑥ 溝跡	20	3. まとめ	125
(2) 平成10年度遺構と遺物		(1) 遺構	125
① 捵立柱建物跡	28	(2) 遺物	125
② 土坑	28	(3) おわりに	126
③ 焼土遺構	37	報告書抄録	139
④ 柱穴群	37		

## 〔図版〕

図1 岩手県全国	1	図3 周辺の遺跡分布図	6
図2 遺跡の位置図	2		

## 〔表〕

表1 周辺の遺跡一覧表	5
-------------	---

## 上寺田遺跡

### 〔図 版〕

図 1 周辺の地形図（衣川村）	11	図 19 柱穴(2)・溝跡	41
図 2 基本層序	12	図 20 出土遺物 1	50
図 3 上寺田遺跡調査区全体図	13	図 21 出土遺物 2	51
図 4 上寺田遺跡遺構配置図（平成9年度）	14	図 22 出土遺物 3	52
図 5 土坑	17	図 23 出土遺物 4	53
図 6 焼土遺構・埋設土器・集石遺構	19	図 24 出土遺物 5	54
図 7 柱穴配置図	23	図 25 出土遺物 6	55
図 8 柱穴(1)	24	図 26 出土遺物 7	56
図 9 柱穴(2)	25	図 27 出土遺物 8	57
図 10 1号溝跡	26	図 28 出土遺物 9	58
図 11 上寺田遺跡遺構配置図（平成10年度）	27	図 29 出土遺物 10	59
図 12 RB01 挖立柱建物跡	29	図 30 出土遺物 11	60
図 13 RB02 挖立柱建物跡	30	図 31 出土遺物 12	61
図 14 土坑(1)	34	図 32 出土遺物 13	62
図 15 土坑(2)	35	図 33 出土遺物 14	63
図 16 土坑(3)・焼土遺構	36	図 34 出土遺物 15	64
図 17 柱穴配置図	39	図 35 出土遺物 16	65
図 18 柱穴(1)	40	図 36 出土遺物 17	66

### 〔写真図版〕

写真図版 1 調査区全景①・調査前風景 基本層序	71	写真図版 12 RB02 挖立柱建物跡(1)	82
写真図版 2 調査区全景②・1・2号土坑	72	写真図版 13 RB02 挖立柱建物跡(2) 土坑(1)	83
写真図版 3 3～7号土坑	73	写真図版 14 土坑(2)	84
写真図版 4 8号土坑・1～3焼土遺構	74	写真図版 15 土坑(3)	85
写真図版 5 4・5号焼土遺構 1・2号埋設土器	75	写真図版 16 土坑(4)	86
写真図版 6 柱穴群	76	写真図版 17 土坑(5)	87
写真図版 7 1号溝跡	77	写真図版 18 焼土遺構・柱穴群(1)	88
写真図版 8 調査区全景	78	写真図版 19 柱穴(調査区南端部)	89
写真図版 9 調査区中央部全景・基本層序	79	写真図版 20 柱穴群(2)	90
写真図版 10 RB01 挖立柱建物跡(1)	80	写真図版 21 柱穴(調査区南側中央部)	91
写真図版 11 RB01 挖立柱建物跡(2)	81	写真図版 22 柱穴(調査区中央部)・溝跡	92
		写真図版 23 出土遺物 1	93

写真図版 24 出土遺物 2	94	写真図版 29 出土遺物 7	99
写真図版 25 出土遺物 3	95	写真図版 30 出土遺物 8	100
写真図版 26 出土遺物 4	96	写真図版 31 出土遺物 9	101
写真図版 27 出土遺物 5	97	写真図版 32 出土遺物 10	102
写真図版 28 出土遺物 6	98		

[表]

表1 柱穴観察表①	25	表3 出土遺物観察表	44
表2 柱穴観察表②	38		

## 本巻遺跡

### [図 版]

図 1 調査区と周辺図 ······	105
図 2 基本層序図 ······	106
図 3 遺構配置図・グリッド設定図 ······	107
図 4 土坑(1) ······	109
図 5 土坑(2)、溝跡、柱穴(1) ······	112
図 6 柱穴(2) ······	113
図 7 出土土器(1) 遺構内・遺構外① ······	116
図 8 出土土器(2) 遺構外② ······	117
図 9 出土土器(3) 遺構外③ ······	118
図 10 出土土器(4) 遺構外④ ······	119
図 11 出土石器(1) 遺構内・遺構外① ······	120
図 12 出土石器(2) 遺構外② ······	121
図 13 出土石器(3) 遺構外③ ······	122

### [写真図版]

写真図版 1 遺跡遠景(空中写真) ······	131
写真図版 2 遺跡近景(空中写真)	
調査区東区・西区完掘 ······	132
写真図版 3 基本層序、1号・2号 3号・4号土坑 ······	133
写真図版 4 5号・6号土坑	
柱穴断面、溝跡 ······	134
写真図版 5 出土遺物(1) 土器① ······	135
写真図版 6 出土遺物(2) 土器② ······	136
写真図版 7 出土遺物(3) 石器①・その他 ······	137
写真図版 8 出土遺物(4) 石器② 土器集成写真 ······	138

### [表]

表 1 柱穴観察表 ······	114
表 2 土器観察表(1) ······	123
表 3 土器観察表(2)・石器観察表 ······	124

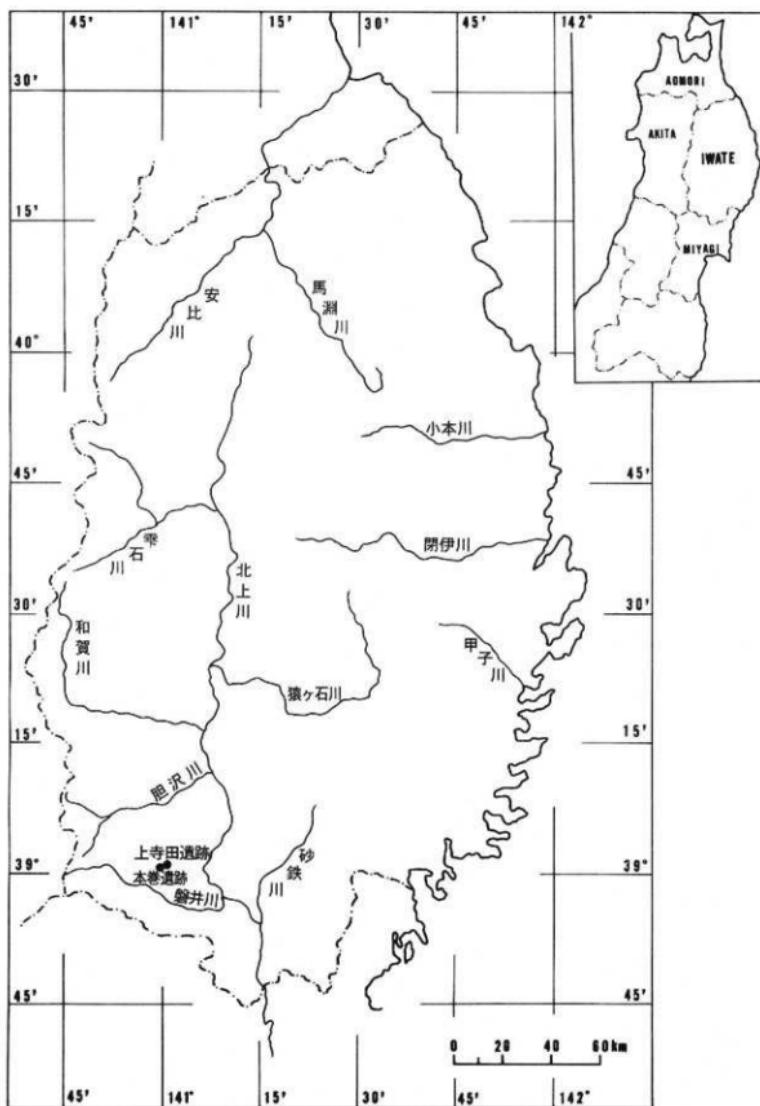


図1 岩手県全図

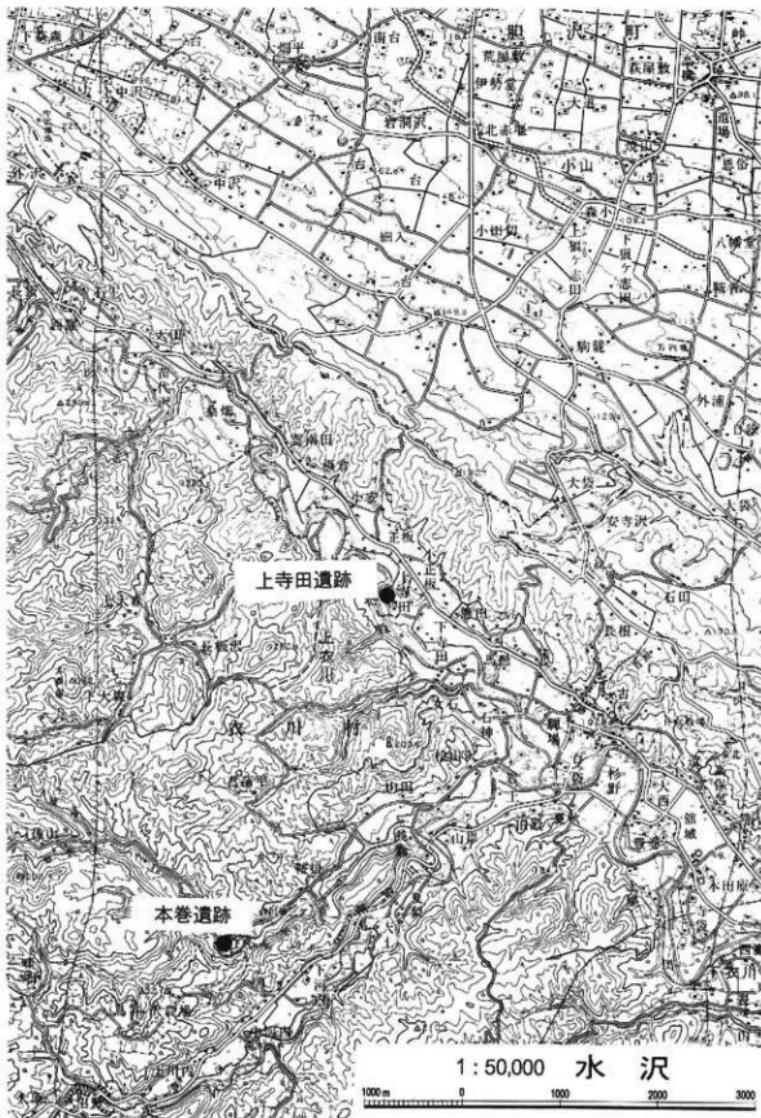


図2 遺跡の位置図

## I 調査に至る経過

上寺田遺跡・本巻遺跡は「広域営農団地農道整備事業・胆沢南部地区」の施行に伴って、その事業区域内に位置することから発掘調査をすることとなったものである。

本広域営農団地は、水稻を中心に野菜、花き、畜産を加えた複合農業經營地帯であり、既存耕地の整備、農用地開発の促進等の土地基盤整備を行い、高収益農畜産物の生産拡大及び生産地化を図ろうとしている。しかし、本団地で生産されている農畜産物の輸送経路である県・国道は、交通量が多く輸送体系確立に支障をきたしている現状である。このような中で、「広域営農団地農道整備事業・胆沢南部地区」は、本団地の農業生産の振興、施設の高度な利用及び農用地開発地への連絡農道として整備するものである。

当事業の施行にかかる埋蔵文化財の取り扱いについては、岩手県水沢地方振興局胆江土地改良事業所から平成8年3月19日付胆土地第482号「広域農道整備事業実施に伴う遺跡分布調査について（依頼）」の文書によって岩手県教育委員会に対して分布調査の依頼をした。依頼を受けた岩手県教育委員会では分布調査を実施し、平成8年6月5日付教文第190号「広域農道整備事業実施に係る埋蔵文化財の分布調査について（回答）」で胆江土地改良事業所へ回答した。その際工事施工範囲が埋蔵文化財の所在する範囲内であることが付記された。

回答を受けた胆江土地改良事業所では岩手県教育委員会に試掘調査の依頼をし、依頼を受けた岩手県教育委員会では平成9年1月24日（上寺田遺跡）並びに平成9年11月14日（本巻遺跡）に試掘調査を実施した。その結果、両遺跡とも埋蔵文化財が確認され、発掘調査が必要であると判断された。

そこで（財）岩手県文化財振興事業団埋蔵文化財センターでは、調査委託事業との調整を図った結果、上寺田遺跡については平成9年度（442m<sup>2</sup>）・10年度（900m<sup>2</sup>）の2ヶ年、本巻遺跡については平成10年度（500m<sup>2</sup>）に調査を実施することとした。

## II 遺跡の立地と環境

### 1. 遺跡の位置と地形（図1・図2）

上寺田遺跡・本巻遺跡のある衣川村は、胆沢郡の南端に位置し北と西は胆沢町、北から南にかけては前沢町、南は平泉町および一関市に隣接する。村の東側には国道4号線と、それと並行する東北横断自動車道が南北に縱断し、市街地は、国道から分かれ胆沢郡胆沢町愛宕に続く県道沿いの古戸地区にある。この県道は藤原氏時代に羽州仙北地方に通じた古道といわれている。耕地は衣川・南俣川の両岸に開け、西部および中部の山地には広大な放牧場がある。

村の西境には蘿山（686.6m）、高檜能山（927.1m）、錦ヶ森山（752.7m）がそびえ、東部に向かうごとに高度を下げ、東端は北上川と衣川の合流点近くに至る。北の胆沢町・前沢町との境界は胆沢扇状地の南端で丘陵が起伏し、そこを衣川が南東流し、村の南部を北東流してきた南俣川を合わせて北上川に注ぐ。

その衣川であるが、江戸時代中頃まで流量が豊かで雪解けや大雨のときは激流になり古来暴れ川といわれ、沿岸は決壊して蛇行した。現在は増堤などのダムが各支流に建設されているが各支流の沢は谷あいが深く削れて多くの河岸段丘が発達している。

上寺田・本巻両遺跡は上衣川地区にあり、上寺田遺跡は衣川（北俣川）、本巻遺跡は南俣川の舌状の河岸段丘上に位置する。

## 2. 周辺の遺跡（図3・表1）

衣川とその南に隣接している平泉町はいわばと知れた奥州藤原氏が栄えたところである。よって衣川村にも藤原氏や安倍一族ゆかりの史跡あるいは遺跡が多い。

その代表的なものに前九年の役の折り、安倍一族が源・清原連合軍と戦ったとされる衣川櫻跡、一時期安倍貞貢が籠城したとされる衣川新城跡などや、源賴朝の攻略などの古戦場であったと伝えられている史跡もある。衣川を中心としたこの地域は古代から中世にかけて歴史的な転換期に多くの遺構・遺物を残してきたともいえ、これらの文化遺産は貴重なものである。

さらに、古くは旧石器時代から多くの遺跡や遺構が確認されているところもある。ここでは縄文時代を中心として53の遺跡を取り上げた。

旧石器時代の遺跡としては平成10年度に埋蔵文化財センターで調査した胆沢町の休場遺跡（28）や一関市の結渡遺跡（48）があげられ尖頭器などが出土している。

縄文時代の遺跡も多い。その中で、衣川の周辺に遺跡を紹介すると前期では立沢遺跡（12）、古戸遺跡（53）などがあげられる。そのうち古戸遺跡は本格的な発掘調査は行われていないが、立地状況や土器片出土状況から見て丘陵全体に広がる可能性が指摘されている。

中期および後期にかけての遺跡としては、沖の野遺跡（9）、野崎遺跡（11）、北館遺跡（16）や前沢町の清水沢遺跡（32）、合の沢A遺跡（36）、平泉町の泉ヶ城遺跡（40）がある。その中で北館遺跡は東北自動車道開設に伴う緊急発掘調査として昭和48年・49年にわたり岩手県教育委員会によって行われた。縄文時代中期の堅穴住居跡や土坑が検出された。（その他にも平安時代の堅穴住居跡や近世の建物跡も検出されている。）

後期から晩期にかけては多くの遺跡が調査され成果をあげている。代表的なものに衣川村の石倉・東裏遺跡（15）、平泉町の大沢遺跡（43）、そして一関市の淨光沢Ⅱ・Ⅲ遺跡（50・51）がある。石倉・東裏遺跡は北館遺跡と同じ理由で調査された。ここでは低位段丘面上に衣川に沿って形成された長さ30m、幅18mの細長いくぼみに堆積した遺物含有層が検出され、大洞B式からA'式にわたる遺物が場所を少しづつ違ながら出土している。土器では深鉢、香炉形土器など10種類、上製品では遮光器上偶など6種類、石器は22種類に及ぶ。

その他、ここでは特に取り上げないが、古代から中世にかけての遺跡は平泉を中心として広く分布しており、これらのことから縄文時代から中世にかけて、人々が広範囲にわたって絶えることなく活動していた地域であるといえる。

周辺の遺跡一覧表（表1）

No	遺跡名	所在地	時代等
1	上寺田遺跡	衣川村	今回調査
2	本巣遺跡	衣川村	今回調査
3	大平遺跡	衣川村	縄文時代
4	中屋敷遺跡	衣川村	縄文晩期
5	小安代遺跡	衣川村	縄文時代
6	小正板遺跡	衣川村	縄文時代
7	大森遺跡	衣川村	縄文時代 石器等
8	長根遺跡	衣川村	縄文時代 古代
9	沖の野遺跡	衣川村	縄文時代中～後期
10	嗜味遺跡	衣川村	縄文時代
11	野崎遺跡	衣川村	縄文中期
12	立沢遺跡	衣川村	縄文前期末葉・後期
13	真打遺跡	衣川村	不明 石棒
14	館城遺跡	衣川村	縄文時代 古代
15	石倉・東裏遺跡	衣川村	縄文晚期 大洞B-C、C <sub>1</sub> 、C <sub>2</sub> 主体 透光器土偶
16	北館遺跡	衣川村	縄文中期 平安時代
17	横道下遺跡	衣川村	縄文時代
18	松下遺跡	衣川村	縄文時代
19	二の代遺跡	胆沢町	縄文中期 奈良
20	西風遺跡	胆沢町	縄文前期
21	小田切遺跡	胆沢町	縄文前期 弥生式土器
22	駒籠遺跡	胆沢町	縄文時代
23	二の沢遺跡	胆沢町	縄文草・前期
24	田中遺跡	胆沢町	縄文前期
25	小山沢田遺跡	胆沢町	平安時代 土師器
26	外浦A遺跡	胆沢町	縄文時代
27	外浦B遺跡	胆沢町	縄文時代
28	休場遺跡	胆沢町	旧石器から縄文時代
29	一ノ沢遺跡	前沢町	古代（平安）
30	上ノ原遺跡	前沢町	縄文時代 平安時代
31	赤坂遺跡	前沢町	縄文時代
32	清水沢遺跡	前沢町	縄文中期
33	長根遺跡	前沢町	古代（9～10C）
34	白鳥永沢遺跡	前沢町	縄文時代
35	永沢東遺跡	前沢町	縄文時代
36	合ノ沢A遺跡	前沢町	縄文中期
37	塔ヶ崎遺跡	前沢町	礫石
38	舞鶴公園付近遺跡	前沢町	古代
39	源原遺跡	平泉町	平安時代・近世
40	泉ヶ城遺跡	平泉町	縄文中期～後期
41	達谷新遺跡	平泉町	伊能縄
42	伊能縄遺跡	平泉町	中近世
43	大沢遺跡	平泉町	縄文後期後葉～晩期中葉
44	高玉遺跡	平泉町	古代
45	伽藍御所II遺跡	平泉町	古代（平安）
46	毛越遺跡	平泉町	古代（平安）
47	片岡遺跡	平泉町	縄文時代 中近世
48	結義遺跡	一関市	旧石器 尖頭器
49	淨光沢I遺跡	一関市	弥生時代
50	淨光沢II遺跡	一関市	縄文晩期
51	淨光沢田遺跡	一関市	縄文晚期
52	市営牧野遺跡	一関市	縄文時代
53	古戸遺跡	衣川村	縄文前期～晩期

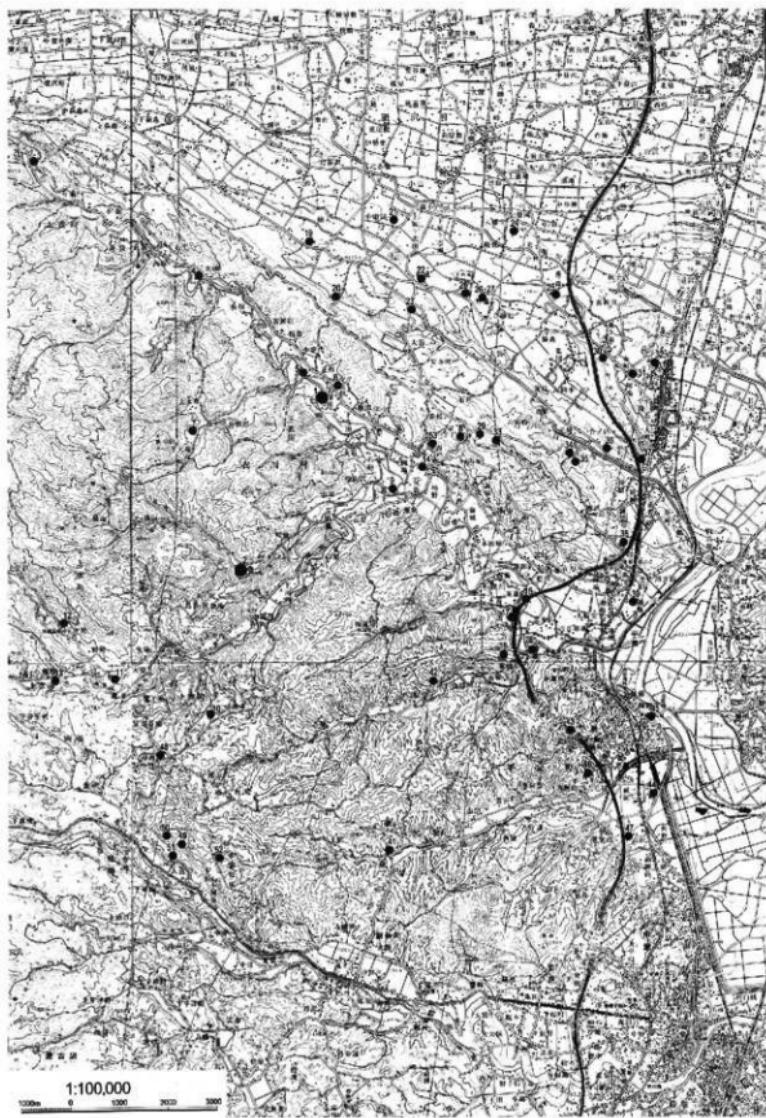


図3 周辺の遺跡分布図

### III 調査・整理の方法

#### 1. 野外調査

##### (1) 調査区の設定

遺跡名	基準点1	基準点2
上寺田遺跡・平成9年度調査区	X=-105650.000, Y=+18360.000	X=-105680.000, Y=+18360.000
上寺田遺跡・平成10年度調査区	X=-105604.000, Y=+18404.000	X=-105656.000, Y=+18380.000
本巻遺跡	X=-109134.000, Y=+16669.602	X=-109115.000, Y=+16669.602

上寺田遺跡・本巻遺跡とも上記の基準点を基に次のように調査区を設定した。

上寺田遺跡については平成9年度調査区は1区画5×5mのマスを作り、北西を起点に東方向へはA～F、南方向へは1～7と付し、これを組み合わせて調査区を1 A、1 Bというように表示した。また平成10年度調査区は1区画4×4mのマスを作り、北西を起点に東方向へはa～q、南方向へは1～24と付し、調査区を1 a、1 bというように表示した。

本巻遺跡については1区画4×4mのマスを作り、北西を起点に東方向へはa～g、南方向へは1～9と付し、調査区を1 a、1 bというように表示した。

##### (2) 粗掘・遺構の検出

トレンチを入れ、表土を重機で除去し、その後は人力で掘り下げていく過程で、上寺田遺跡では第IV層以下・本巻遺跡では第V層以下が検出面であることが確認され、遺構・遺物の検出を進めた。

##### (3) 遺構の命名

検出された遺構名については下記の通り、記号または名称を用いた。

掘立柱建物跡 RB01～ 土坑 1号土坑～ 焼土遺構 1号焼土遺構～ 墓設土器 1号埋設土器～ 集石遺構 1号集石遺構～ 柱穴 PP1～ 構跡 1号構跡～

##### (4) 遺構の精査・実測、遺物の取り上げ

検出された遺構の精査は2分法を用いて行った。

実測図の縮尺は平面図・断面図とも1/20を基本として作成した。

遺構内出土遺物は遺構名、遺構外出土遺物はグリッド名を記して取り上げるよう努めた。尚、本巻遺跡については基準点設営が遅れ、土器の取り上げは西側調査区、Aトレント南という形となった。そこで遺構内出土遺物はその位置のグリッドを明記したが、報告書の土器観察表もグリッドを直さずそのまま付してある。

##### (5) 写真撮影

野外調査での写真撮影は、6～7cm判カメラ（モノクロ）を1台、35mm判カメラ（モノクロ、カラー・リバーサル）を2台、このほかにポラロイドカメラ1台を使用した。撮影は遺構の断面や完掘状況について行い、また調査終了にあたり調査区の航空写真撮影を実施している。

### 2. 室内整理

##### (1) 作業内容

遺構については調査現場で作成した実測図の点検、合成、第二原図の作成、図版作成の順に進めた。遺物については、水洗い・注記を行った後、仕分け・登録・実測・拓本の作成・写真撮影と並行して図版・写真図版の作成、原稿の執筆を行った。

(2) 遺構について

遺構配置図は上寺田遺跡については、1/250（平成9年度）ないし1/500（平成10年度）、また本巻遺跡については1/200でそれぞれ掲載した。

掘立柱建物跡は1/50、土坑は1/40、焼土遺構・埋設土器・集石造構は1/25ないし1/40、溝跡は1/40ないし1/80、柱穴については断面図は1/40、平面図は1/40ないし1/100でそれぞれ掲載した。

(3) 遺物について

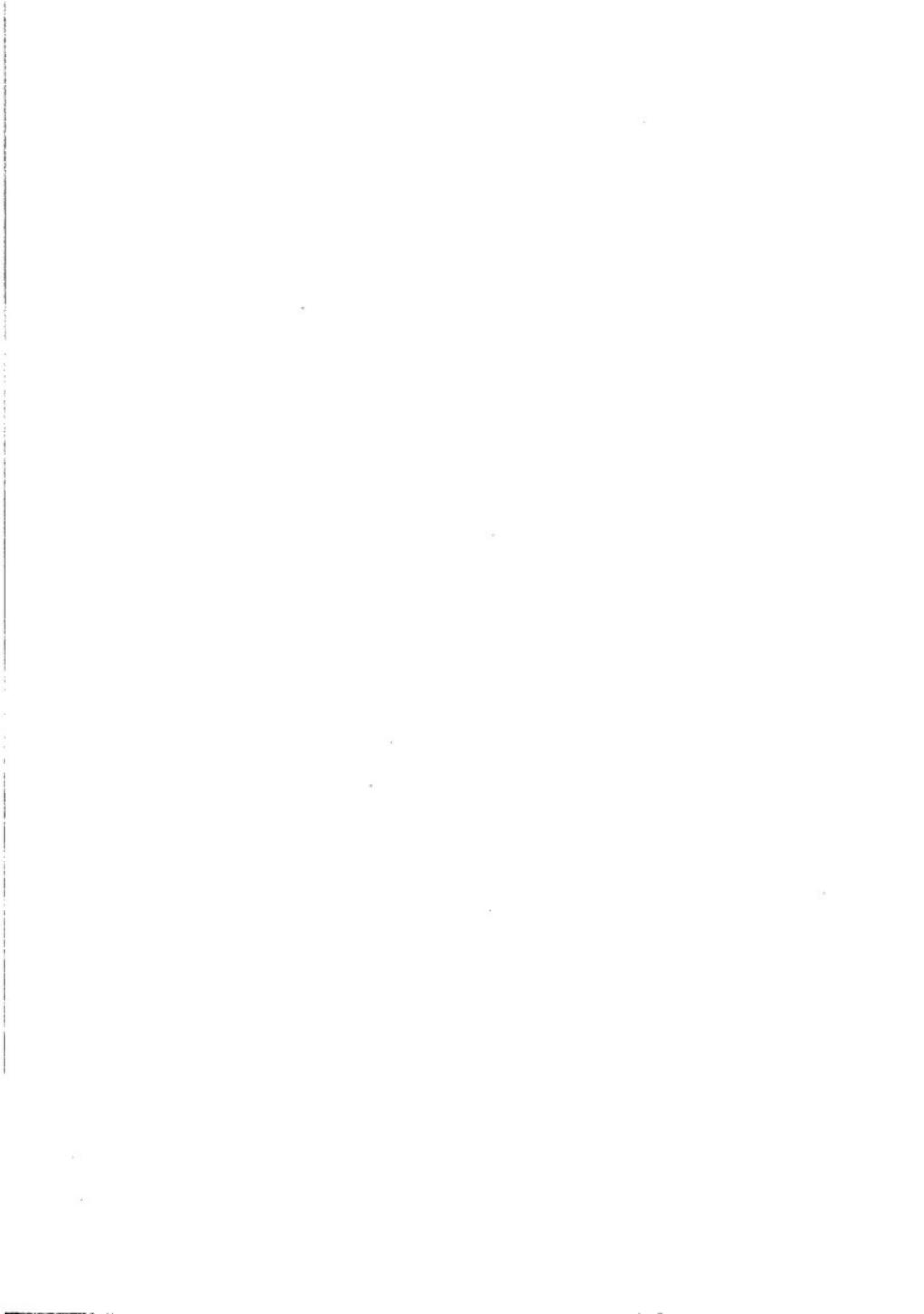
図版は土器・石器・土製品・石製品とも原則として1/2で掲載し、一部1/4の縮尺率を用いた。

写真も原則として1/2の縮尺で掲載し、一部1/4の縮尺率を用いた。



# 上寺田遺跡

	上寺田遺跡（平成9年度）	上寺田遺跡（平成10年度）
所 在 地	岩手県胆沢郡衣川村大字上衣川字上寺田99-4	岩手県胆沢郡衣川村大字上衣川字上寺田97-3
調査期間	平成9年4月8日～5月15日	平成10年7月16日～9月30日
調査面積	442m <sup>2</sup>	900m <sup>2</sup>
遺跡番号	NE54-0254	NE54-0254
遺跡略号	KTD-97	KTD-98



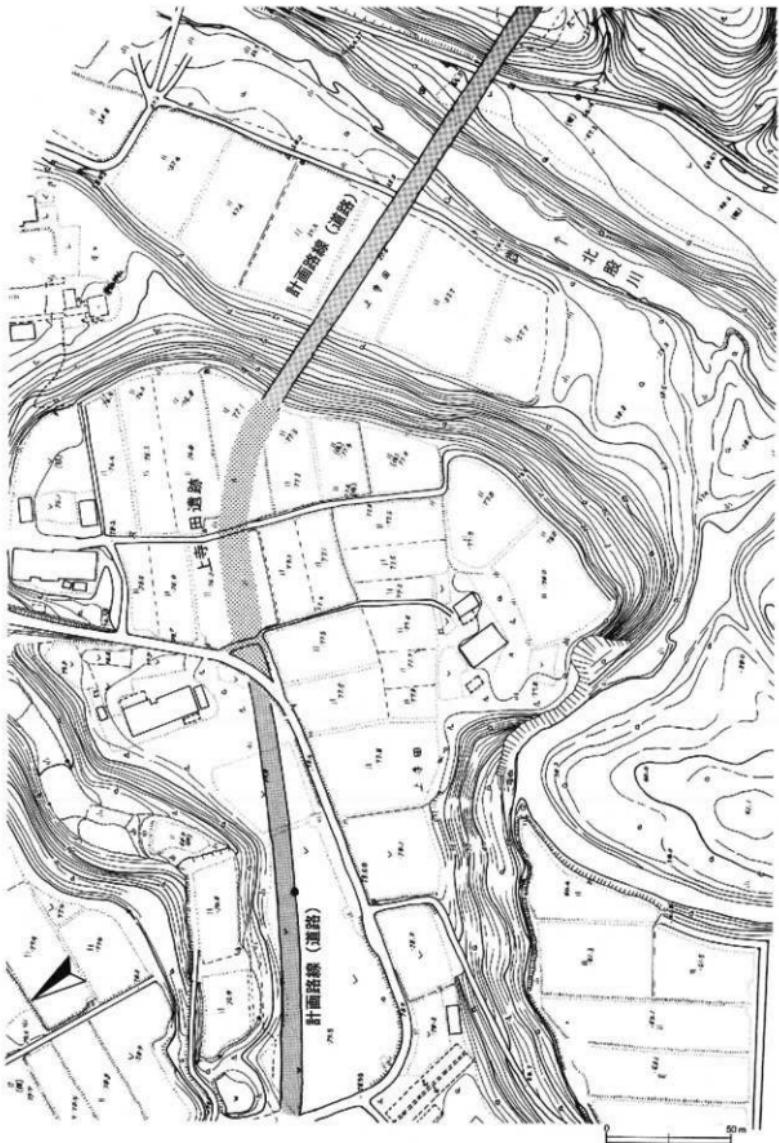


図1 周辺の地形図（衣川村）

## IV 上寺田遺跡

### 1. 遺跡の位置と立地（図1）

上寺田遺跡は、東北自動車道平泉前沢インターチェンジから北西へ約7.1kmに位置し、南流する北俣川の左岸に形成された河岸段丘上に立地している。遺跡の標高は約76～77mで、北俣川との標高差は約26mで、現況は水田である。

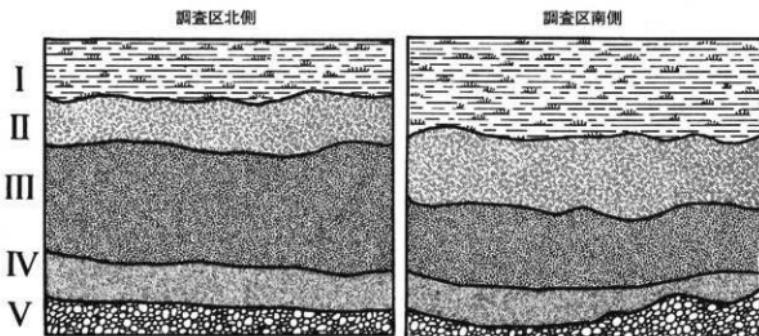
### 2. 基本層序（図2）

基本層序の第Ⅰ層～第Ⅲ層の上位は擾乱層で、全体的に水田造成工事による削平・擾乱が深くまで及び遺構の上部は消失していると思われ、遺構の検出や遺物の出土は主に第Ⅳ層・第Ⅴ層の下位で見られた。

調査区北側では第Ⅰ層～第Ⅴ層まですべて層厚が見られた。この区域では第Ⅲ層（黒色土）では層厚が50～60cmにも及んだ。遺構は検出されず、遺物は第Ⅲ層～第Ⅳ層にかけて土器片や石器が数点出土した。

調査区中央部では第Ⅰ層・第Ⅳ層・第Ⅴ層のみ観察された。この区域では礫土に礫が含まれる程度で比較的礫が少ない。遺構は第Ⅳ層（暗褐色土）から検出され、遺物は第Ⅲ層～第Ⅳ層にかけて土器片や石器が出土している。

北俣川側の調査区南側では第Ⅰ層～第Ⅴ層まですべて層厚が見られた。この区域は礫が多く、その礫を取り除いていく中で第Ⅳ層（暗褐色土）から遺構が検出された。遺物は第Ⅲ層～第Ⅳ層にかけて出土した。



層	埋 土	層 厚			
		北側	中央部	南側	
第Ⅰ層	10YR 2/1	耕作土	10～15cm	20～30cm	20～25cm
第Ⅱ層	10YR 2/1	床土	10～15cm	層厚なし	20～25cm
第Ⅲ層	10YR 3/1	黒色土（植物繊維・ビニールなど含む）	50～60cm	層厚なし	20～25cm
第Ⅳ層	10YR 3/3	暗褐色土（遺物包含層）	5～10cm	30～40cm	10～15cm
第Ⅴ層	10YR 6/6	地山（礫層）（検出面）	層厚不明	層厚不明	層厚不明

図2 基本層序

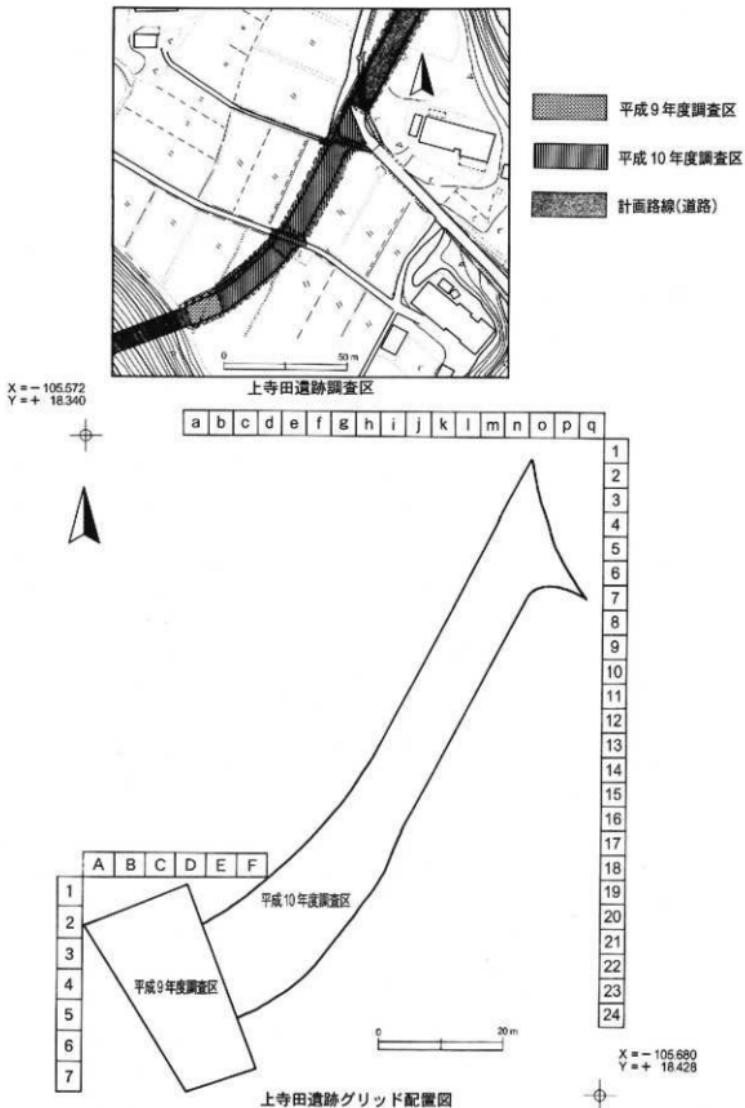


図3 上寺田遺跡、調査区全体図

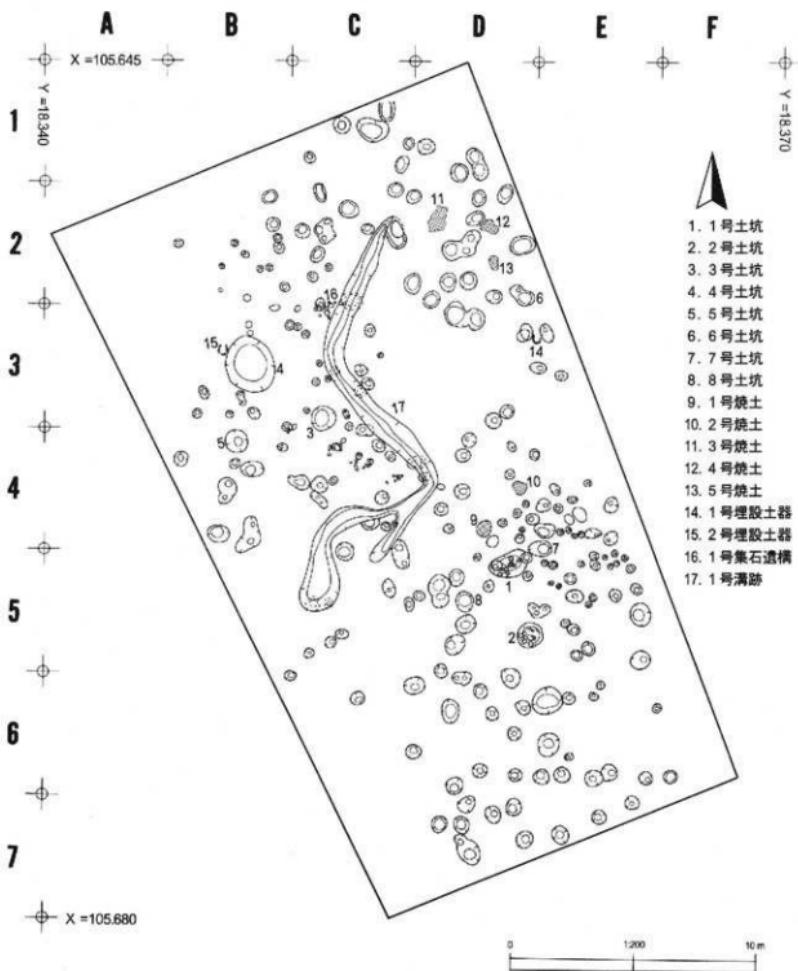


図4 上寺田遺跡遺構配置図（平成9年度）

### 3. 検出された遺構と遺物

道路計画路線の中で、上寺田遺跡が確認された区域を平成9年度（444m<sup>2</sup>）、平成10年度（900m<sup>2</sup>）の2ヶ年に分けて発掘調査を実施した。平成9年度調査区は1区画5×5mのマスを作り、調査区を1A、1Bというように表示した。また平成10年度調査区は1区画4×4mのマスを作り、調査区を1a、1bというように表示した。（図3）

検出した遺構は、掘立柱建物跡2棟・土坑28基・焼土遺構6基・埋設土器2基・集石遺構1基・柱穴343基・溝跡3条である。

#### （1） 平成9年度遺構と遺物

##### ①上坑

###### 1号土坑（図5・写真図版2）

調査区南半東側・5Dグリッドに位置する。IV層上面で検出した。開口部径160×100cm、底部径110×60cmの楕円形を呈する。深さは最深部で25cmである。壁は底面から外傾して立ち上がり、断面形は皿状をなす。

埋土は灰褐色土の単層で、底面に4～14cmの大礫を含む。

＜遺物・時期＞出土遺物はなく詳細は不明だが、構築面・周辺からの出土遺物から、縄文時代後期初頭～前葉の遺構と考えられる。

###### 2号土坑（図5・写真図版2）

調査区南半東側・5Dグリッドに位置する。IV層上面で検出した。開口部径106×102cm、底部径70×71cmの円形を呈する。深さは最深部で20cmである。壁は底面から緩く湾曲して立ち上がり、断面形は皿状をなす。

埋土は3層に細分され、灰黄褐色土主体で構成される。底面に4～29cmの大礫を多量に含む。

＜遺物・時期＞出土遺物はなく詳細は不明だが、構築面・周辺からの出土遺物から、縄文時代後期初頭～前葉の遺構と考えられる。

###### 3号土坑（図5・写真図版3）

調査区中央部・3Cグリッドに位置する。IV層上面で検出した。開口部径100×96cm、底部径58×68cmの円形を呈する。深さは最深部で22cmである。壁は底面から緩やかに立ち上がり、断面形は皿状をなす。

埋土は2層に大別され、黒褐色土主体で構成される。

＜遺物・時期＞出土遺物はなく詳細は不明だが、構築面・周辺からの出土遺物から、縄文時代後期初頭～前葉の遺構と考えられる。

###### 4号土坑（図5・写真図版3）

調査区中央部・3Bグリッドに位置する。IV層上面で検出した。開口部径220×200cm、底部径134×156cmの円形を呈する。深さは最深部で30cmである。壁は底面から緩やかに立ち上がり、断面形は皿状をなす。

埋土は8層に細分され、明黄褐色土と黒黄褐色土の混合土主体で構成される。

＜遺物・時期＞出土遺物はなく詳細は不明だが、構築面・周辺からの出土遺物から、縄文時代後期初頭～前葉の遺構と考えられる。

#### 5号土坑（図5・写真図版3）

調査区中央西側・4Bグリッドに位置する。IV層上面で検出した。開口部径103×98cm、底部径38×40cmの円形を呈する。深さは最深部で22cmである。壁は底面から緩やかに立ち上がり、断面形は皿状をなす。埋土は3層に大別され、灰褐色土主体で構成される。

＜遺物・時期＞出土遺物はなく詳細は不明だが、構築面・周辺からの出土遺物から、縄文時代後期初頭～前葉の遺構と考えられる。

#### 6号土坑（図5・写真図版3）

調査区北側・3Bグリッドに位置する。IV層上面で検出した。開口部径70×66cm、底部径56×61cmの円形を呈する。深さは最深部で29cmである。壁は底面から湾曲して立ち上がり、断面形は椀形をなす。

埋土は2層に大別され、明黄褐色土と黒黄褐色土の混合土主体で構成される。

＜遺物・時期＞出土遺物はなく詳細は不明だが、構築面・周辺からの出土遺物から、縄文時代後期初頭～前葉の遺構と考えられる。

#### 7号土坑（図5・写真図版3）

調査区南半部東側・4Eグリッドに位置する。IV層上面で検出した。開口部径102×60cm、底部径39×45cmの円形を呈する。深さは最深部で19cmである。壁は底面から緩やかに立ち上がり、断面形は皿状をなす。埋土は黒褐色土の単層で、1～1.5cmの小砾を多く含む。

＜遺物・時期＞出土遺物はなく詳細は不明だが、構築面・周辺からの出土遺物から、縄文時代後期初頭～前葉の遺構と考えられる。

#### 8号土坑（図5・写真図版4、23-1～3）

調査区南半部東側・5Dグリッドに位置する。IV層上面で検出した。開口部径80×73cm、底部径49×46cmの円形を呈する。深さは最深部で40cmである。壁は底面から外傾しながら直立気味に立ち上がり、断面形は皿状をなす。土坑と認定するのが遅れたため埋土の記録はない。

＜遺物・時期＞埋土中から磨耗した土器片3点が得られた。出土遺物から、縄文時代後期初頭～前葉の遺構と考えられる。

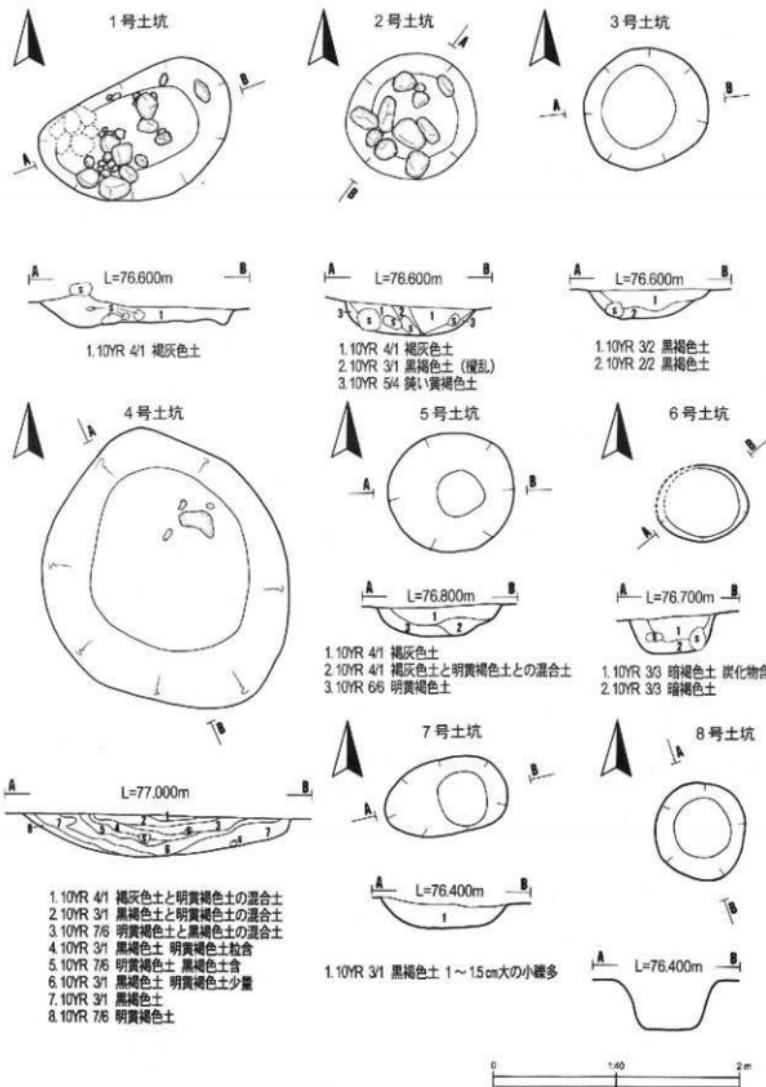


図5 土坑

## ②焼土遺構

### 1号焼土遺構（図6・写真図版4）

調査区中央部東側・4Dグリッドに位置する。IV層上面で検出した。64×63cmの範囲に分布する現地性焼土である。焼土の焼成はよく、層厚は最大8cmに及ぶ。断面は3層に細分され、上位は鈍い黄褐色土と明赤褐色焼土の混合土、中位は明赤褐色焼土、下位は灰黄褐色土で構成される。

＜遺物・時期＞出土遺物はなく詳細は不明だが、形成面・周辺からの出土遺物から、縄文時代後期初頭～前葉の遺構と考えられる。

### 2号焼土遺構（図6・写真図版4）

調査区中央部東側・4Dグリッドに位置する。IV層上面で検出した。64×63cmの範囲に分布する現地性焼土である。焼土の焼成はよく、層厚は最大7cmに及ぶ。断面は3層に細分され、上位は鈍い黄褐色土と明赤褐色焼土の混合土、中位は明赤褐色焼土、下位は鈍い灰黄褐色土で構成される。

＜遺物・時期＞出土遺物はなく詳細は不明だが、形成面・周辺からの出土遺物から、縄文時代後期初頭～前葉の遺構と考えられる。

### 3号焼土遺構（図6・写真図版4）

調査区北東側・2Dグリッドに位置する。IV層上面で検出した。116×68cmの範囲に分布する現地性焼土である。焼土の焼成はよく、層厚は最大18cmに及ぶ。断面は5層に細分され、上位～中位は鈍い赤褐色焼土主体、下位は明赤褐色焼土で構成される。

＜遺物・時期＞出土遺物はなく詳細は不明だが、形成面・周辺からの出土遺物から、縄文時代後期初頭～前葉の遺構と考えられる。

### 4号焼土遺構（図6・写真図版5）

調査区北東部・2Dグリッドに位置する。IV層上面で検出した。55×65cmの範囲に分布する現地性焼土である。焼土の焼成はよく、層厚は最大10cmに及ぶ。断面は鈍い赤褐色焼土の単層である。

＜遺物・時期＞出土遺物はなく詳細は不明だが、形成面・周辺からの出土遺物から、縄文時代後期初頭～前葉の遺構と考えられる。

### 5号焼土遺構（図6・写真図版5）

調査区北東部・2Dグリッドに位置する。IV層上面で検出した。54×30cmの範囲に分布する現地性焼土である。焼土の焼成はよく、層厚は最大10cmに及ぶ。断面は2層に大別され、上位は明赤褐色焼土主体、下位は橙色焼土で構成される。

＜遺物・時期＞出土遺物はなく詳細は不明だが、形成面・周辺からの出土遺物から、縄文時代後期初頭～前葉の遺構と考えられる。

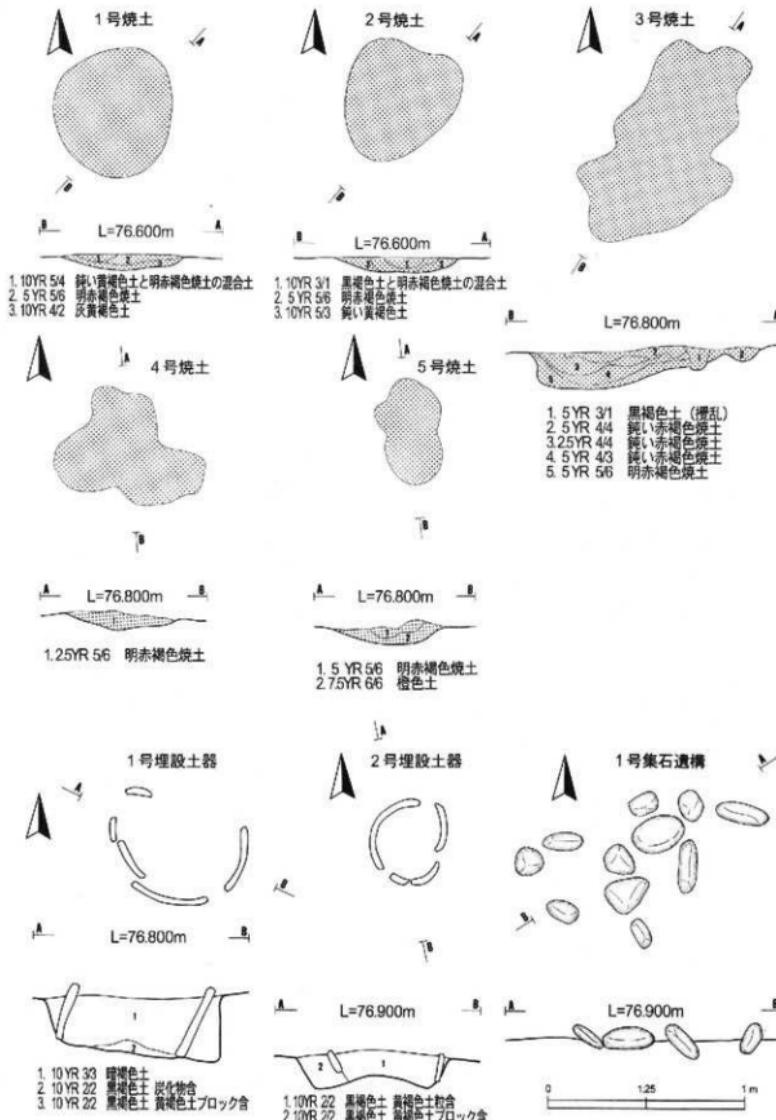


図6 烧土遺構、埋設土器、集石遺構

### ③埋設土器

#### 1号埋設土器（図6、20-4・写真図版5、23-4）

調査区中央部東側・3Dグリッドに位置する。IV層上面で検出した。削平により形成面は失われたものと思われる。土器は口縁部と底部を欠いており、開口部44×33cm、底部41×29cm、深さ14cmの円筒状の土坑にはほぼ直立した状態で埋設されている。土坑の埋土はバミスを僅かに含む暗褐色土の単層である。遺物は埋設されていた土器1点である。

＜遺物・時期＞土器から、縄文時代後期前葉の遺構と考えられる。

#### 2号埋設土器（図6、20-5・写真図版5、23-5）

調査区北半・3Bグリッドに位置する。IV層上面で検出した。削平により形成面は失われたものと思われる。土器は口縁部と底部を欠いており、開口部27×23cm、底部21×22cm、深さ9cmの円筒状の土坑にはほぼ直立した状態で埋設されている。土坑の埋土はバミスを僅かに含む暗褐色土の単層である。遺物は埋設されていた土器1点である。

＜遺物・時期＞土器から、縄文時代後期前葉の遺構と考えられる。

### ④集石遺構

#### 1号集石遺構（図6、20-6・写真図版5、23-6）

調査区北半中央・3Cグリッドに位置する。IV層上面で検出した。14~28cmの砾を数個椭円状に集石したような状態のものである。規模は120×78cmを測る。集石の下部に土坑等の施設は伴っていない。

＜遺物・時期＞上位から削摺器1点を出土しているが、時期を決定できるような手掛かりを欠くため、詳細は不明である。

### ⑤柱穴群（図7~9、20~21-7~37・写真図版6、23~24-7~37・表1）

調査区全域から柱穴及び柱穴状小ピットを含む232基を検出した。規模は様々であるが、径40~50cm、深さ50~80cm前後のものが多い。このうち深さ1m以上の柱穴は北側に分布が集中している。平面形は円形や不整な椭円形を呈する。これらの柱穴の中で最も深いものは116cmを測る。当時の構築面はさらに上位であったことを考えると、柱穴の一部（PP3, PP10, PP25, PP43及びPP183, PP200, PP216, PP223）は上部の削平によりプランを確認できなかった住居跡、及び建物跡を構成するものと考えられる。

＜遺物・時期＞埋土から縄文時代後期の土器片を出土するものがある。出土遺物及び検出面から、縄文時代後期初頭のものと考えられる。

### ⑥溝跡

#### 1号溝跡（図10・写真図版7）

調査区中央部・2C~5Cグリッドに位置する。II層上面で検出した。規模は上端幅15~95cm、深さ7.5~23cmで、全長は20.5mに及ぶ。埋土は2層に大別され、上位は黒褐色土、下位は小砾を含む黒褐色土主体で構成される。この溝の東側はさらにのびていくと思われる。

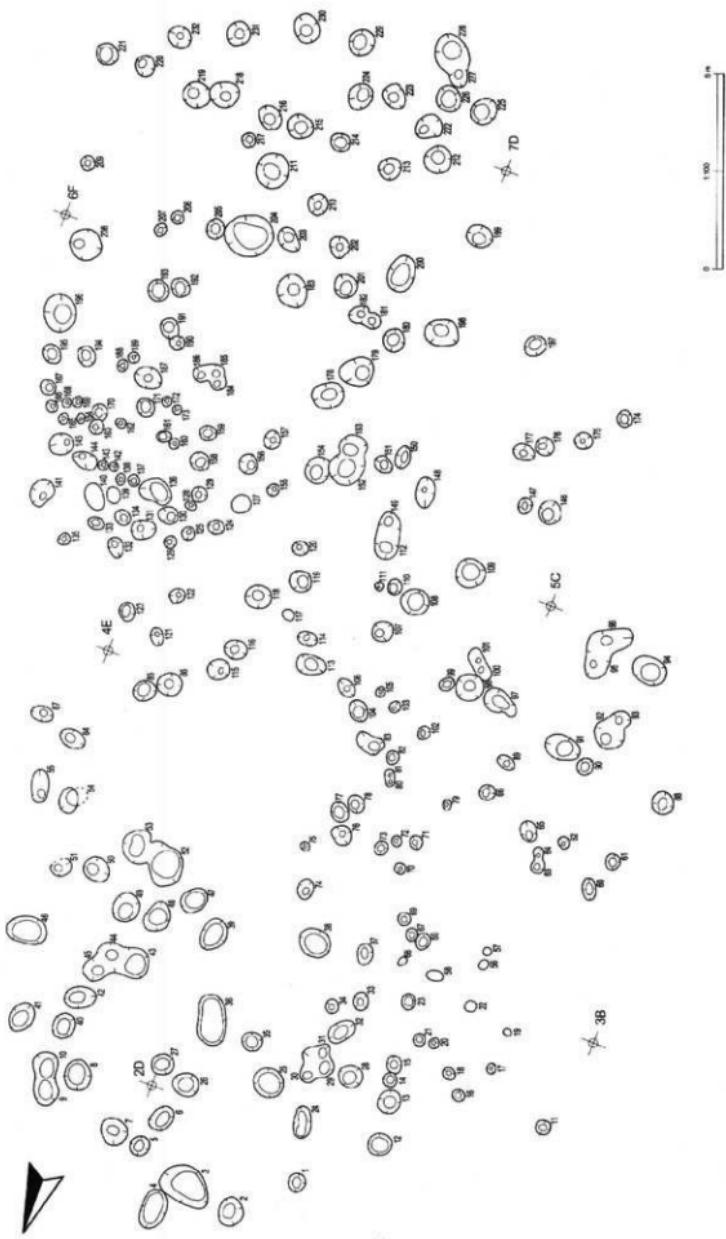
＜遺物・時期＞溝跡の時期を決定するような遺物を伴わないため、形成・使用の時代及び用途など詳細については不明である。

柱穴観察表①(表1)

No	位置	規模	深さ	No	位置	規模	深さ	No	位置	規模	深さ
1	1 C	45×43	7	42	2 D	55×75	33	83	4 C	45×70	41
2	1 C	70×70	31	43	2 D	80×83	103	84	3 D	43×70	24
3	1 C	85×130	109	44	2 D	55×80	65	85	3 D	55×55	13
4	1 C	105×65	71	45	2 D	76×62	73	86	3 D	63×65	93
5	1 C	55×46	28	46	2 D	70×100	45	87	3 E	40×50	30
6	1 C	70×57	45	47	2 D	70×55	99	88	4 B	60×52	34
7	1 D	67×73	22	48	2 D	75×62	65	89	4 B	30×45	6
8	1 D	75×71	72	49	2 D	70×70	70	90	4 B	38×45	24
9	1 D	65×70	116	50	2 D	60×65	58	91	4 B	56×95	35
10	1 D	75×75	101	51	2 D	55×55	31	92	4 B	75×75	49
11	2 B	32×43	22	52	3 D	105×85	54	93	4 B	55×55	43
12	2 B	55×65	45	53	3 D	83×83	59	94	4 B	70×92	1
13	2 B	60×55	46	54	3 D	65×60	102	95	4 B	125×60	56
14	2 B	35×35	32	55	3 E	80×48	21	96	4 B	125×65	38
15	2 B	44×44	31	56	3 B	30×30	16	97	4 C	58×82	17
16	2 B	25×30	7	57	欠番			98	4 C	67×68	45
17	2 B	25×20	12	58	3 B	20×45	—	99	4 C	38×36	34
18	2 B	25×26	10	59	3 B	35×36	14	100	4 C	40×55	30
19	2 B	20×22	5	60	3 B	50×35	20	101	4 C	50×45	—
20	2 B	40×38	3	61	3 B	35×33	23	102	4 C	32×35	33
21	2 B	40×40	15	62	3 B	22×30	10	103	4 C	30×25	20
22	2 B	33×33	21	63	3 B	33×37	15	104	4 C	50×50	24
23	2 B	38×42	13	64	3 B	26×29	17	105	4 C	30×30	20
24	2 C	43×80	42	65	3 B	45×47	18	106	4 C	40×45	25
25	2 C	65×77	84	66	3 B	35×40	27	107	4 C	48×52	58
26	2 C	52×67	65	67	3 C	30×28	22	108	4 C	65×75	80
27	2 C	50×55	60	68	欠番			109	4 C	75×75	23
28	2 C	50×58	22	69	3 C	30×30	15	110	4 C	39×39	36
29	2 C	40×42	30	70	3 C	25×28	31	111	4 C	20×20	23
30	2 C	48×45	26	71	3 C	33×33	16	112	4 C	60×60	28
31	2 C	41×37	30	72	3 C	25×25	18	113	4 D	52×75	65
32	2 C	78×50	31	73	3 C	30×30	27	114	4 D	34×44	13
33	2 C	44×39	7	74	3 C	35×49	27	115	4 D	57×57	43
34	2 C	34×27	39	75	3 C	19×22	13	116	4 D	52×51	74
35	2 C	40×44	24	76	3 C	50×53	38	117	4 D	27×33	—
36	2 C	70×135	99	77	3 C	50×50	30	118	4 D	62×65	25
37	2 C	50×45	27	78	3 C	42×45	30	119	4 D	52×56	70
38	2 C	68×80	88	79	3 C	25×20	3	120	4 D	35×40	18
39	2 C	80×65	55	80	3 C	23×20	1	121	4 D	40×25	13
40	2 D	65×55	47	81	3 C	20×18	25	122	4 D	38×42	69
41	2 D	70×58	76	82	3 C	32×30	5	123	4 D	45×40	9

No	位置	規模	深さ	No	位置	規模	深さ	No	位置	規模	深さ
124	4 D	35×39	26	161	5 E	30×35	13	198	6 D	65×40	30
125	4 D	30×30	42	162	5 E	25×26	16	199	6 D	55×70	56
126	4 D	31×32	77	163	5 E	35×37	31	200	6 D	92×68	51
127	4 D	41×29	36	164	5 E	20×20	14	201	6 D	52×50	28
128	4 D	20×34	9	165	5 E	30×20	13	202	6 D	47×52	35
129	4 D	37×38	60	166	5 E	25×25	12	203	6 D	55×50	35
130	4 D	43×50	46	167	5 E	38×42	17	204	6 E	107×120	32
131	4 E	50×50	36	168	5 E	25×25	20	205	6 E	47×50	15
132	4 E	50×30	12	169	5 E	28×23	17	206	6 E	34×33	—
133	4 E	25×40	12	170	5 E	45×45	18	207	6 E	30×30	—
134	4 E	37×35	36	171	5 E	45×45	22	208	5 E	75×80	57
135	4 E	25×26	14	172	5 E	25×25	11	209	6 E	35×35	20
136	4 E	57×83	29	173	5 E	20×20	9	210	6 D	47×47	44
137	4 E	31×30	15	174	6 D	35×45	44	211	6 E	90×85	67
138	4 E	19×28	19	175	5 C	39×43	17	212	6 D	75×70	31
139	4 E	35×35	20	176	5 C	45×50	23	213	6 D	55×50	53
140	4 E	50×50	22	177	5 C	36×56	24	214	6 D	45×50	46
141	4 E	68×55	25	178	5 D	83×72	47	215	6 E	63×70	75
142	4 E	24×25	22	179	5 D	85×80	44	216	6 E	55×65	60
143	4 E	22×24	18	180	5 D	50×45	22	217	6 E	35×30	19
144	4 E	42×67	18	181	6 D	40×40	19	218	6 E	63×70	65
145	4 E	52×58	6	182	6 D	40×53	21	219	6 E	70×65	24
146	5 C	60×60	39	183	6 D	80×70	59	220	6 E	53×53	24
147	5 C	40×33	34	184	5 D	40×40	—	221	6 F	53×55	15
148	5 C	75×55	33	185	5 D	45×45	—	222	7 D	65×77	30
149	5 C	60×60	17	186	5 E	45×50	—	223	7 D	60×65	68
150	5 C	57×40	37	187	5 E	50×72	24	224	7 D	60×60	59
151	5 C	44×52	25	188	5 E	35×30	14	225	7 D	67×60	52
152	5 D	95×80	48	189	5 E	25×27	20	226	7 D	65×65	34
153	5 D	55×75	68	190	5 E	30×40	14	227	7 D	55×42	44
154	5 D	66×64	72	191	5 E	45×46	9	228	7 D	95×90	41
155	5 D	30×28	29	192	5 E	46×49	62	229	7 D	65×60	39
156	5 D	42×48	88	193	5 E	55×56	9	230	7 E	70×75	79
157	5 D	45×45	72	194	5 E	48×50	11	231	7 E	62×63	33
158	5 D	40×50	55	195	5 E	45×52	17	232	7 E	50×55	57
159	5 D	40×40	10	196	5 E	97×93	86				
160	5 E	25×25	18	197	6 C	45×55	27				

図7 柱穴配置図



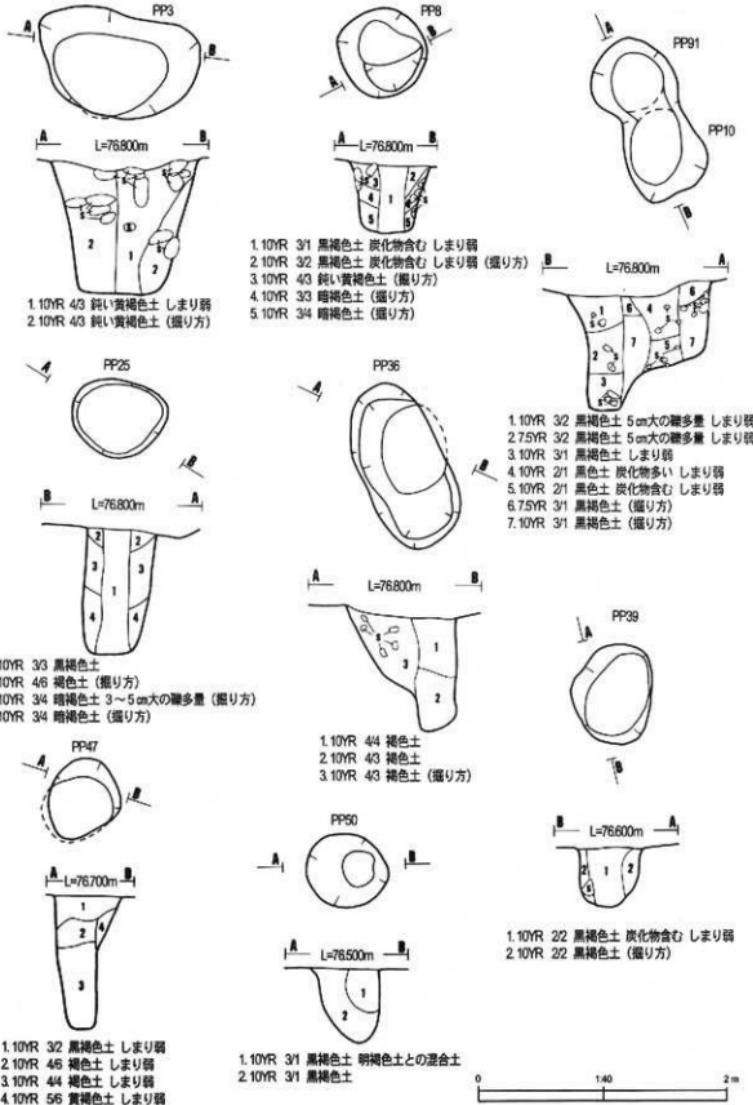
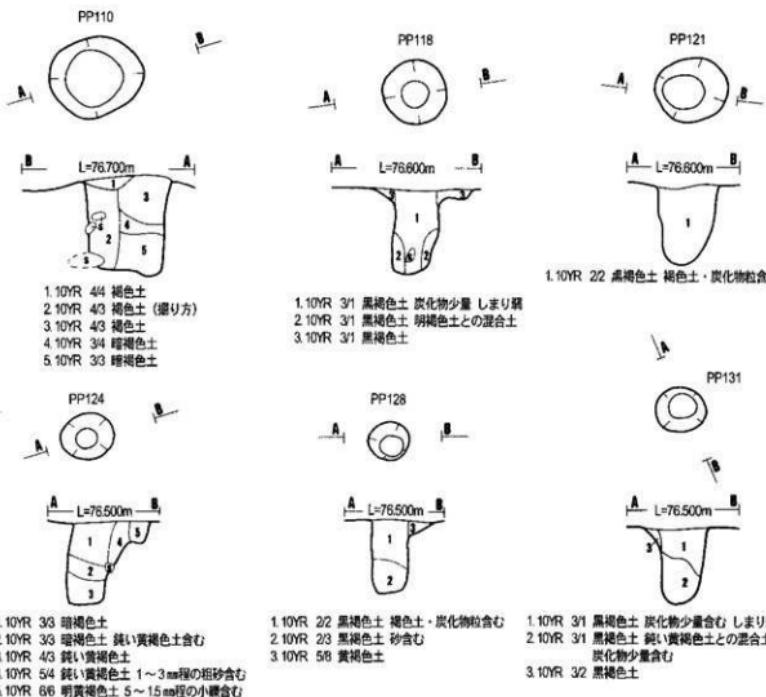


図8 柱穴 (1)



0 140 2m

図9 柱穴 (2)

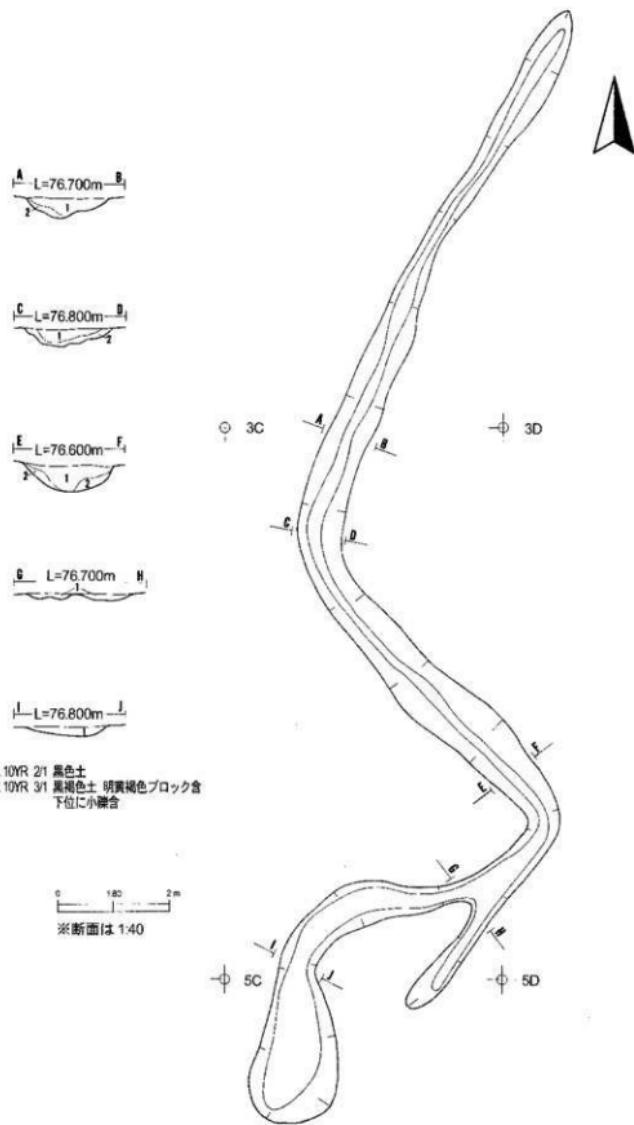


図10 1号溝跡

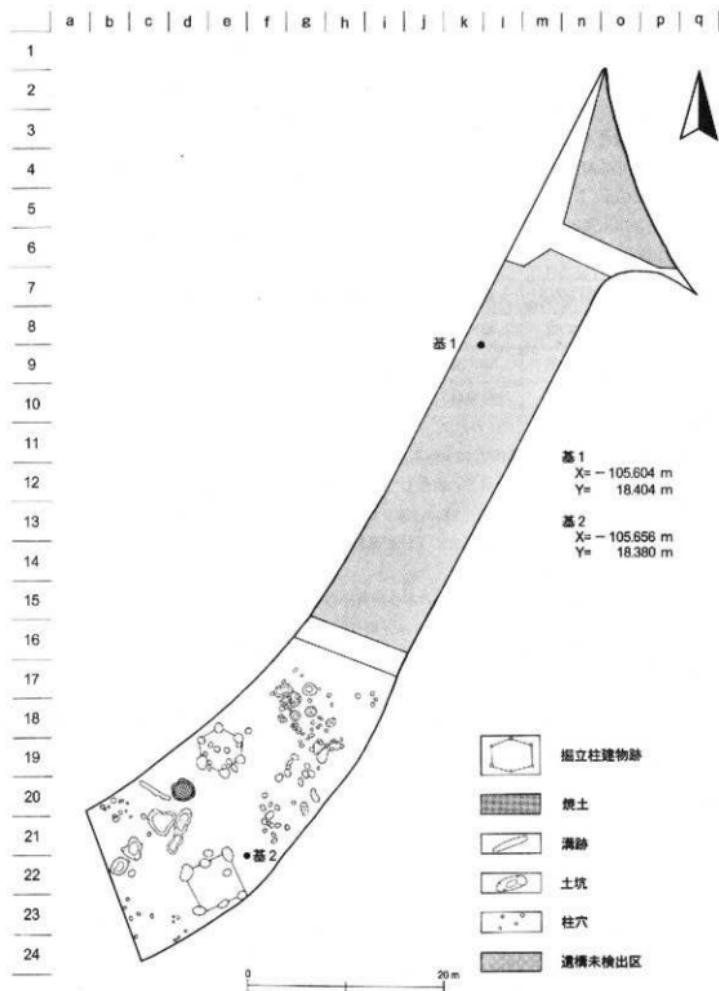


図 11 上寺田遺跡遺構配置図（平成 10 年度）

(2) 平成10年度遺構と遺物

①掘立柱建物跡

RB01 掘立柱建物跡（図12・写真図版10・写真図版11）

調査区南側：22 d・22 e・23 d・23 e グリッドに位置している。調査区南側は礫に覆われており、それを取り除きながらIV層で6穴の柱穴を検出した。柱穴の規模は、開口部径が56～118cm、底部径が30～56cm、深さが90～100cm、平面形は円形または楕円形に近い形をしている。埋土は上位が黒褐色土・暗褐色土、下位が褐色土主体で構成される。何れの柱穴内でも柱痕を確認できなかった。

6穴による桁行2間×梁行1間の建物跡で、六本柱長方形の配置となっている。柱間は桁行でA-B:210cm、C-D:250cm、D-E:210cm、E-F:240cm、梁行でA-F:440cm、C-D:420cmである。

＜遺物・時期＞出土遺物はなく周辺の出土遺物から、縄文時代後期初頭～前葉の遺構と考えられる。

RB01 柱穴表

No	開口部径 cm	底部径 cm	深さ cm	No	開口部径 cm	底部径 cm	深さ cm
A	72×62	40×36	95	D	82×68	35×30	98
B	86×56	46×38	100	E	80×68	52×36	97
C	74×72	44×41	90	F	118×82	56×42	100

RB02 掘立柱建物跡（図13・写真図版12・写真図版13）

調査区南側：18 e・19 d・19 e グリッドに位置している。IV層上面で6穴の柱穴を検出した。柱穴の規模は、開口部径が58～110cm、底部径が30～54cm、深さが50～63cm、平面形は円形または楕円形に近い形をしている。埋土は上位が黒褐色土・暗褐色土、下位が褐色土主体で構成される。何れの柱穴内でも柱痕を確認できなかった。

6穴による桁行2間×梁行1間の建物跡で六本柱六角形の配置となっている。柱間は桁行でA-E:220cm、A-C:230cm、B-D:270cm、D-F:210cm、梁行でB-E:240cm、C-F:210cmである。

＜遺物・時期＞出土遺物はなく周辺の出土遺物から、縄文時代後期初頭～前葉の遺構と考えられる。

RB02 柱穴表

No	開口部径 cm	底部径 cm	深さ cm	No	開口部径 cm	底部径 cm	深さ cm
A	100×90	42×40	57	D	98×90	54×44	63
B	110×98	50×36	62	E	72×58	36×30	53
C	90×82	45×34	58	F	90×88	54×44	50

②土坑

登録した土坑は20基である。整理中に登録を抹消し、欠番となったものもある。

9号土坑（図14、27-115・116、写真図版13、28）

調査区南側・21 c グリッドに位置している。IV層上面で検出した。開口部径200×120cm、底部径128×86cmの楕円形を呈する。深さは最深部で30cmである。壁は底面から緩やかに立ち上がり、断面形は皿状をなす。埋土は6層に細分され、黒褐色土・暗褐色土主体で構成される。底面に2～10cmの礫を多く含む。

＜遺物・時期＞後期前葉の土器片が出土しており、縄文時代後期前葉の遺構と考えられる。

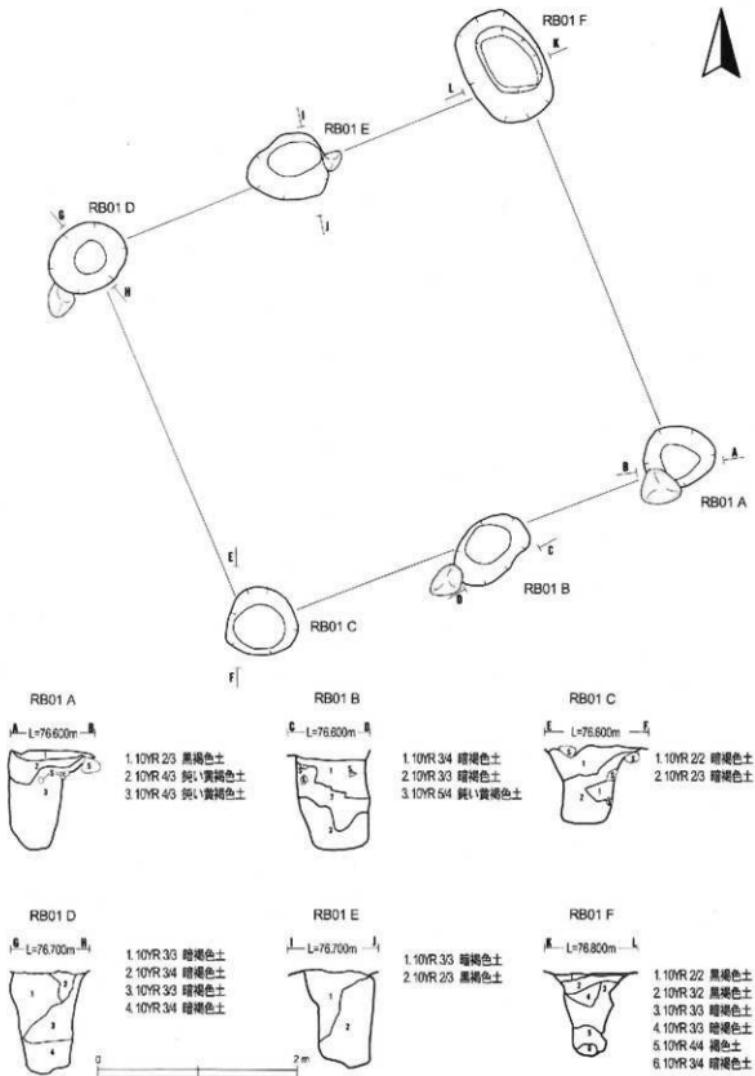
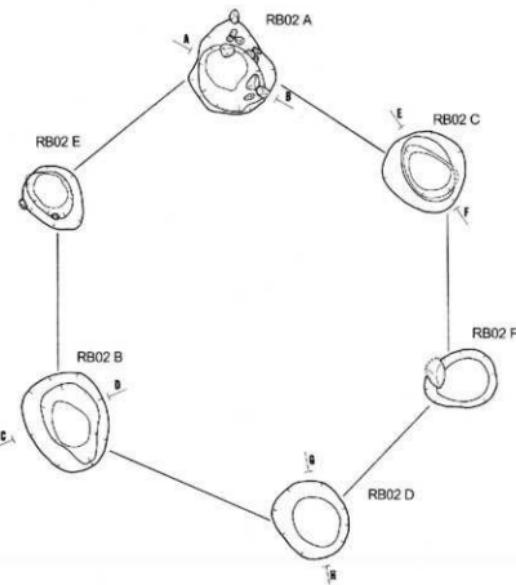


図 12 RB01 掘立柱建物跡



RB02 A



1. 10YR 3/4 緑褐色土  
 2. 10YR 3/3 増褐色土  
 3. 10YR 3/4 増褐色土  
 4. 10YR 3/4 緑褐色土 腐化物少量含む  
 5. 10YR 4/6 褐色土

RB02 B



1. 10YR 3/4 黒褐色土 腐化物・1cm程の小礫少量含む  
 2. 10YR 3/4 黑褐色土  
 3. 10YR 3/3 增褐色土  
 4. 10YR 3/4 增褐色土  
 5. 10YR 3/4 緑褐色土 1cm程の小礫少量含む  
 6. 10YR 3/4 增褐色土

RB02 C



1. 10YR 3/4 黑褐色土 黄褐色土がブロックで含む  
 2. 10YR 3/3 增褐色土  
 3. 10YR 4/4 褐色土と黄褐色土の混合土  
 4. 10YR 3/4 緑褐色土 腐化物・1cm程の小礫少量含む  
 5. 10YR 4/4 褐色土  
 6. 10YR 4/6 褐色土

RB02 D



1. 10YR 3/4 緑褐色土  
 2. 10YR 2/3 黑褐色土 腐化物・1cm程の小礫少量含む  
 3. 10YR 3/3 增褐色土 3cm程の礫多く含む  
 4. 10YR 3/4 緑褐色土 3cm程の礫多く含む  
 5. 10YR 4/4 褐色土



図 13 RB02 挖立柱建物跡

#### 10号土坑（図14・写真図版14）

調査区南側・22 b グリッドに位置している。IV層上面で検出した。開口部径 220 × 160 cm、底部径 108 × 68 cm の楕円形を呈する。深さは最深部で 40 cm である。壁は底面から緩く湾曲して立ち上がり、断面形は楕形をなす。埋土は 2 層に大別され、暗褐色土主体で構成される。底面に 3 cm 程の礫を含む。

＜遺物・時期＞出土遺物はないが、周辺の出土遺物から、縄文時代後期初頭～前葉の遺構と考えられる。

#### 11号土坑（図14、27-117～120、写真図版14、28）

調査区南側・21 c グリッドに位置している。IV層上面で検出した。開口部径 270 × 220 cm、底部径 233 × 210 cm の楕円形を呈する。深さは最深部で 30 cm である。壁は底面から緩やかに立ち上がり、断面形は皿状をなす。埋土は黒色土の単層で、底面に 10 cm 程の礫を含む。

＜遺物・時期＞後期前葉の土器片が出土しており、縄文時代後期前葉の遺構と考えられる。

#### 13号土坑（図14、27-121～123、写真図版14、28）

調査区南側・21 d グリッドに位置している。IV層上面で検出した。開口部径 200 × 90 cm、底部径 176 × 50 cm の楕円形を呈する。深さは最深部で 40 cm である。壁は底面から直立気味に立ち上がり、断面形は皿状をなす。埋土は 6 層に細分され、黒褐色土・暗褐色土・褐色土主体で構成される。

＜遺物・時期＞後期前葉の土器片が出土しており、縄文時代後期前葉の遺構と考えられる。

#### 14号土坑（図15・写真図版14）

調査区南側・21 d グリッドに位置している。IV層上面で検出した。開口部径 190 × 140 cm、底部径 90 × 86 cm の楕円形を呈する。深さは最深部で 40 cm である。壁は底面から緩やかに外傾して立ち上がり、断面形は皿状をなす。埋土は 3 層に大別され、暗褐色土・褐色土主体で構成される。

＜遺物・時期＞出土遺物はないが、周辺の出土遺物から、縄文時代後期初頭～前葉の遺構と考えられる。

#### 16号土坑（図15、27-124～125、写真図版15、28）

調査区中央部・19 g グリッドに位置している。IV層上面で検出した。開口部径 140 × 100 cm、底部径 128 × 102 cm の楕円形を呈する。深さは最深部で 30 cm である。壁は底面から外傾して立ち上がり、断面形は楕形をなす。埋土は 3 層に大別され、暗褐色土主体で構成される。

＜遺物・時期＞後期前葉の土器片が出土しており、縄文時代後期前葉の遺構と考えられる。

#### 17号土坑（図15、27-126～128、28-129、写真図版15、28）

調査区中央部・18 g グリッドに位置している。IV層上面で検出した。開口部径 90 × 90 cm、底部径 106 × 52 cm の円形を呈する。深さは最深部で 30 cm である。壁は底面から緩く湾曲して立ち上がり、断面形は皿状をなす。埋土は黒褐色土の単層で、埋土に 10 cm 程の礫を含む。

＜遺物・時期＞後期前葉の土器片が出土しており、縄文時代後期前葉の遺構と考えられる。

#### 18号土坑（図15、28-130～133、写真図版15、28）

調査区中央部・18 g グリッドに位置している。IV層上面で検出した。開口部径 96 × 92 cm、底部径 72 ×

60cmの円形を呈する。深さは最深部で20cmである。壁は底面から緩く湾曲して立ち上がり、断面形は楕形をなす。埋土は2層に大別され黒褐色土・黄褐色土主体で構成され、埋土に10cm程の礫を含む。

<遺物・時期>後期前葉の土器片が出土しており、縄文時代後期前葉の遺構と考えられる。

#### 19号土坑（図15、28-134～136、写真図版15、28）

調査区中央部・17fグリッドに位置している。IV層上面で検出した。開口部径94×92cm、底部径80×76cmの円形を呈する。深さは最深部で30cmである。壁は底面から緩く湾曲して立ち上がり、断面形は楕形をなす。埋土は3層に細分され黒褐色土・暗褐色土・褐色土主体で構成され、埋土に10cm程の礫を含む。

<遺物・時期>後期前葉の土器片が出土しており、縄文時代後期前葉の遺構と考えられる。

#### 20号土坑（図15・写真図版16）

調査区中央部・17fグリッドに位置している。IV層上面で検出した。開口部径106×96cm、底部径114×94cmの楕円形を呈する。深さは最深部で20cmである。壁は底面から緩やかに立ち上がり、断面形は皿状をなす。埋土は3層に細分され黒褐色土主体で構成される。底面に1cm程の礫を含む。

<遺物・時期>出土遺物はないが、縄文時代後期初頭～前葉の遺構であると考える。

#### 21号土坑（図15、28-137、29-138～140、写真図版16、28、30）

調査区中央部・17gグリッドに位置している。IV層上面で検出した。開口部径120×100cm、底部径68×38cmの楕円形を呈する。深さは最深部で20cmである。壁は底面から緩く湾曲して立ち上がり、断面形は皿状をなす。埋土は2層に大別され黒褐色土・褐色土主体で構成され、埋土に10cm程の礫を含む。

<遺物・時期>後期前葉の土器片が出土しており、縄文時代後期前葉の遺構と考えられる。

#### 22号土坑（図15、29-141～146、写真図版16、28）

調査区中央部・17gグリッドに位置している。IV層上面で検出した。開口部径124×116cm、底部径62×56cmの円形を呈する。深さは最深部で20cmである。壁は底面から緩く湾曲して立ち上がり、断面形は皿状をなす。埋土は2層に大別され黒褐色土・暗褐色土主体で構成される。底面には1cm程の礫を少量含む。

<遺物・時期>後期前葉の土器片が出土しており、縄文時代後期前葉の遺構と考えられる。

#### 23号土坑（図15・写真図版16）

調査区中央部・18hグリッドに位置している。IV層上面で検出した。開口部径80×70cm、底部径72×54cmの楕円形を呈する。深さは最深部で20cmである。壁は底面から湾曲して立ち上がり、断面形は皿状をなす。埋土は2層に大別され黒褐色土・褐色土主体で構成される。

<遺物・時期>出土遺物はないが、周辺の出土遺物から、縄文時代後期初頭～前葉の遺構と考えられる。

#### 24号土坑（図16）

調査区中央部・19hグリッドに位置している。IV層上面で検出した。規模は長軸80cm・短軸80cmの円形を呈する。深さは最深部で15cmである。壁は底面から緩やかに立ち上がり、断面形は皿状をなす。埋土は2層に大別され黒褐色土・暗褐色土主体で構成される。（平面図なし）

<遺物・時期>出土遺物はなく周辺の出土遺物から、縄文時代後期初頭～前葉の遺構と考えられる。

#### 25号土坑（図16）

調査区中央部・19 g グリッドに位置している。IV層上面で検出した。規模は長軸160cm・短軸60cmの楕円形を呈する。深さは最深部で30cmである。壁は底面からやや外傾して立ち上がり、断面形は椀形をなす。埋土は黒褐色土の単層である。（平面図なし）

<遺物・時期>出土遺物はないが、周辺の出土遺物から、縄文時代後期初頭～前葉の遺構と考えられる。

#### 26号土坑（図16・写真図版17）

調査区中央部・18 g グリッドに位置している。IV層上面で検出した。開口部径90×70cm、底部径38×34cmの楕円形を呈する。深さは最深部で20cmである。壁は底面から緩く湾曲して立ち上がり、断面形は皿状をなす。埋土は2層に大別され黒褐色土・主体で構成される。

<遺物・時期>出土遺物はないが、周辺の出土遺物から、縄文時代後期初頭～前葉の遺構と考えられる。

#### 27号土坑（図16・写真図版17）

調査区中央部・18 f グリッドに位置している。IV層上面で検出した。開口部径120×60cm、底部径100×48cmの楕円形を呈する。深さは最深部で20cmである。壁は底面から緩く湾曲して立ち上がり、断面形は皿状をなす。埋土は3層に細分され黒褐色土・黄褐色土・主体で構成される。

<遺物・時期>出土遺物はないが、周辺の出土遺物から、縄文時代後期初頭～前葉の遺構と考えられる。

#### 28号土坑（図16・写真図版17）

調査区中央部・18 f グリッドに位置している。IV層上面で検出した。開口部径80×60cm、底部径46×44cmの楕円形を呈する。深さは最深部で30cmである。壁は底面から緩く湾曲して立ち上がり、断面形は皿状をなす。埋土は4層に細分され、黒褐色土・主体で構成されている。埋土には10cm程の礫が含まれている。

<遺物・時期>出土遺物はないが、周辺の出土遺物から、縄文時代後期初頭～前葉の遺構と考えられる。

#### 29号土坑（図16）

調査区南側・20 d グリッドに位置している。IV層上面で検出した。開口部径140×100cm、底部径98×90cmの楕円形を呈する。深さは最深部で55cmである。壁は底面からやや外傾して立ち上がり、断面形は椀形をなす。埋土は3層に細分され黒褐色土・褐色土・暗褐色土・主体で構成される。

<遺物・時期>出土遺物はないが、周辺の出土遺物から、縄文時代後期初頭～前葉の遺構と考えられる。

#### 30号土坑（図16・写真図版17）

調査区南側・20 g グリッドに位置している。IV層上面で検出した。開口部径120×100cm、底部径18×14cmの楕円形を呈する。深さは最深部で20cmである。壁は底面からやや外傾して立ち上がり、断面形は椀形をなす。埋土は3層に細分され、黒褐色土・暗褐色土・主体で構成される。

<遺物・時期>出土遺物はないが、周辺の出土遺物から、縄文時代後期初頭～前葉の遺構と考えられる。

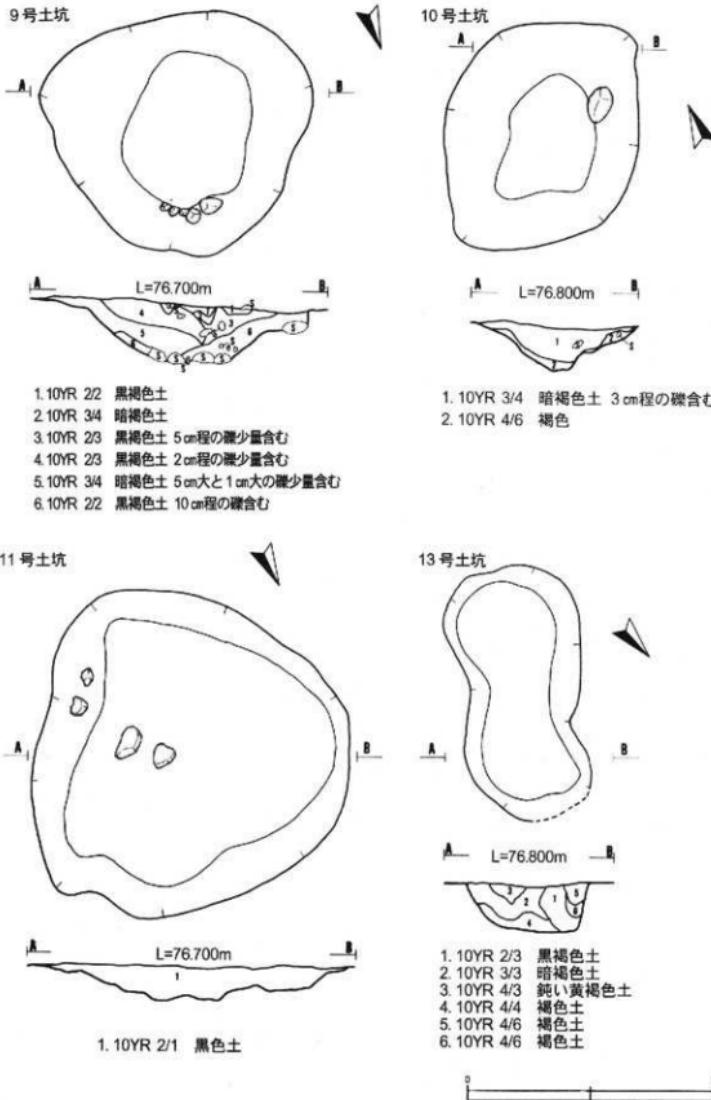


図 14 土 坑 (1)

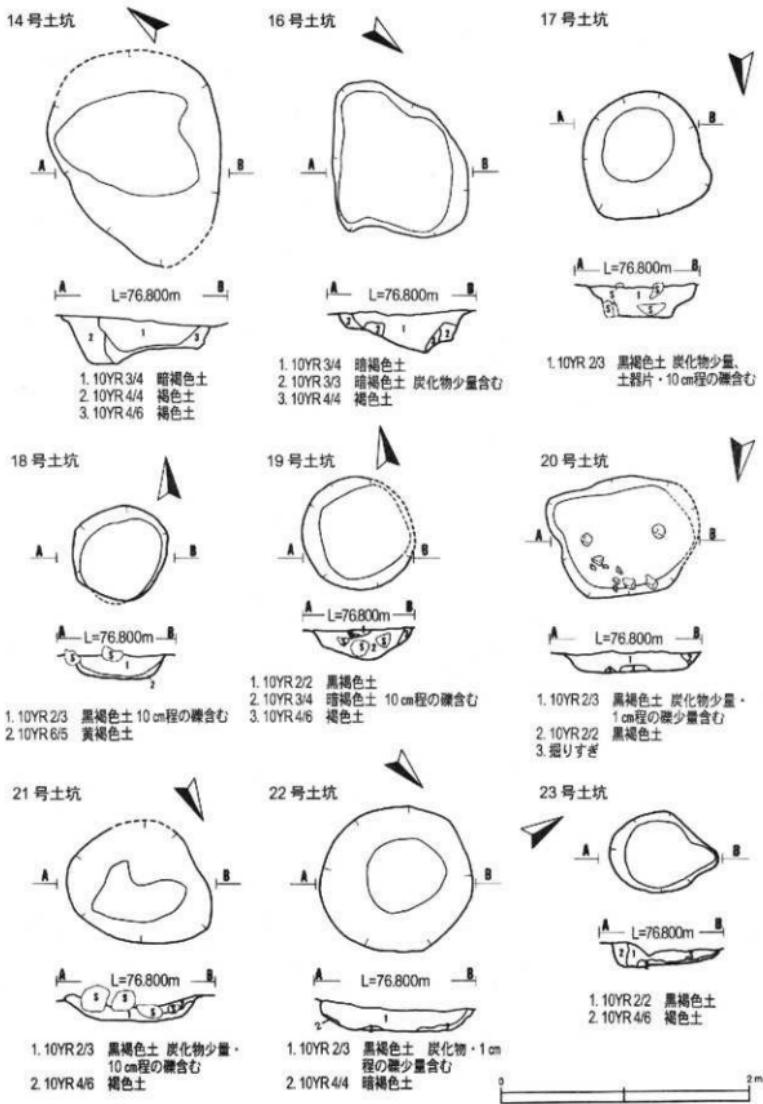


図15 土坑 (2)

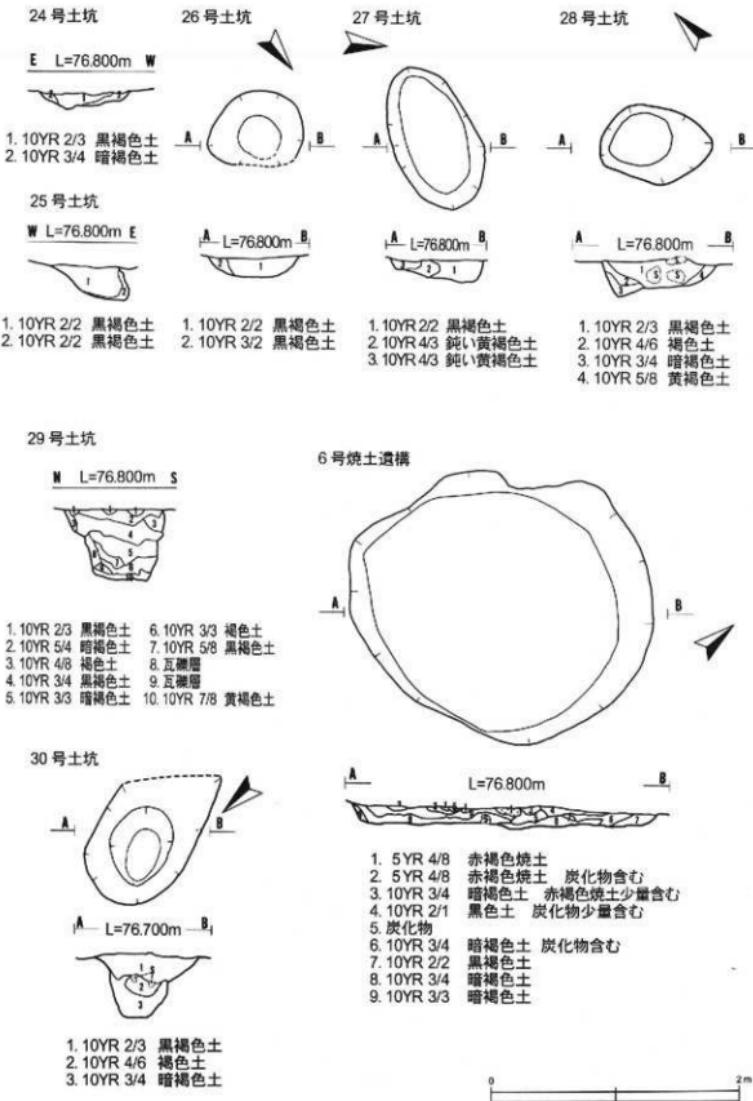


図 16 土坑(3)・焼土遺構

### ③焼土遺構

#### 6号焼土遺構（図16、29-141~150、写真図版18、28）

調査区南側・20 d グリッドに位置している。IV層上面で検出した。220×210cmの範囲に分布する現地性焼土である。層厚は最大5cm程である。断面は9層に細分され、上位は赤褐色焼土、中位は炭化物、下位は暗褐色土主体で構成されている。

＜遺物・時期＞後期前葉の土器片が出土しており、縄文時代後期前葉の遺構と考えられる。

### ④柱穴群（図17-18・19・20・21・22・表2）

調査区中央部から南側にかけて111基の柱穴が分布している。規模は様々であるが、径30~80cm、深さ20~50cm前後のものが多い。平面形は円形や椭円形に近い形をしている。このうち南側に分布している深さ1m前後の柱穴については、規模と配置から掘立柱建物跡（RB01, RB02）と考えられる。その他の柱穴については建物を想定するには至らなかった。

＜遺物・時期＞柱穴群を取り巻くようにして、縄文時代後期初頭～前葉の土器片や石器が出土している。

### ⑤溝跡

#### 2号溝跡（図19・写真図版22）

調査区南側・20 c グリッドに位置している。IV層上面で検出した。規模は上端幅32~48cm、深さ7~15cm、全長約3.6mで、埋土は黒褐色土の単層で、底面に小礫を含む。

＜遺物・時期＞周辺の出土遺物から、縄文時代後期初頭～前葉の遺構と考えられる。

#### 3号溝跡（図19・写真図版22）

調査区南側・20 g グリッドに位置する。IV層上面で検出した。規模は上端幅48~64cm、深さ約15cm、全長約1.4mで、埋土は暗褐色土の単層で、底面小礫を含む。

＜遺物・時期＞周辺の出土遺物から、縄文時代後期初頭～前葉の遺構と考えられる。

柱穴観察表②(表2)

No	位置	規模cm	深さcm	No	位置	規模cm	深さcm	No	位置	規模cm	深さcm
233	23 b	40×48	20	270	20 f	100×60	38	307	18 g	20×16	20
234	23 b	40×32	10	271	20 f	44×32	30	308	18 g	32×30	54
235	24 c	70×35	5	272	20 f	64×36	23	309	18 g	34×30	13
236	23 b	80×32	25	273	20 f	32×30	29	310	18 g	26×20	13
237	23 c	50×30	20	274	20 f	44×40	38	311	17 g	24×23	9
238	23 c	70×26	15	275	20 g	32×30	22	312	18 g	40×38	17
239	24 d	50×23	15	276	20 g	72×42	30	313	18 g	24×20	38
240	24 d	40×20	10	277	19 g	74×62	22	314	18 g	24×22	41
241	23 d	40×28	15	278	19 g	78×62	51	315	18 g	22×16	4
242	23 d	50×22	20	279	19 g	38×28	40	316	18 g	18×16	26
243	23 d	30×20	10	280	19 g	60×48	23	317	18 g	16×12	11
244	23 d	40×32	30	281	19 f	84×62	34	318	18 g	26×18	10
245	20 b	40×25	7	282	19 g	70×50	34	319	18 f	32×26	11
246	20 b	20×10	6	283	19 g	40×30	24	320	18 f	50×48	50
247	21 b	23×21	9	284	19 g	50×36	12	321	18 f	30×26	30
248	20 b	16×13	12	285	19 g	70×46	63	322	18 g	32×22	36
249	21 b	42×22	10	286	19 e	84×48	25	323	17 f	34×28	27
250	21 b	20×16	12	287	19 e	44×40	21	324	17 g	50×22	23
251	20 b	36×19	6	288	19 e	52×40	28	325	17 g	26×12	18
252	20 b	58×36	6	289	18 e	52×48	24	326	18 h	20×18	15
253	20 b	28×15	15	290	19 e	40×40	17	327	17 f	32×24	27
254	20 b	16×11	8	291	19 e	56×54	40	328	18 g	36×26	25
255	20 b	19×11	5	292	19 e	50×48	20	329	19 g	26×24	17
256	20 b	15×10	14	293	19 d	40×30	45	330	19 g	24×24	12
257	21 b	27×24	10	294	19 e	52×50	24	331	19 g	36×26	43
258	21 c	44×34	12	295	19 e	34×26	19	332	19 g	42×40	21
259	22 b	64×35	7	296	19 e	24×24	10	333	19 h	20×20	23
260	21 f	53×40	8	297	19 g	20×16	17	334	19 h	40×34	25
261	22 e	70×50	32	298	19 g	20×16	18	335	19 h	28×22	13
262	21 d	60×44	20	299	18 g	24×21	4	336	19 h	10×8	14
263	21 f	42×26	24	300	18 g	26×20	19	337	19 h	28×22	17
264	21 f	28×26	16	301	18 g	40×34	15	338	19 h	36×30	20
265	21 f	44×36	26	302	18 g	28×22	15	339	19 h	40×30	16
266	21 f	54×32	23	303	18 g	28×26	29	340	17 h	50×44	14
267	21 f	40×42	31	304	18 g	26×20	12	341	17 i	28×24	7
268	21 f	24×22	20	305	18 g	23×20	35	342	18 i	34×26	51
269	21 f	56×44	24	306	18 g	18×16	15	343	18 i	34×28	18

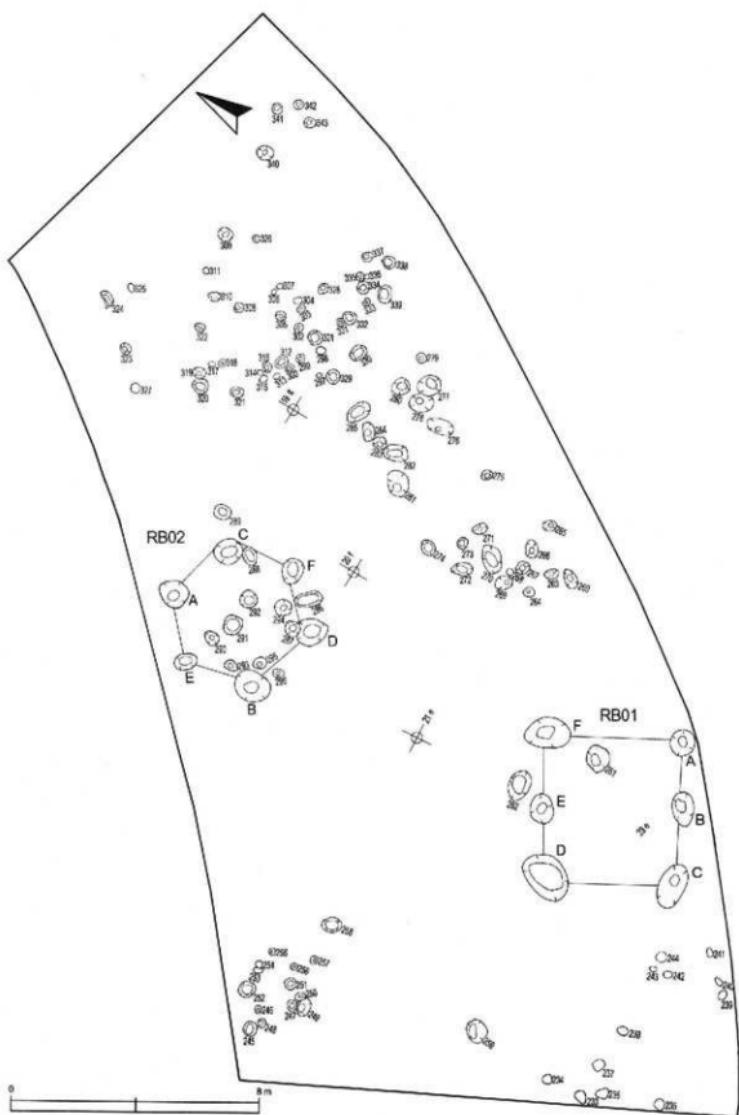


图 17 柱穴配置图

PP233



1. 10YR 2/3 黑褐色土  
2. 10YR 4/4 褐色土

PP234



1. 10YR 2/3 黑褐色土

PP236



1. 10YR 3/4 暗褐色土  
2. 10YR 3/3 暗褐色土  
3. 10YR 3/3 暗褐色土  
4. 10YR 4/6 褐色土  
5. 10YR 4/4 褐色土

PP237



1. 10YR 3/4 黑褐色土  
2. 10YR 4/4 褐色土

PP239



1. 10YR 2/3 黑褐色土

PP241



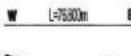
1. 10YR 2/3 黑褐色土

PP242



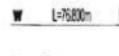
1. 10YR 2/3 黑褐色土

PP282



1. 10YR 3/4 暗褐色土  
2. 10YR 4/6 褐色土

PP285



1. 10YR 3/4 暗褐色土  
2. 10YR 4/6 褐色土 小砾多く含む  
3. 10YR 7/8 黄褐色土 小砾多く含む

PP244



1. 10YR 2/3 黑褐色土

PP286



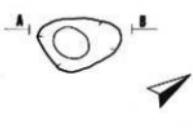
1. 10YR 3/4 暗褐色土

PP293



1. 10YR 3/4 暗褐色土 小砾少量含む  
2. 10YR 3/4 暗褐色土  
3. 10YR 4/4 褐色土 小砾少量含む  
4. 10YR 4/4 褐色土  
5. 10YR 4/6 褐色土

PP274



1. 10YR 3/4 暗褐色土  
2. 堀りすぎ



図 18 柱 穴 (1)

PP301



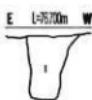
1. 10YR 3/4 暗褐色土  
2. 10YR 4/6 褐色土

PP306



1. 10YR 2/3 黑褐色土

PP307



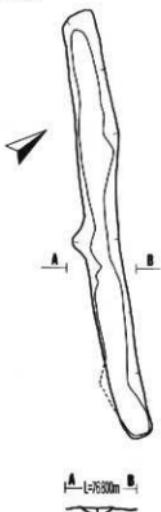
1. 10YR 2/3 黑褐色土と黄褐色土の混合土  
炭化物少量、土器片含む

PP321



1. 10YR 3/4 暗褐色土  
2. 10YR 4/6 褐色土

2号溝跡



1. 10YR 2/2 黑褐色土

3号溝跡



1. 10YR 3/4 暗褐色土 黄褐色土・炭化物少量含む



図 19 柱穴(2)、溝跡

#### 4. 出土遺物

平成9年度の調査では大コンテナ3箱分の遺物が出土した。内訳は土器・土製品・石器・石製品であるが、大半は縄文時代後期前葉の土器と考えられる。土製品は耳栓・円盤形土製品などが数点出土した。石器は磨製石斧・小型石斧などが出土している。

平成10年度の調査でも大コンテナ3箱分の遺物が出土した。内訳は土器・土製品・石器であるが、土器については一部縄文時代中期後葉と見られるものが出土しているが、大半が縄文時代後期初頭から前葉のものである。土製品では縄文時代後期初頭と思われる鏹形土製品が出土している。石器については石鎧・石斧・石匙などが出土している。

- (1) 土器<134点登録> (1~5, 7~13, 15~19, 21~67, 115~184)

縄文時代中期後葉～後期前葉と見られる土器片が出土している。これらの土器片数点のみが中期後葉で、その他のは後期初頭～前葉の土器片と考えられる。

##### ○縄文時代中期後葉の土器 (152~155)

- 152・153・154を同一個体と考えると、器面に長楕円文を主体とした文様が見られる。

##### ○縄文時代後期初頭～前葉の土器

土器の文様や器形により次のように分類した。

##### A. 平行沈線・多条沈線・多重沈線・曲線的な沈線文を施すもの

直線的な文様では、28は直線的な沈線区画文、41は2本の沈線での口縁部文様帶、55は数条の太い沈線で直線的なモチーフを描き、115は平行沈線、118は2条の直線的な太い沈線、129は隆帯から沈線がV字型に展開、133は直線的な多条沈線、134は利突を起点に3条の沈線が横位や縱位に展開、135は沈線区画から沈線がV字型に展開、136は直線的な3条沈線、149は直線的な4条沈線、158は直線的な多条沈線？、159は直線的な2条沈線、161は直線的な4条沈線、164は直線的な2条沈線、169は直線的な3条沈線、180は突起を起点に直線的な数条の沈線が展開している。曲線的な文様では、13は両側に小さな( )状沈線、16は垂下する2本の沈線区画内に連鎖状S字沈線文、17は波頂部から連鎖状S字沈線文が垂下、26は波頂部から連なる沈線文様、27は沈線によるS字状曲線、33は曲線的な2条の沈線、39は口縁部の渦巻状沈線に対応して、( )状沈線、43は沈線による渦巻状モチーフ、47は4重の弧状沈線文で( )状モチーフを描き、48は4本1単位の沈線で直線と曲線を組み合わせたモチーフを描き、49は3本1単位？の沈線で大振りな直線や曲線のモチーフを描き、115は曲線的な2条沈線、120は曲線的な3条沈線、126は( )状沈線、127は3重の弧状沈線、130は曲線的な多条沈線、132は曲線的な数条沈線、140は沈線による楕円文、142は渦巻状沈線で刺突を起点にして数条の沈線が縱位に展開、143は多重沈線、144は曲線的な多条沈線、145は2重円を構成する沈線、156は垂下する2本の沈線区画内に( )状沈線、157は沈線文、160は曲線的な多条沈線？、162は2本・4本単位で構成する沈線文、163は渦巻状沈線、165は多重の弧状沈線、166は曲線的な多条沈線？、167は曲線的な多条沈線、168は2重円を構成する沈線、176は2重の弧状沈線が描かれる。59は口縁部に太く深い沈線が数条平行して巡り、内面にも沈線による曲線的な文様を施す。

##### B. 沈線区画内に撲糸文・撲文を施したり、区画内を磨消したもの

撲糸文については、13は器面に撲糸文を施し沈線で( )状に区画、34は沈線区画内に磨消による撲糸文、53は0段rの撲糸文を施した後、沈線で( )状の区画を描き、内部を磨り消す。116は沈線区画内に撲糸文、138は沈線区画？内に撲糸文、171は沈線区画内に撲糸文を施す。撲文では25は太く明瞭な区画内に磨消縄文、40は沈線区画内に磨消によるLR縄文、46は2重沈線の区画内に磨消手法によりLR縄文、121

は太く明瞭な沈線区画内に縄文、123は沈線区画？内に縄文、147は沈線区画内に縄文が施文されている。

148・172（太く明瞭）沈線区画のみ見える。

C. 口縁部無文帯・器形が口縁部波状のもの・内湾して外反するものなど口縁部に特徴をもつもの

45は2本の隆起線で区画された幅広の無文帯、7・8・12・26・36・50・64・65・128・151・175は口縁部あるいは口唇～口縁部にかけて無文帯、17・24・26・42・45・50・53・62・65・139・140は口縁部波状、24・26・28・41・50・60・64・151・175は頭部で一旦内湾したり、口縁部にかけて外反している。126・128は口縁部が平縁である。

D. 鎮状隆線・隆蒂・（太）隆線が見られるもの

52・137はともに突起部（刺突）を起点にして隆蒂が横位に、撚糸文が縱位に展開している。鎮状隆線については5は縦位に2本の太路線、24・44は鎮状隆線が口縁の波頂部に対応して垂下、60は鎮状隆線が頭部を一周している。隆蒂・（太）隆線については62は2本の太い隆蒂状の隆起とその間の太い沈線で凹状の口縁部を形成、129・176は隆蒂を起点に沈線文様が描かれ、117・119・163は口縁部下を隆線が巡っている。

E. 器面に斜行縄文・撚糸文を施すもの

4・7・8では地文にRL？単節斜行縄文、177・178でも地文に縄文が見られた。また、125では縦位の撚糸文、179では網目状撚糸文が観察された。

F. 突起

上部に3個の盲孔、下部に貫通孔を持つ突起（141）が出土した。このような突起は新山権現社遺跡（平泉町）でも出土している。

G. 底部木葉痕

底部については31・32・131・182は木葉痕が、38・183は網代痕が見られた。

(2) 石器 94点（6, 20, 68～99, 198～257）・石製品5点（100～104）・土製品23点（14, 105～113, 185～197）を登録した。

○石器

石器については石鏃38点、削搔器41点、石匙5点、磨製石斧2点、石箇1点、磨石1点、石錘1点、UF・RF5点が出土している。

石鏃では69は1/2欠損、71は基部欠損が見られ、石匙では72・73は縦形、削搔器では6は縁辺部に浅い調整が加えられ、74はほぼ全縁に深い調整が加えられ、75は縁辺部に調整が加えられ、76はほぼ全縁に深い調整が加えられ、77はほぼ全縁に深い調整が加えられ、78は縁辺部に急斜度の深形調整、79は剥片のはば全縁にわたって急斜度の深形調整が加えられ、80は縁辺部に浅い調整、82は縁辺部に緩斜度の深形調整が加えられ、83は縁辺部に急斜度の深形調整と浅形調整、85は縁辺部に急斜度の浅形調整、86は剥片の側縁部に急斜度の浅形調整、88は粗い剥離調整、89は縁辺部に急斜度の深形調整、91はほぼ全縁にわたり深い調整が加えられ、92は縁辺の一部に刃部加工が見られ、磨製石斧では98は前面に丁寧な研磨痕が見られる。

○石製品

石製品についてはミニチャエ形石棒1点、石製円盤4点出土している。101・102は打ち欠け、103は部分研磨、104は全周研磨が見られる。

○土製品

土製品については鋸形土製品1点、耳栓1点以外はすべて土製円盤である。

## 遺物観察表（表3）

土器（H 9） 1・2・3・9・12・17・27・29・36は写真のみ掲載 114は欠番となっている。

No	出土地点	器種	部位	原体	文様の特徴
1	8号土坑	深鉢	胴部	不明	器面の磨耗著しい（写真のみ）
2	8号土坑	深鉢	胴部	不明	器面の磨耗著しい（写真のみ）
3	8号土坑	深鉢	胴部	不明	器面の磨耗著しい（写真のみ）
4	1号埋設土器	深鉢	胴部	RL?	器面磨耗 地文はRL? 単節斜行縄文
5	2号埋設土器	深鉢	胴部	不明	器面磨耗著しい 縁位に2本の太隆線

## 石器（H 9）

No	出土地点	器種	長さ	幅	厚さ	重量	備考	石質
6	1号集石上位	削搔器	3.4	4.4	0.5	9.6	縁辺部に浅い調整が加えられる	珪質頁岩（灰色）

## 土器（H 9）

No	出土地点	器種	部位	原体	文様の特徴
7	PP5	深鉢	口縁～胴部	RL	口縁部無文帯 体部に縦回転のRL単節斜行縄文
8	PP5	深鉢	胴部	RL	口縁部無文帯 体部に縦回転のRL単節斜行縄文
9	PP10	深鉢	胴部	LR?	器面磨耗・剥落著しい（写真のみ）
10	PP10	深鉢	胴部	撚糸文（R）	
11	PP11	深鉢	胴部	撚糸文（L）	
12	PP14	深鉢	口唇～口縁	—	口唇～口縁部にかけて無文帯（写真のみ）
13	PP14	深鉢	胴部	撚糸文（R）	器面に撚糸文を施し、沈線で（）状に区画 周間に小さな（）状沈線

## 土製品（H 9）

No	出土地点	種類
14	PP14	土製円盤

## 土器（H 9）

No	出土地点	器種	部位	原体	文様の特徴
15	PP33	深鉢	胴部	撚糸文（R）	器面磨耗
16	PP44	深鉢	胴部	沈線？	地文不明 垂下する2本の沈線区画内に連鎖状S字沈線文
17	PP44	深鉢	口縁	沈線？	地文不明 口縁部波状（写真のみ） 波頂部から連鎖状S字沈線文が垂下
18	PP46	深鉢	胴部	撚糸文（L）	器面磨耗 撚糸文（L）
19	PP71	深鉢	胴部	RL	器面磨耗

## 石器（H 9）

No	出土地点	器種	長さ	幅	厚さ	重量	備考	石質
20	PP71	削搔器	3.5	1.8	0.6	4.0		珪質頁岩（灰色）

## 土器（H 9）

No	出土地点	器種	部位	原体	文様の特徴
21	PP73	深鉢	胴部	撚糸文（r）	O段r撚糸文
22	PP102	深鉢	胴部	撚糸文（l）?	磨消撚糸文

No	出土地点	器種	部位	原体	文様の特徴
23	PP127	深鉢	胴下	撚糸文(RL)?	地文は継位の撚糸文
24	PP168	深鉢	口縁～胴部	撚糸文 (R)	地文は継位の撚糸文 口縁部はやや内湾し、波状 鋸状隆縫が口縁の波頂部に対応して垂下
25	PP168	深鉢	胴部	LR	太く明瞭な区画内に磨消繩文（継回転のLR単節斜行繩文）
26	PP168	深鉢	口縁	—	口縁部はやや内湾し 波状 口縁部無文帯 波頂部から連なる沈線文様
27	PP208	深鉢	胴部	沈線	器面磨耗 (写真のみ) 沈線によるS字状曲線
28	PP235	深鉢	口縁～胴部	撚糸文 (R)	胴～口縁にかけて急激に外反 口唇部に棒状工具の刻目 直線的な沈線区画と磨消での撚糸 (R)
29	PP239	深鉢	胴部	不明	器面磨耗著しい (写真のみ) 磨消繩文による曲線的な構図
30	PP239	深鉢	胴部	撚糸文 (R)	地文は継位の撚糸文
31	PP240	深鉢	底部	—	底部木葉痕
32	PP243, 70	深鉢	胴下～底部	—	底部木葉痕 外面炭化物付着
33	PP243, 70	—	口縁	LR ?	曲線的な2条の沈線
34	PP244	深鉢	胴部	撚糸文 (R)	器面磨耗著しい 沈線区画内に磨消による撚糸文
35	PP246	深鉢	胴部	LR	器面磨耗著しい
36	PP247	深鉢	口縁	—	口縁部無文帯 ミガキ 外面炭化物付着 (写真のみ)
37	PP247	深鉢	胴部	撚糸文 (R)	地文は撚糸 (RI)
38	試掘Ⅲ（2号焼土周辺）	深鉢	底部	—	底部網代痕
39	試掘Ⅲ	鉢	口縁	—	口縁部の溝巻状沈線に対応して、( ) 状沈線
40	試掘Ⅲ	浅鉢	口縁	LR	沈線区画内に磨消によるLR繩文 口縁部に棒状工具による刺突
41	試掘Ⅲ（2号焼土周辺）	深鉢	口縁	—	胴～頸部で一旦括れ、口縁にかけて外反、口唇部に棒状工具の刺突 2本の沈線での口縁部文様帯
42	3 A	深鉢	口縁	—	口縁部は波状 波頂部に対応して、継位や横位に数個の円文
43	試掘Ⅲ	深鉢	胴部	—	沈線による溝巻状モチーフ
44	3 C III	深鉢	口縁	—	鋸状隆縫が波状口縁頂部に対応して垂下し、口縁部文様帯を巡る。
45	3 E	深鉢	口縁～胴部	不明	口縁部は波状 2本の隆起線で区画された幅広の無文帯 波頂部下に2つの継方向の刺突
46	3 E	深鉢	胴部	LR	2重沈線の区画文内に磨消手法によりLR繩文
47	3 E	深鉢	胴部	不明	器面磨耗著しく地文は不明 董の弧状沈線文で( ) 状モチーフを描く
48	3 E	深鉢	胴部	LR	LR繩文を施行した上、4本1單位の沈線で直線と曲線を組み合わせたモチーフを描く
49	3 E	深鉢	胴部	LR	LR繩文を施行した上、3本1單位? の沈線で大振りな直線や曲線のモチーフを描く
50	3 E	深鉢	口縁～胴部	不明	口縁部は波状で、無文帯を形成 胴上部で一旦内湾し、口縁部に至ってやや外反
51	3 E	深鉢	胴部	撚糸文 (R)	
52	3 E III	深鉢	口縁～胴部	撚糸文 (R)	
53	試掘Ⅲ	深鉢	口縁	撚糸文 (r)	口縁部は波状「0段」の撚糸文を施した後、沈線で( ) 状の区画を描き、内部を磨り消す
54	試掘Ⅲ	深鉢	底部	—	
55	試掘Ⅲ～IV	深鉢	胴部	—	器面ミガキ 数条の太い沈線で直線的なモチーフを描く
56	試掘Ⅲ	—	—	LR ?	
57	試掘Ⅲ	深鉢	口縁～胴部	撚糸文 (R)	

No	出土地点	器種	部位	原体	文様の特徴
58	6 E	不明	口縁	LR	沈線区画に磨削手法によるLR繩文
59	6 E	鉢	口縁	—	口縁部に太く深い沈線が数条平行して巡る。 内面にも沈線による曲線的な文様を施す
60	6 E III	壺形	頸部	—	頸部一旦内湾し、口縁部にかけて外反する器形
61	6 E III	深鉢	口縁	—	波状口縁下を沈線が巡る 口縁頂部に対応して、縁文・垂下文が描かれる
62	調査区北西試掘	深鉢	口縁	RL?	2本の太い隆脊状の隆起とその間の太い沈線で凹状の口縁部を形成。口縁部はごく緩やかな波状を呈し、頂部に円形刺突をもつ。
63	調査区北西試掘	深鉢	口縁	—	口縁はM字状の波状? 波頂部から連鎖状S字沈線文が垂下。突起間に2本の沈線間に単沈線列をもった垂下文が描かれる。
64	調査区北西試掘	深鉢	口縁	撫糸文(r)	O段rによる撫糸文 口縁部はやや外反し、無文帶を形成
65	調査区西	深鉢	口縁	撫糸文(R)	口縁部波状で、幅広の無文帯
66	調査区西	深鉢	口縁～胴部	撫糸文(R)	
67	調査区西	深鉢	口縁～胴部	撫糸文(R)	

(H 9) 石器観察表 計測値 (cm, g)

No	出土地点	器種	長さ	幅	厚さ	重量	備考	石質
68	6 E III	石鏃	2.2	1.7	0.3	0.9		黒曜岩
69	2 D粗彫	石鏃	2.3	2.0	0.4	1.6	1/2欠損	珪岩(赤色)
70	粗彫	石鏃	2.6	2.0	0.4	2.7		珪岩(赤色)
71	粗彫	石鏃	1.2	1.1	0.3	0.3	基部欠損	珪質頁岩(灰色)
72	2 D粗彫	石匙	5.7	1.7	0.6	5.9	縦形	珪質頁岩(灰色)
73	試掘	石匙	7.8	3.3	1.1	29.6	縦形	珪質頁岩(赤色)
74	試掘	削掻器	2.4	3.3	0.7	6.3	ほぼ全線に深い調整が加えられる	珪岩(赤色)
75	5 D III	削掻器	2.4	1.5	0.4	1.4	縁辺部に調整が加えられる	珪岩(赤色)
76	粗彫	削掻器	3.1	3.7	0.8	9.0	ほぼ全線に深い調整が加えられる	珪質頁岩(赤色)
77	2 D	削掻器	8.3	2.9	1.2	23.9	ほぼ全線に深い調整が加えられる	珪質頁岩(灰色)
78	2 D粗彫	削掻器	4.4	4.0	1.1	16.9	縁辺部に急斜度の深形調整	珪質頁岩(灰色)
79	粗彫	削掻器	5.1	2.5	0.8	9.4	剥片のはは全線にわたりて急斜度の深形調整が加えられる	珪質頁岩(灰色)
80	粗彫	削掻器	2.4	2.5	0.4	1.9	縁辺部に浅い調整	珪質頁岩(赤色)
81	試掘	削掻器	3.1	3.1	1.5	21.8		珪質頁岩(赤色)
82	粗彫	削掻器	5.4	8.6	1.9	81.2	縁辺部に緩斜度の深形調整が加えられる	珪質頁岩(灰色)
83	粗彫	削掻器	3.1	5.9	0.8	14.1	縁辺部に急斜度の深形調整と浅形調整	珪質頁岩(灰色)
84	粗彫	削掻器	2.8	3.9	0.8	7.7		珪質頁岩(灰色)
85	6 E III	削掻器	5.1	4.9	2.4	47.1	縁辺部に急斜度の浅形調整	頁岩
86	粗彫	削掻器	4.5	4.5	1.1	24.7	剥片の測線部に急斜度の浅形調整 表面磨滅	珪質頁岩(灰色)
87	2 A III	削掻器	3.9	4.3	0.8	1.5		頁岩
88	4 C III	削掻器	4.6	3.2	1.5	16.9	粗い剥離調整	珪質頁岩(灰色)
89	4 C III	削掻器	4.1	4.7	0.8	14.6	縁辺部に急斜度の深形調整 掻器的?	珪質頁岩(赤色)
90	試掘	削掻器	3.2	3.3	1.0	10.0		珪質頁岩(灰色)
91	試掘	削掻器	4.9	2.4	0.7	8.9	(ほぼ全線にわたり深い調整が加えられる)	珪質頁岩(灰色)
92	6 E	削掻器	3.5	5.6	0.8	16.3	縁辺の一部に刃部加工	珪質頁岩(赤色)
93	粗彫	UF	3.2	2.0	0.8	4.5		頁岩
94	試掘	RF	2.0	2.3	0.5	2.4		珪岩(赤色)
95	4 C III	RF	3.8	4.2	0.7	10.4		珪質頁岩(灰色)
96	粗彫	UF	5.5	4.3	0.7	12.0		珪質頁岩(灰色)
97	4E～5E III	RF	5.4	3.5	1.0	13.1		珪質頁岩(赤色)
98	1C III～IV	磨製石斧	8.4	3.3	1.2	61.4	前面に丁寧な研磨痕	角内石・岩
99	試掘	磨製石斧	24.1	8.7	5.2	1224.1		凝灰岩

(H 9) 石製品観察表

No	出土地点	種類	長さ	幅	厚さ	重量	備考	石質
100	粗掘	ミニチュア形石棒	74	15	1.3	24.1		砂岩
101	試掘	石製円盤	43	43	1.0	35.8	打ち欠け	安山岩
102	粗掘	石製円盤	51	55	1.7	64.1	打ち欠け	安山岩
103	粗掘	石製円盤	53	57	1.0	43.0	部分研磨	安山岩
104	4 B	石製円盤	67	70	1.2	86.1	全周研磨	安山岩

(H 9) 土製品観察表

No	出土地点	種類	No	出土地点	種類
105	7 D III	耳鉢	110	粗掘	土製円盤
106	1 C III	土製円盤	111	試掘	土製円盤
107	4 C III	土製円盤	112	4 E ~ 5 E III	土製円盤
108	2 D III	土製円盤	113	4 C III	土製円盤
109	表土除去	土製円盤	114	矢番	

(H 10) 器器観察表

No	出土地点	器種	部位	原体	文様の特徴
115	9号土坑	深鉢	胸部		2条沈線 地文は撲糸文
116	9号土坑	深鉢	胸部		沈線区画内に撲糸文
117	11号土坑	深鉢	口縁部		隆線
118	11号土坑	深鉢	胸部		2条の直線的な太い沈線 撲糸文
119	11号土坑	深鉢	口縁部		隆線から垂下する沈線の区画内に撲糸文
120	11号土坑	深鉢	胸部		3条沈線 器面磨耗
121	13号土坑	深鉢	胸部	RL	太く明瞭な沈線区画内に繩文
122	13号土坑	深鉢	胸部	不明	沈線区画? 内に繩文
123	13号土坑	深鉢	胸部	不明	沈線区画? 内に繩文
124	16号土坑	深鉢	口縁部		口縁部外反 撲糸文
125	16号土坑	深鉢	胸部		撲糸文
126	17号土坑	深鉢	口縁部		口縁部は平縁 ( ) 状沈線
127	17号土坑	深鉢	胸部		3重の弧状沈線 器面磨耗
128	17号土坑	深鉢	口~胸		口縁部は平縁 器面は無文
129	17号土坑	深鉢	口縁部		隆帯から沈線がV字型に展開
130	18号土坑	深鉢	胸部		多条沈線 磨消し帯
131	18号土坑	深鉢	底部		底部木葉痕 撲糸文
132	18号土坑	深鉢	胸部		数条沈線
133	18号土坑	深鉢	胸部		多条沈線
134	19号土坑	深鉢	口縁部		刺穴を起点に3条の沈線が横位や縦位に展開
135	19号土坑	深鉢	胸部		沈線区画から沈線がV字型に展開
136	19号土坑	深鉢	胸部		3条沈線 器面磨耗
137	21号土坑	深鉢	口~胸		突起部(刺突)を起点にして隆帯や撲糸文が展開
138	21号土坑	深鉢	胸部		沈線区画? 内に撲糸文 磨消し帯
139	21号土坑	深鉢	口縁部		口縁部はごく緩やかな波状 ( ) 状沈線
140	21号土坑	深鉢	口縁部		口縁部は波状 沈線による構円文
141	22号土坑	深鉢	突起		突起の上部には3個の盲孔、下部には貫通孔を持つ
142	22号土坑	深鉢	胸部		渦巻状沈線 刺突を起点にして数条の沈線が縦位に展開
143	22号土坑	深鉢	胸部		多重沈線 沈線間に小刺突列

No	出土地点	器種	部位	原体	文様の特徴
144	22号土坑	深鉢	胴部		多条沈線 器面磨耗
145	22号土坑	深鉢	胴部		2重円を構成する沈線
146	22号土坑	深鉢	口縁部		突起 器面は無文
147	PF241	深鉢	胴部	RL	沈線区画内に繩文
148	6号焼土	深鉢	胴部		沈線区画?
149	6号焼土	深鉢	胴部		4条沈線
150	6号焼土	深鉢	口縁部		隆線
151	6号焼土	深鉢	口縁部		口縁部無文帯 口縁部において内湾して外反する器形
152	21c	深鉢	胴部	LR	2重の長楕円文 繩文
153	21c	深鉢	胴部	LR	長楕円文? 繩文
154	21c	深鉢	胴~底		同一個体?(152, 153, 154) 器面は無文
155	22c	深鉢	胴部		長楕円文?
156	17g	深鉢	胴部		垂下する2本の沈線区画内に( )状沈線
157	17g	深鉢	胴部		沈線文 地文は撚糸文
158	17h	深鉢	胴部		多条沈線? 器面磨耗
159	19d	深鉢	胴部		2条沈線
160	19h	深鉢	胴部		多条沈線? 器面磨耗
161	20d	深鉢	胴部	LR	4条沈線 繩文
162	21c	深鉢	胴部		2本・4本単位で構成する沈線文
163	21c	深鉢	胴部		渦巻状沈線 隆沈線
164	21d	深鉢	胴部		2条沈線
165	21e	深鉢	胴部		多重の弧状沈線
166	21e	深鉢	胴部		多条沈線?
167	21f	深鉢	胴部		多条沈線 脇下部齊消帶
168	22c	深鉢	胴部		2重円を構成する沈線 地文は撚糸文
169	22d	深鉢	胴部		3条沈線
170	22f	深鉢	胴部		数条の沈線
171	20f	深鉢	胴部		沈線区画内に撚糸文
172	20f	深鉢	胴部		太く明瞭な沈線区画
173	21b	深鉢	口縁部		口縁部内反 口縁の波頂部から多条沈線が垂下
174	22e	深鉢	口縁部		口縁部内反 沈線区画内に撚糸文
175	22e	壺?	口縁部		口縁部無文帯 脊部で一旦内湾し、口縁部にかけて外反
176	21c	深鉢	胴部		隆帯 2重の弧状沈線 器面磨耗
177	19h	深鉢	胴部	RL	繩文
178	21b	深鉢	胴部	RL	繩文
179	21b	深鉢	胴部		網目状撚糸文
180	17g	深鉢	口縁部		突起を起点に数条の沈線が展開
181	17g	深鉢	口縁部		突起
182	20h	深鉢	底部		底部木葉痕
183	20h	深鉢	底部		底部網代痕 器面磨耗
184	21b	深鉢	底部		器面磨耗

(H 10) 土製品觀察表

No	出土地点	種類	重量(g)	No	出土地点	種類	重量(g)
185	9号土坑	土製円盤	13.55	192	焼土 6号	鐸形土製品	31.85
186	10号土坑	土製円盤	17.68	193	17 i	土製円盤	16.51
187	10号土坑	土製円盤	14.15	194	20 c	土製円盤	10.98
188	10号土坑	土製円盤	24.94	195	21 d	土製円盤	11.51
189	10号土坑	土製円盤	20.60	196	22 d	土製円盤	22.18
190	10号土坑	土製円盤	21.62	197	22 f	土製円盤	20.78
191	17号土坑	土製円盤	7.43				

(H 10) 石器観察表

No	出土地点	器種	計測値 (cm, g)				石 質
			長さ	幅	厚さ	重量	
198	21 b	石鎌	2.60	1.40	0.40	0.83	黒曜石
199	21 b	石鎌	2.00	0.90	0.40	0.30	頁岩
200	22 c	石鎌	1.90	1.40	0.30	0.54	頁岩
201	20 e	石鎌	1.95	1.45	0.37	0.70	頁岩
202	22 c	石鎌	1.55	1.70	0.55	0.93	頁岩
203	18 h	石鎌	1.70	0.80	0.50	0.82	玉ずい
204	22 c	石鎌	2.90	1.30	0.60	1.65	黒曜石
205	18 h	石鎌	2.00	1.10	0.60	1.02	赤色頁岩
206	21 f	石鎌	2.20	1.50	0.40	0.48	玉ずい
207	22 d	石鎌	1.60	1.40	0.30	0.26	黒曜石
208	21 f	石鎌	1.40	1.40	0.40	0.46	赤色頁岩
209	21 c	石鎌	1.90	1.60	0.50	0.83	赤色頁岩
210	21 c	石鎌	2.00	1.60	0.50	1.15	赤色頁岩
211	20 b	石鎌	2.00	1.80	0.45	1.04	赤色頁岩
212	22 d	石鎌	3.15	1.40	0.60	2.22	黒曜石
213	21 b	石鎌	2.10	1.10	0.40	0.77	赤色頁岩
214	22 c	石鎌	2.40	1.20	0.50	1.12	頁岩
215	pp241	石鎌	2.30	1.70	0.50	1.58	赤色頁岩
216	20 a	石鎌	2.20	1.90	0.50	1.55	頁岩
217	9号土坑	石鎌	2.20	1.80	0.70	2.09	玉ずい
218	22 e	石鎌	2.10	2.00	0.80	3.02	頁岩
219	21 d	石鎌	1.80	1.70	0.50	1.14	頁岩
220	21 b	石鎌	1.70	1.50	0.50	0.52	赤色頁岩
221	6号焼土	石鎌	1.90	1.60	0.70	2.01	赤色頁岩
222	22 d	石鎌	1.70	1.70	0.50	0.94	赤色頁岩
223	10号土坑	石鎌	1.90	1.60	0.60	1.49	玉ずい
224	20 e	石鎌	1.85	1.45	0.30	0.73	黒曜石
225	22 f	石鎌	1.60	1.30	0.60	1.15	黒曜石
226	20 a	石鎌	1.60	1.05	0.50	0.35	頁岩
227	20 b	石鎌	2.65	1.90	0.70	3.67	珪質頁岩
228	20 d	石鎌	2.55	2.10	1.10	4.43	珪質頁岩
229	20 d	石鎌	2.40	2.10	1.00	3.75	珪質頁岩
230	22 d	石鎌	2.50	1.85	0.70	3.15	赤色頁岩
231	9号土坑	石鎌	3.85	1.60	0.85	2.85	頁岩
232	18号土坑	石匙	6.90	2.80	1.00	10.73	頁岩
233	19 h	石匙	7.10	3.00	1.20	17.80	頁岩
234	21 d	石匙	3.20	1.90	0.70	4.18	赤色頁岩
235	21 e	石匙	3.10	2.40	1.00	6.28	頁岩
236	29号土坑	削掻器	8.10	5.90	1.70	60.67	頁岩
237	13号土坑	削掻器	5.90	5.10	1.10	18.52	頁岩
238	16 i	削掻器	4.70	4.70	1.20	22.40	頁岩
239	13号土坑	削掻器	5.25	3.25	1.05	13.96	頁岩
240	21 d	削掻器	4.80	3.00	0.80	9.68	頁岩
241	20 d	削掻器	2.60	4.10	1.00	9.91	頁岩
242	20 d	削掻器	3.40	2.10	0.65	4.94	頁岩
243	19号土坑	削掻器	4.85	6.40	1.30	36.16	頁岩
244	13号土坑	削掻器	3.50	2.50	0.70	5.59	頁岩
245	21 b	削掻器	3.40	2.45	1.00	6.58	赤色頁岩
246	21 e	削掻器	6.40	3.20	1.00	27.49	頁岩
247	22 f	削掻器	3.30	3.70	1.10	12.81	頁岩
248	21 b	削掻器	4.80	2.95	0.95	19.73	頁岩
249	20 d	削掻器	2.85	2.05	0.45	2.60	頁岩
250	22 d	削掻器	3.65	4.25	1.10	15.12	頁岩
251	21 e	削掻器	4.40	3.50	0.60	7.43	頁岩
252	21 f	削掻器	5.60	3.35	1.20	18.87	頁岩
253	13号土坑	削掻器	4.60	4.00	1.30	18.37	流紋岩(奥羽山脈)
254	22 d	削掻器	4.85	2.60	0.80	14.07	頁岩
255	12号土坑	削掻器	1.80	2.20	0.80	2.36	黒曜石
256	19 f	磨石				310.00	安山岩(奥羽山脈)
257	21 c	石鎌				115.00	石英安山岩(奥羽山脈)

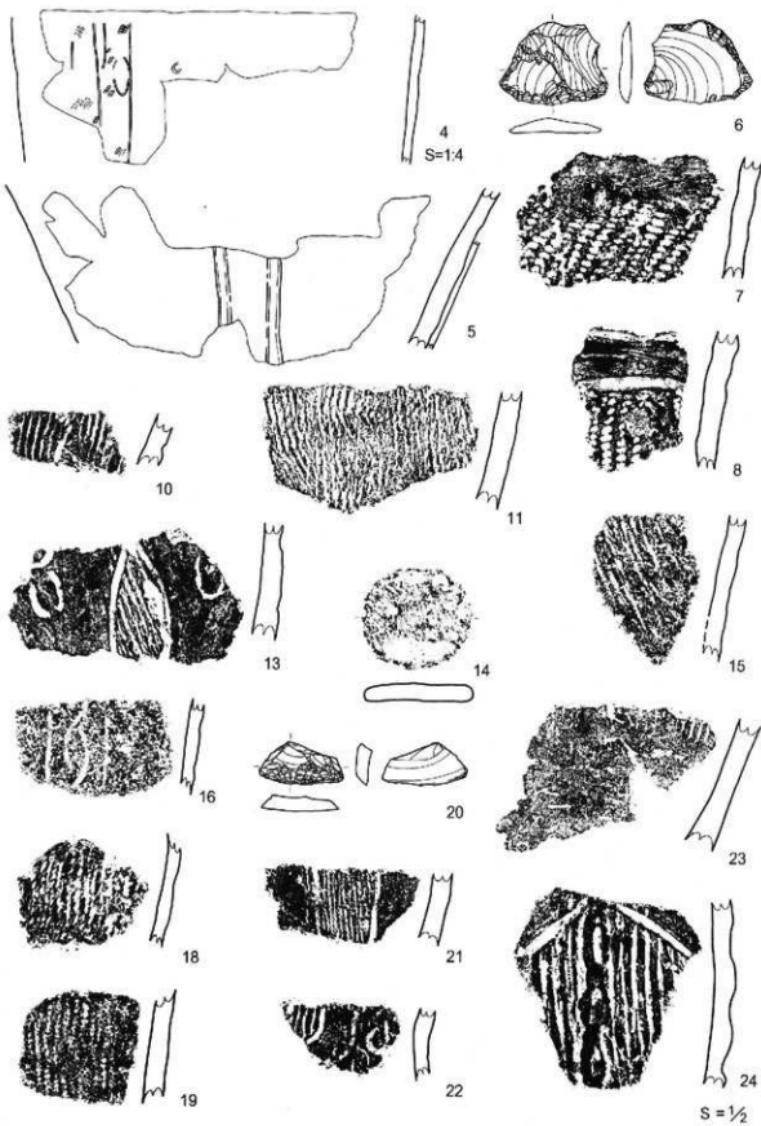


図20 出土遺物 1

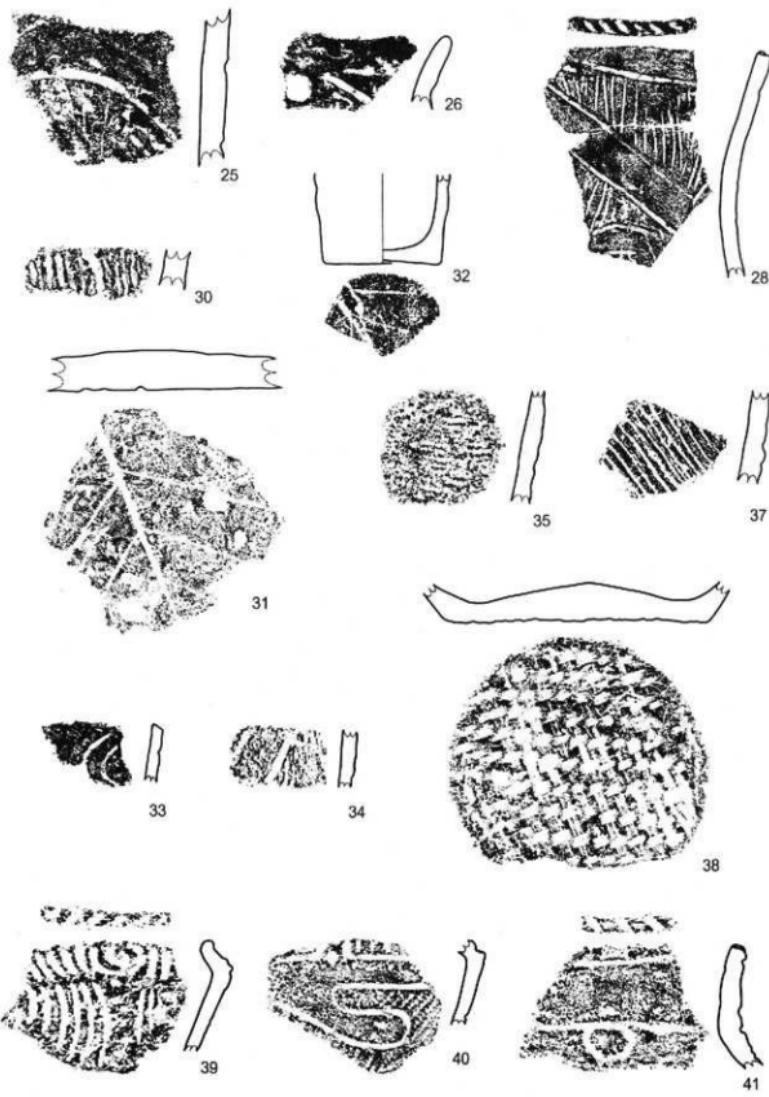


図21 出土遺物 2

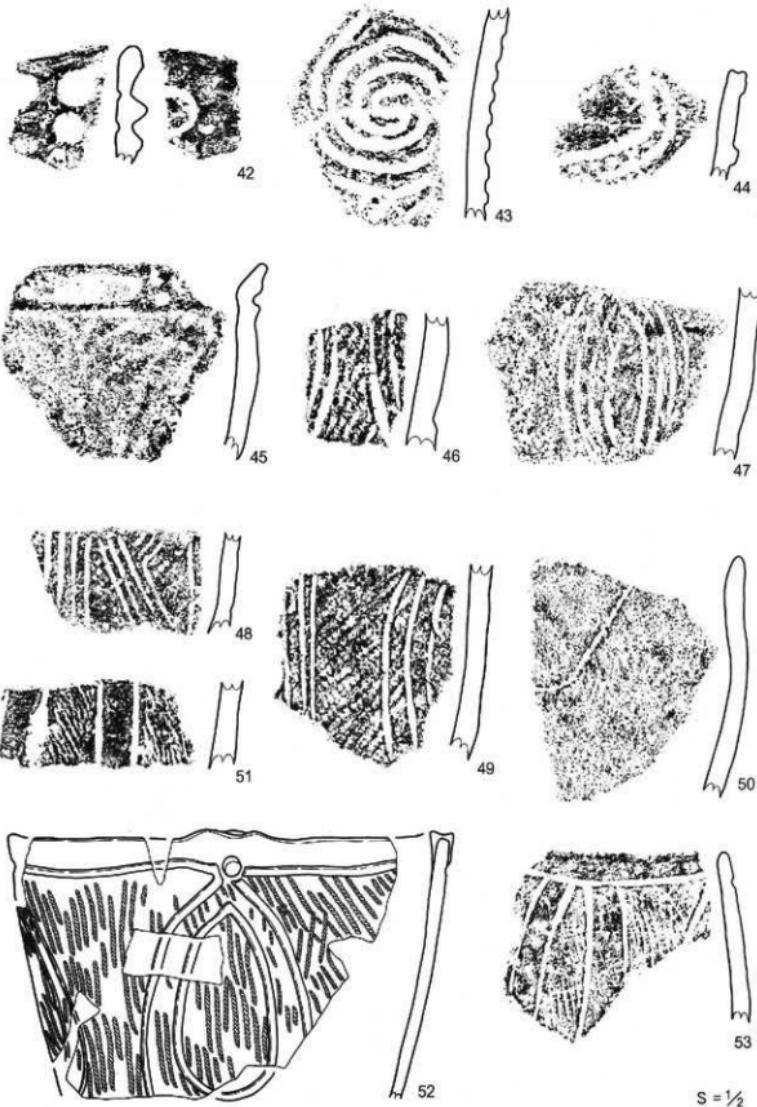
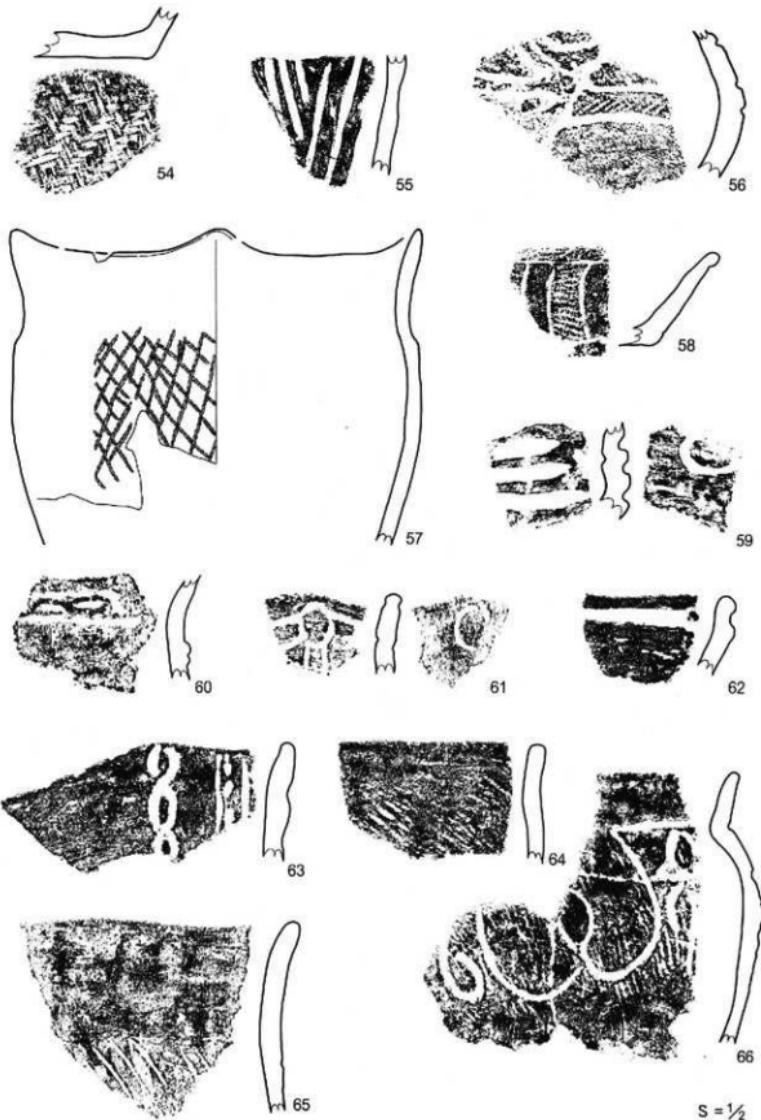


図22 出土遺物3



$S = \frac{1}{2}$

図23 出土遺物 4

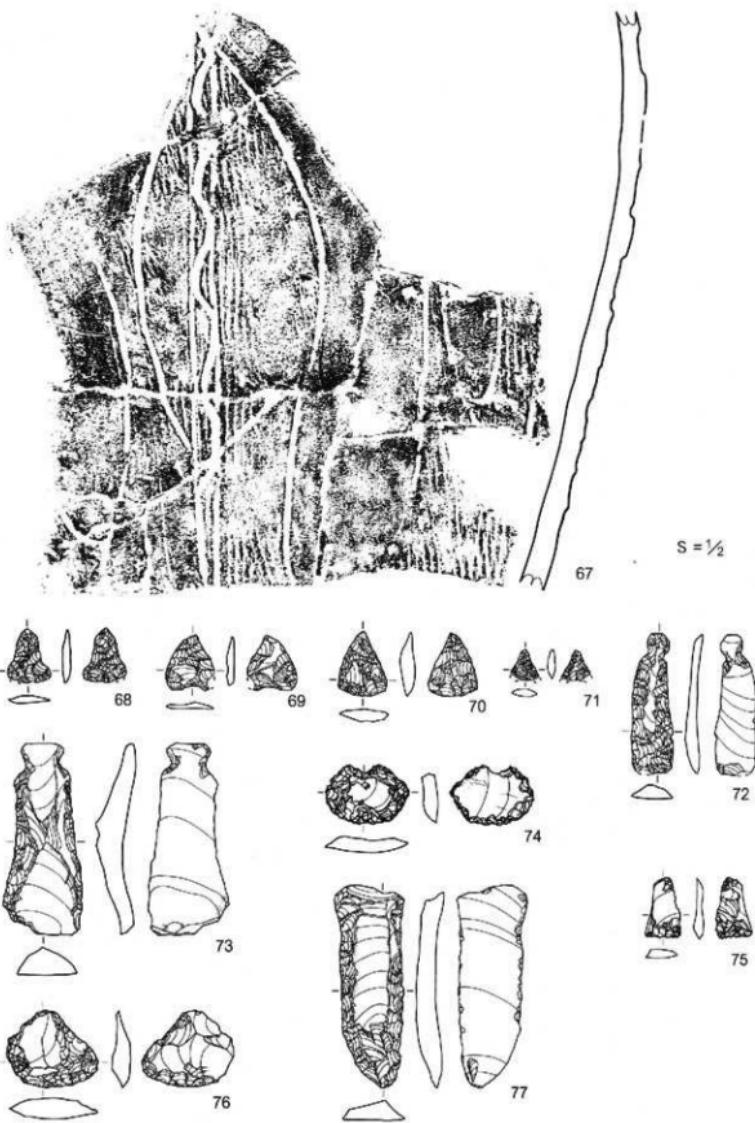


图24 出土遗物 5

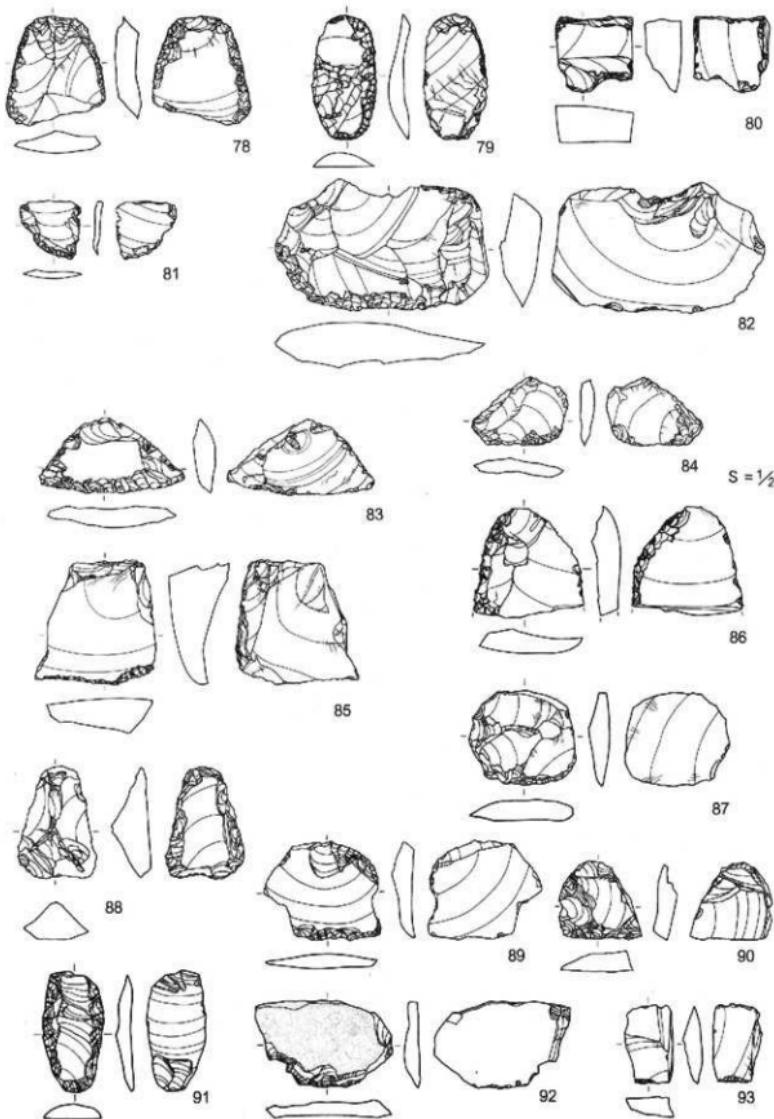


図25 出土遺物 6

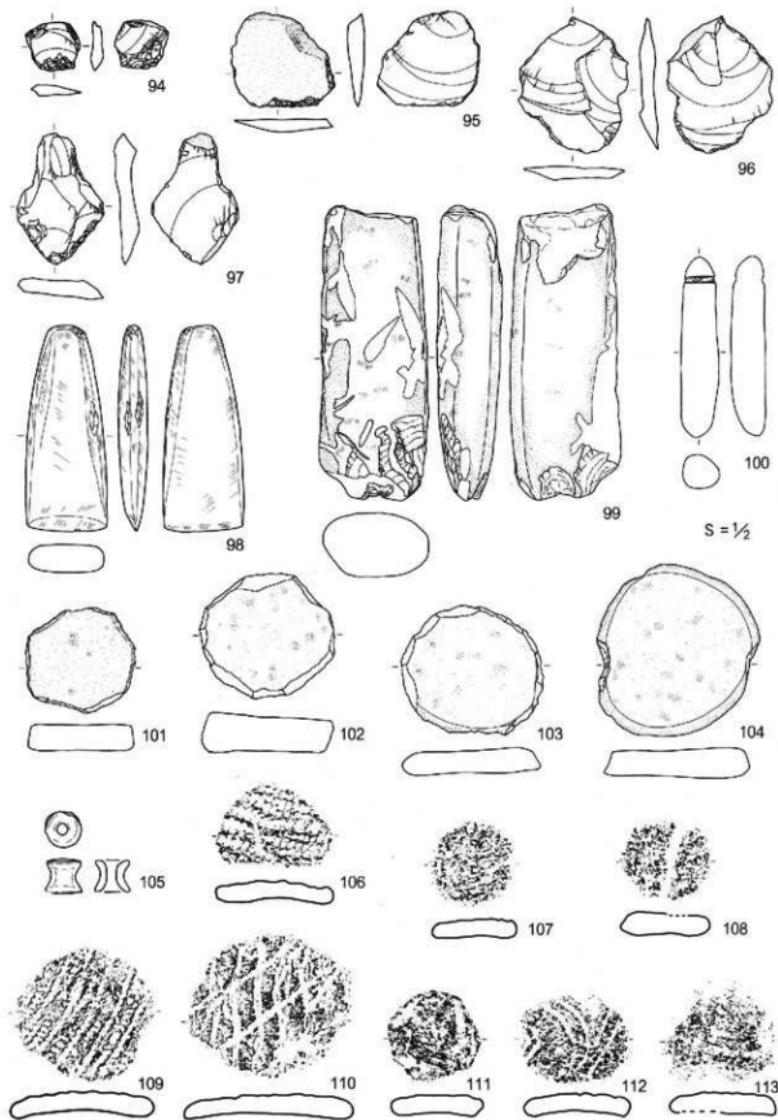


図26 出土遺物 7

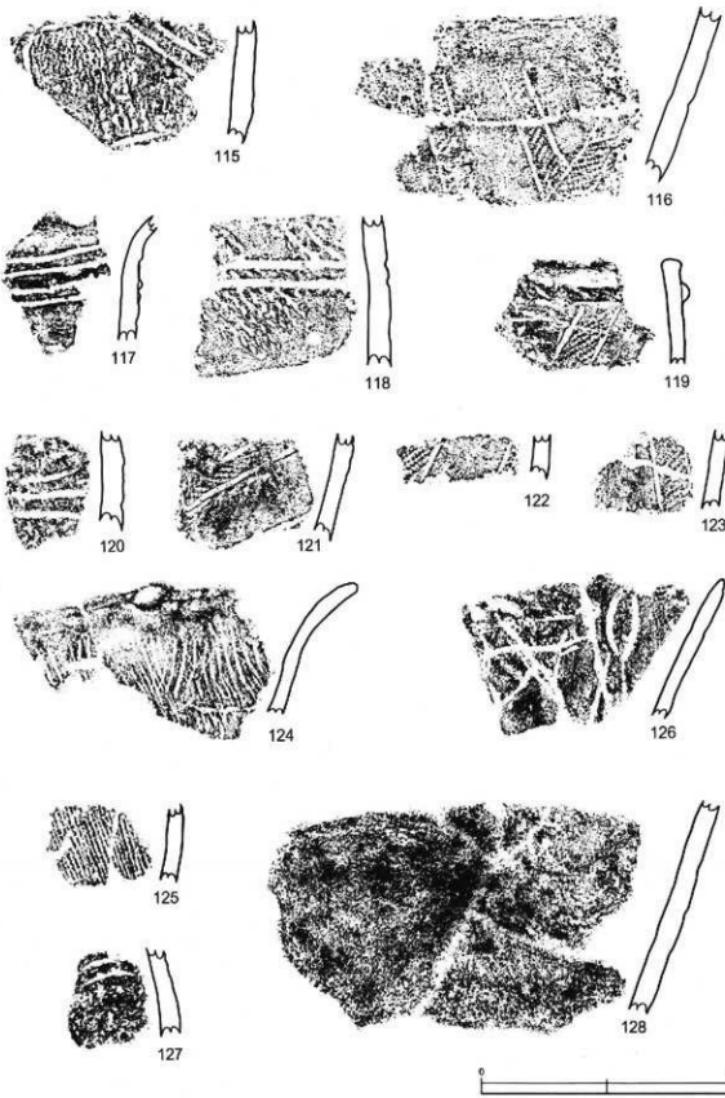


图27 出土遗物 8

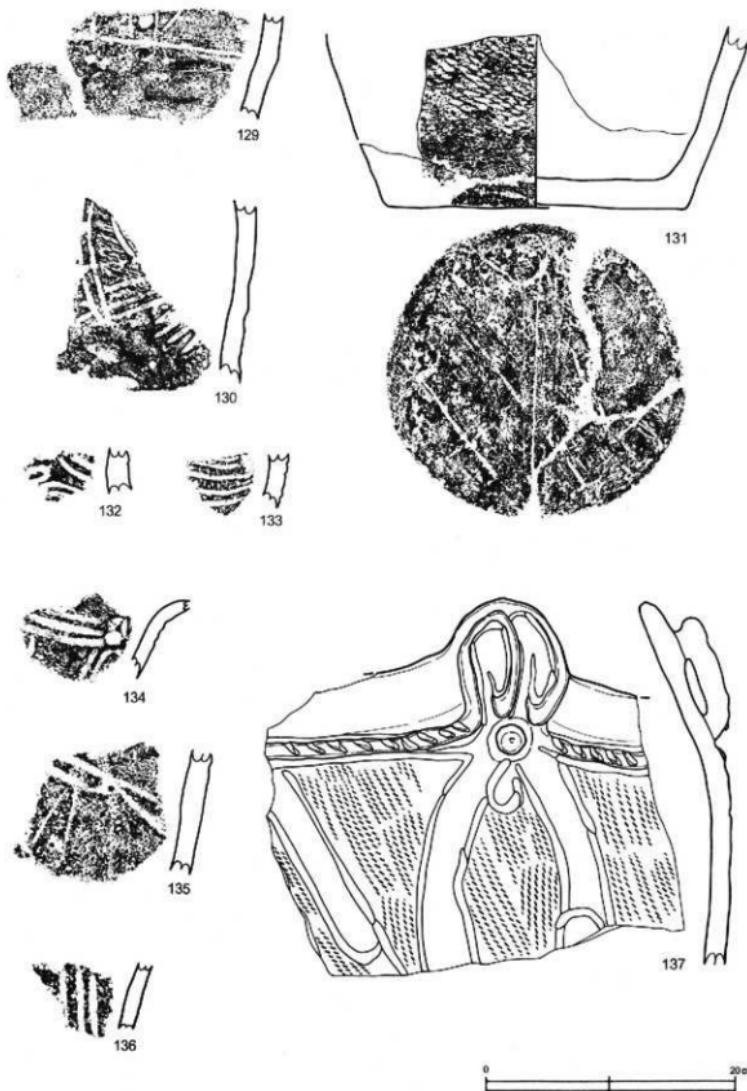


図28 出土遺物 9

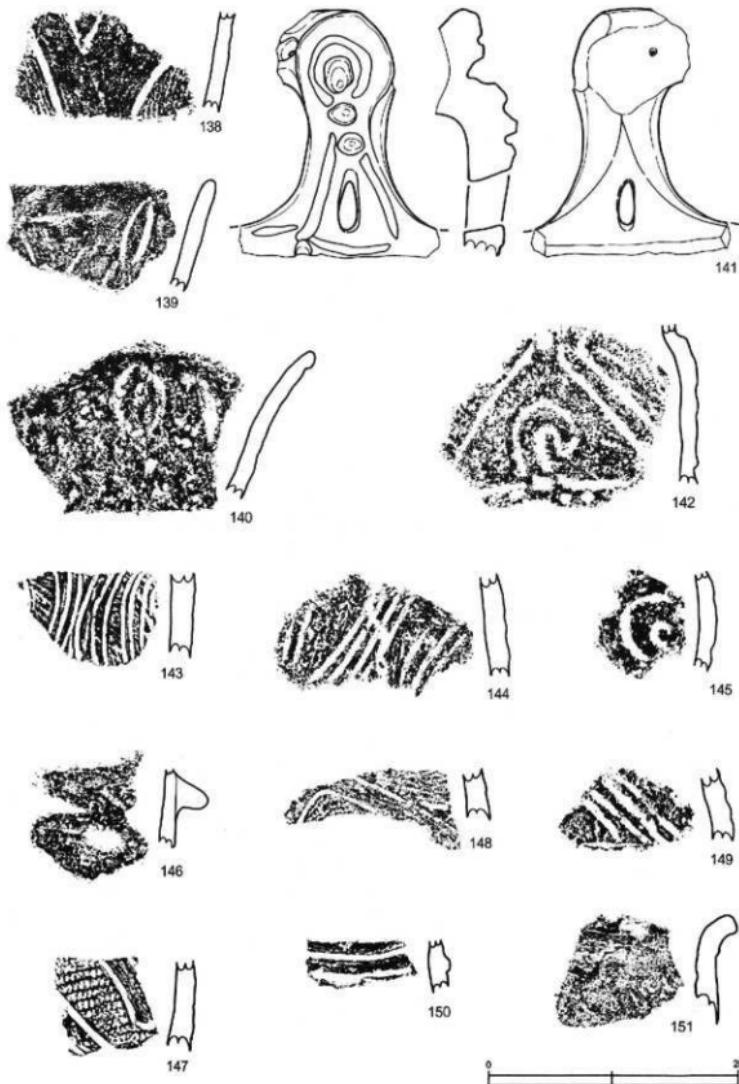


図29 出土遺物 10

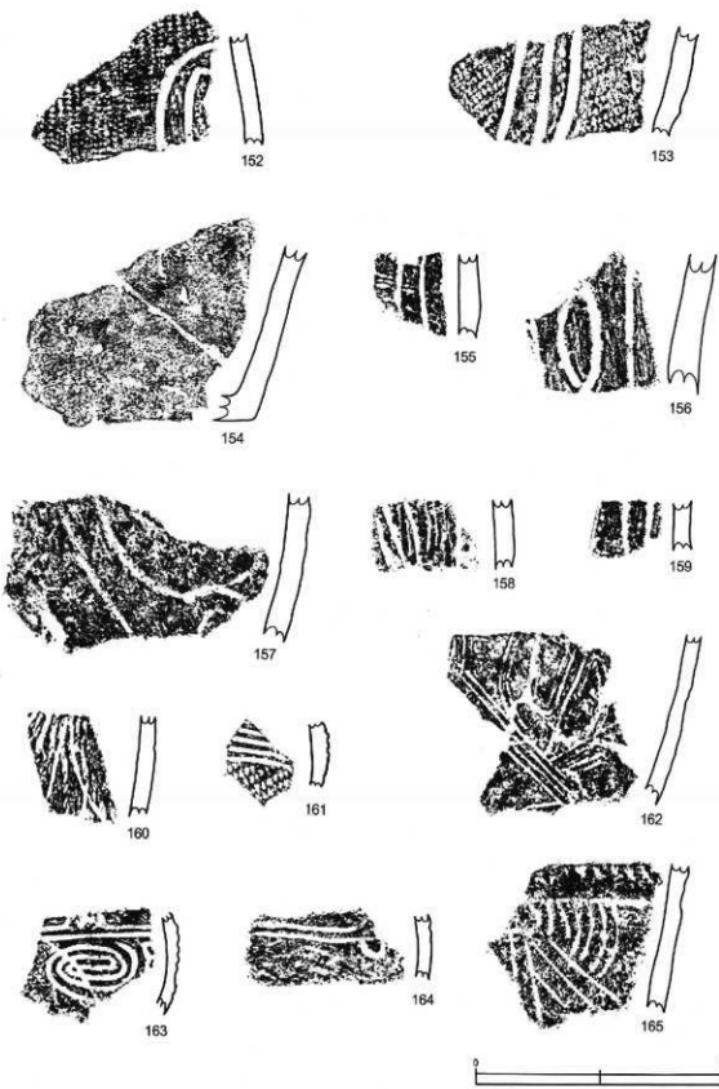


図30 出土遺物 11

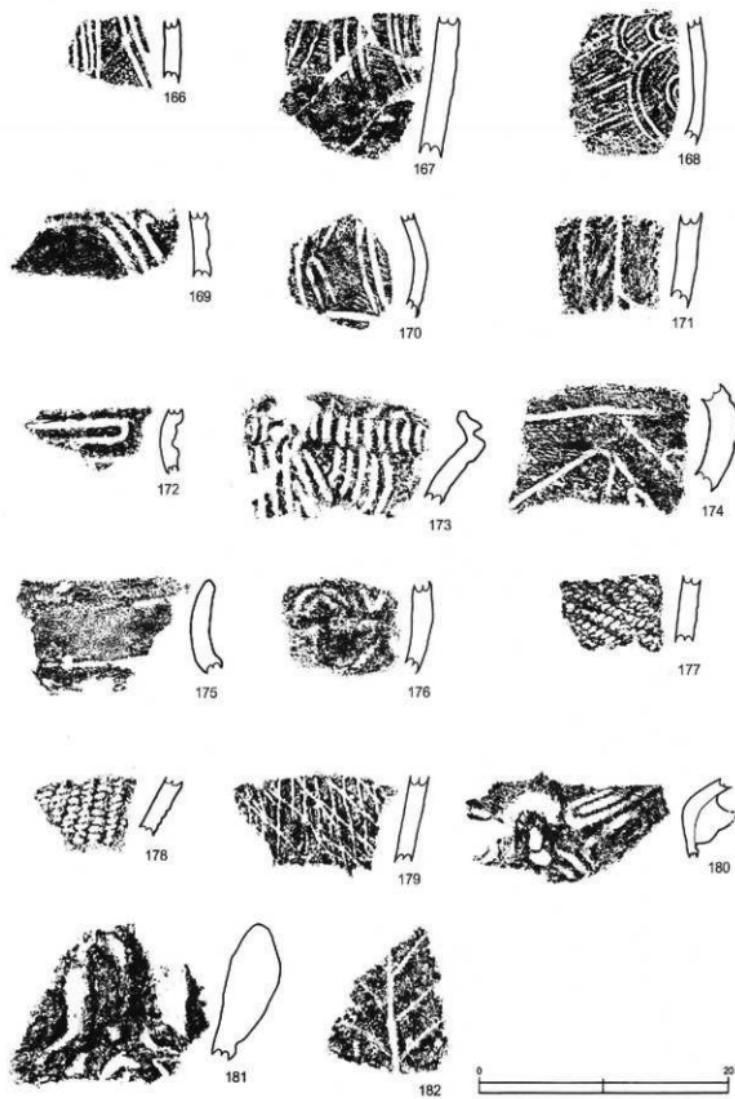


図31 出土遺物12

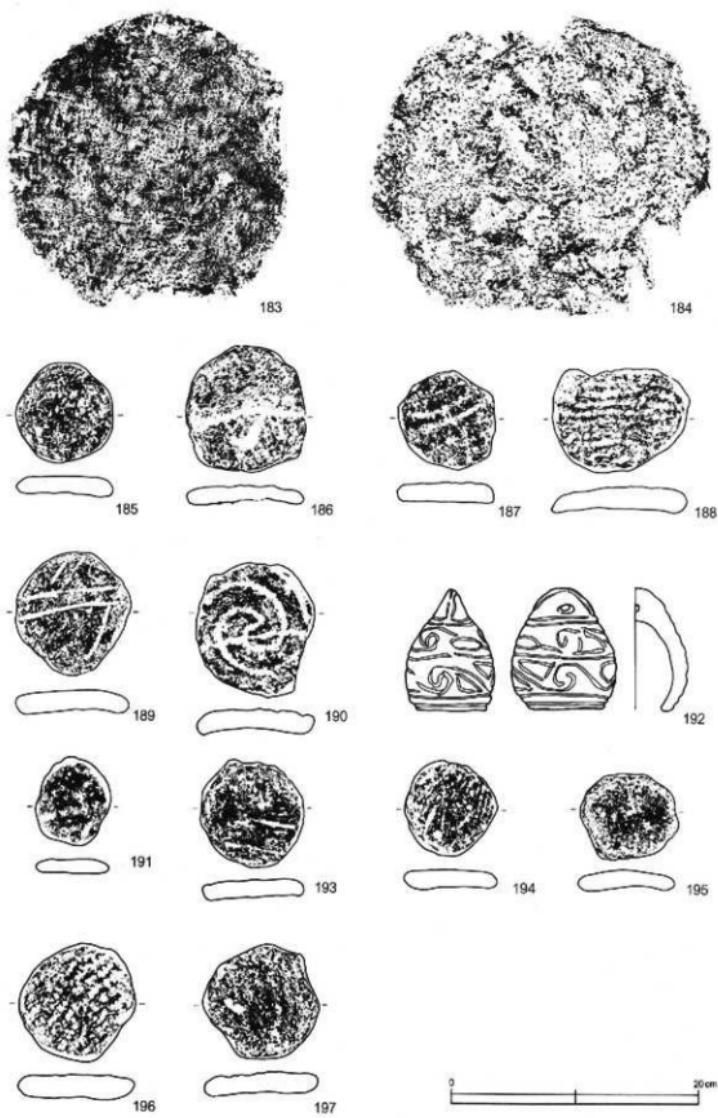


图32 出土遗物13

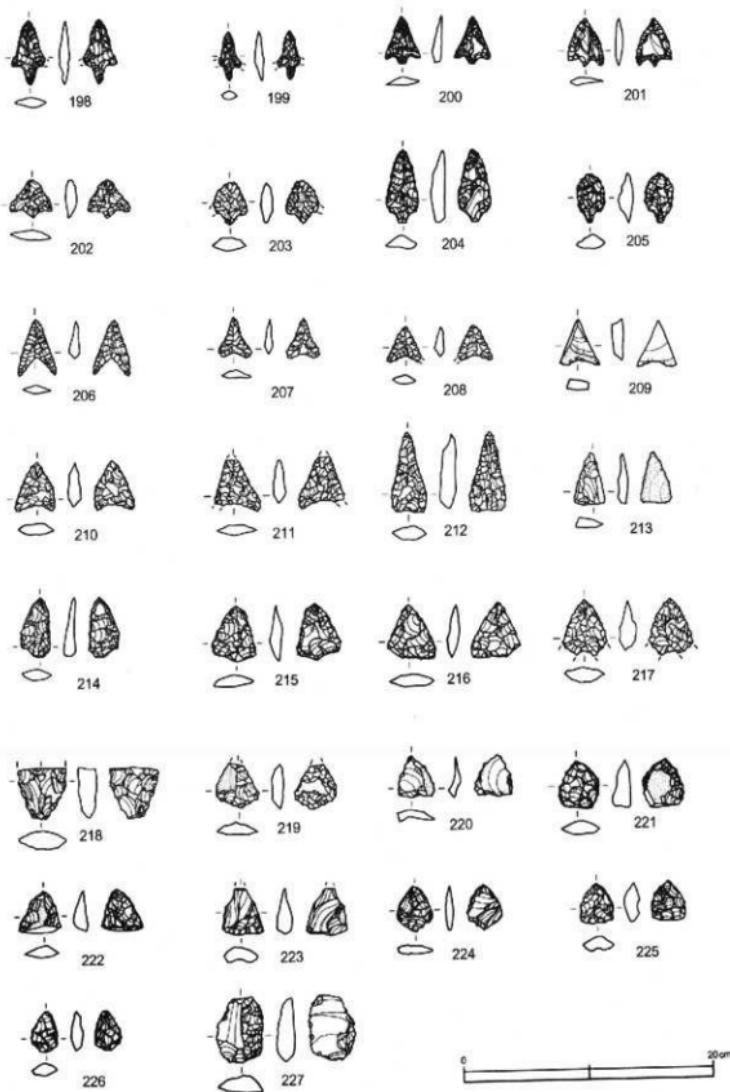


図33 出土遺物 14

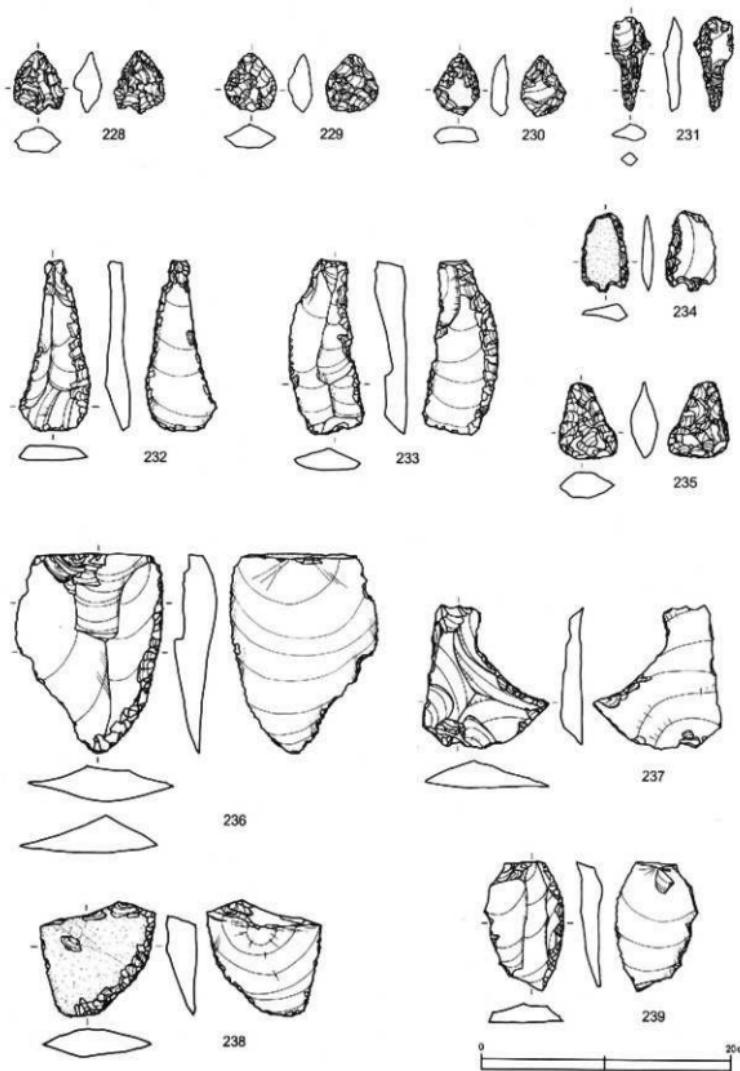


图34 出土遺物15

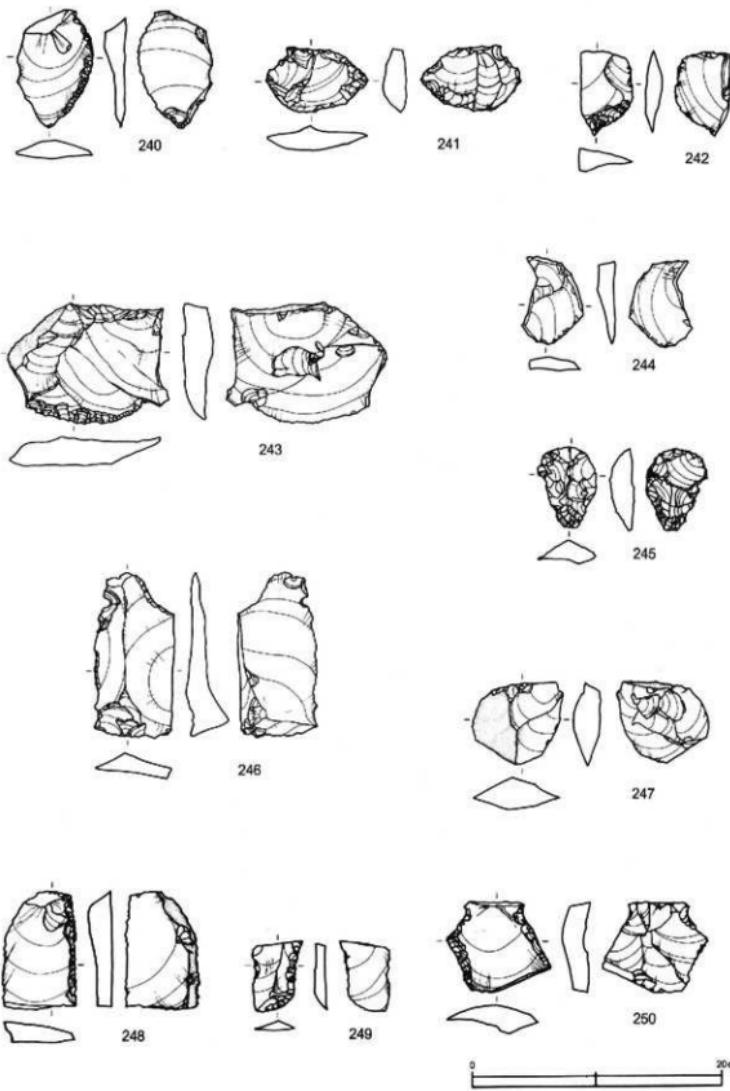
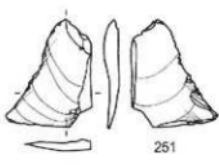
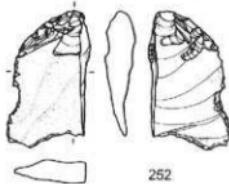


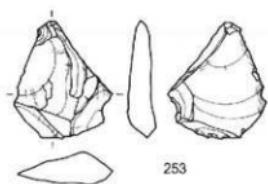
図35 出土遺物 16



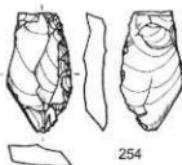
251



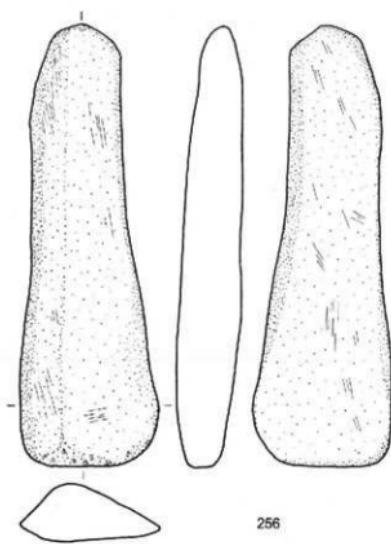
252



253



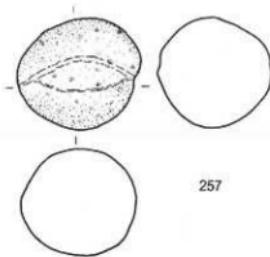
254



256



255



257

A scale bar ranging from 0 to 20 cm, with a vertical line at 0 and a horizontal line ending at 20 cm.

圖 36 出土遺物 17

## 5.まとめ

### 遺構について

平成9年度の調査では、縄文時代後期と考えられる土坑・埋設土器・柱穴群などを検出したが、これらの遺構の中では柱穴が232基と圧倒的に多いことを特徴としている。この柱穴は水田造成時の削平・擾乱により、上部構造を欠失した竪穴住居跡や掘立柱建物跡の柱穴であった可能性が高い。中でも深さ1mを超える柱穴（PP3・PP10・PP25・PP43及びPP183・PP200・PP216・PP223）については柱穴の規模と配置から推定すると、大型の建物が存在したものと考えられる。

平成10年度の調査でも、開田時の削平等により遺構の上部が消失したと思われるものもあったが、111基柱穴の中から掘立柱建物跡の規模と配置（RB01, RB02）をもつ柱穴が検出され、調査区や周辺に住居跡が存在したのではないかと考えられる。

### 遺物について

今回の調査で出土した土器・土製品・石器・石製品の中で登録したのは257点である。その中で出土時期を推定できる土器について特徴をあげると次のようになる。

- A 器面に長楕円文を主体とした文様が見られるもの
- B 平行沈線・多条沈線・多重沈線・曲線的な沈線文を施すもの
- C 沈線区画内に撚糸文・繩文を施したり、区画内を磨消したもの
- D 口縁部無文帯・器形が口縁部波状のもの・内湾して外反するものなど口縁部に特徴をもつもの
- E 鎮状隆線・隆帯・（太）隆線が見られるもの
- F 器面に斜行繩文・撚糸文を施すもの
- G 口縁部に突起を伴うもの
- H 底部に木葉痕や網代痕を伴うもの

この中で、多条沈線や多重沈線で平行沈線のような直線的な文様・2重円や渦巻状沈線のような曲線的な文様など多種多様な沈線文様（B）を描いているものや、沈線区画内に撚糸文・繩文を施したり、区画内を磨消したもの（C）そして口縁部で鎮状隆線・隆帯・（太）隆線が見られる（E）ものが数多く出土している。

このような特徴をもつ土器がほぼ同じ層（第Ⅲ～第Ⅳ層）から出土したことは、今回出土した土器は縄文後期初頭から前葉の土器ではないかと考えられる。（宮戸1b式）

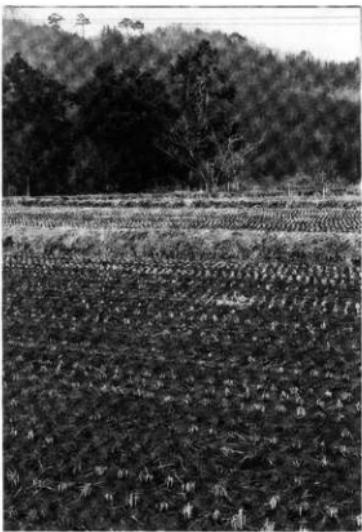


# 写 真 図 版





調査区全景①（南から）

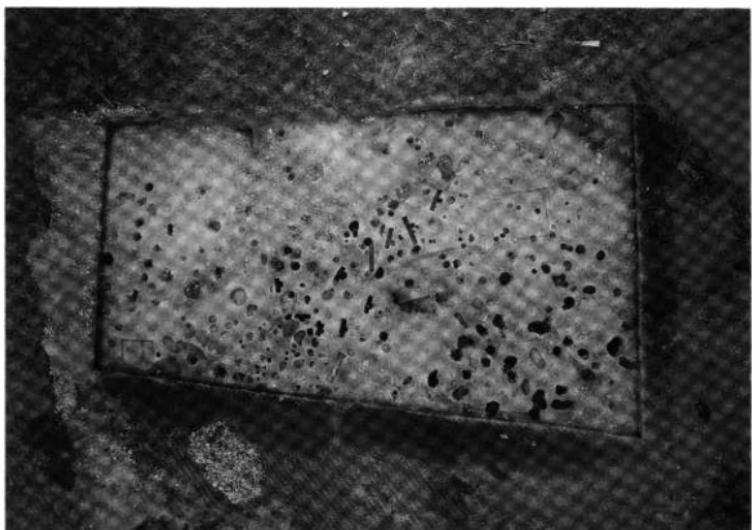


調査前風景

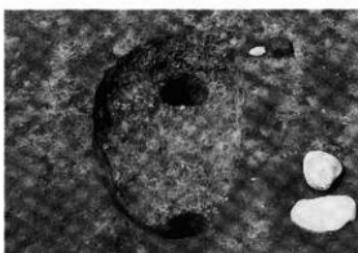


基本層序

写真図版1 調査区全景①・調査前風景・基本層序

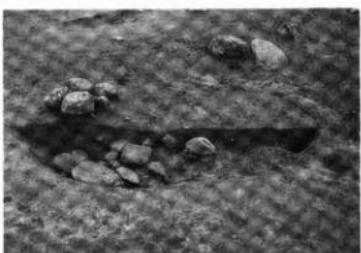


調査区全景②

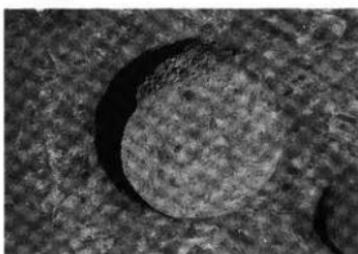


1号土坑

平面

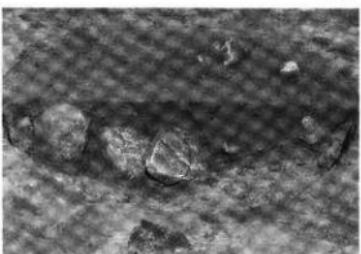


断面



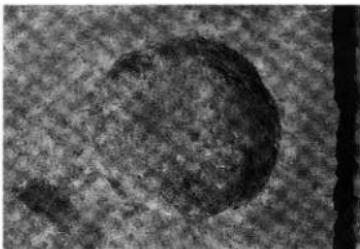
2号土坑

平面



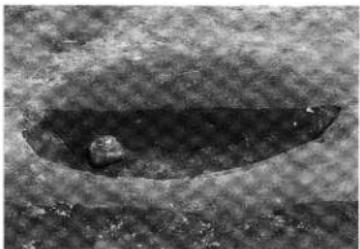
断面

写真図版2 調査区全景②・1・2号土坑

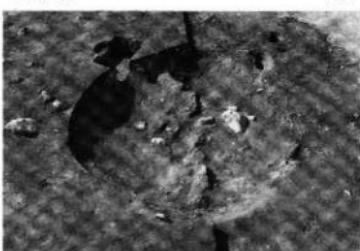


3号土坑

平面

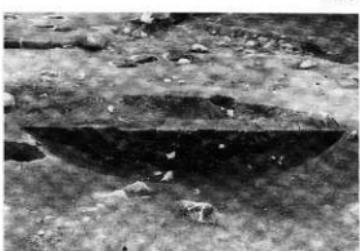


断面



4号土坑

平面

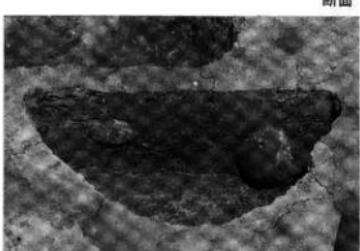


断面

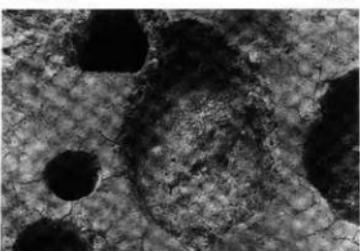


5号土坑

平面

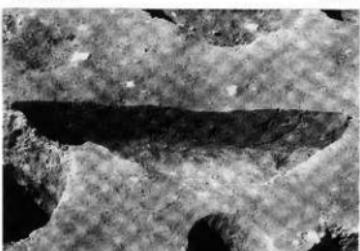


断面



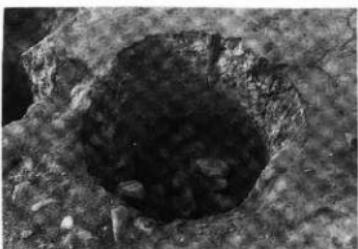
7号土坑

平面



断面

写真図版 3 3～7号土坑



8号土坑

平面

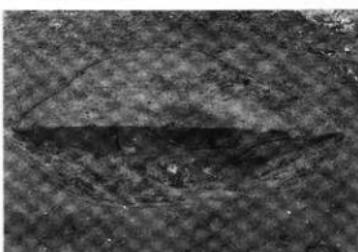


作業風景



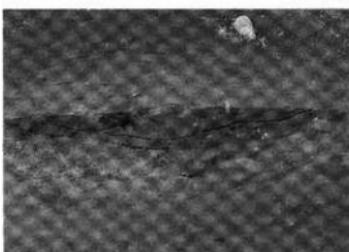
1・2号焼土遺構

平面



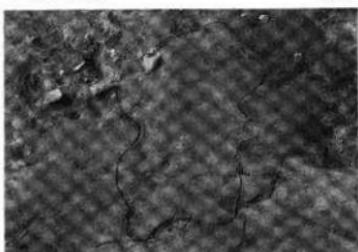
1号焼土遺構

断面



2号焼土遺構

断面



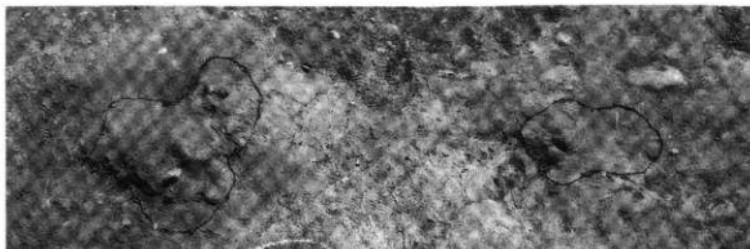
3号焼土遺構

平面



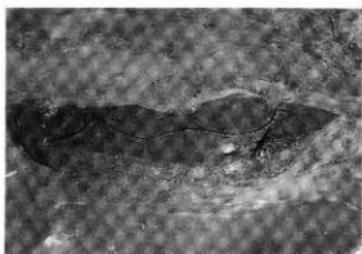
断面

写真図版4 8号土坑・1～3号焼土遺構



4・5号焼土遺構

平面



4号焼土遺構

断面



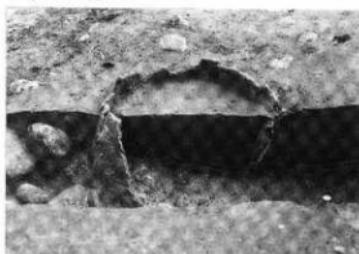
5号焼土遺構

断面

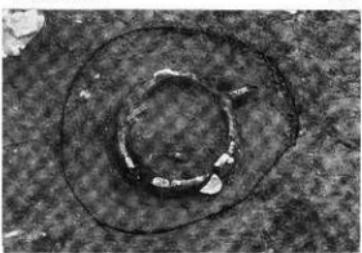


1号埋設土器

平面



断面



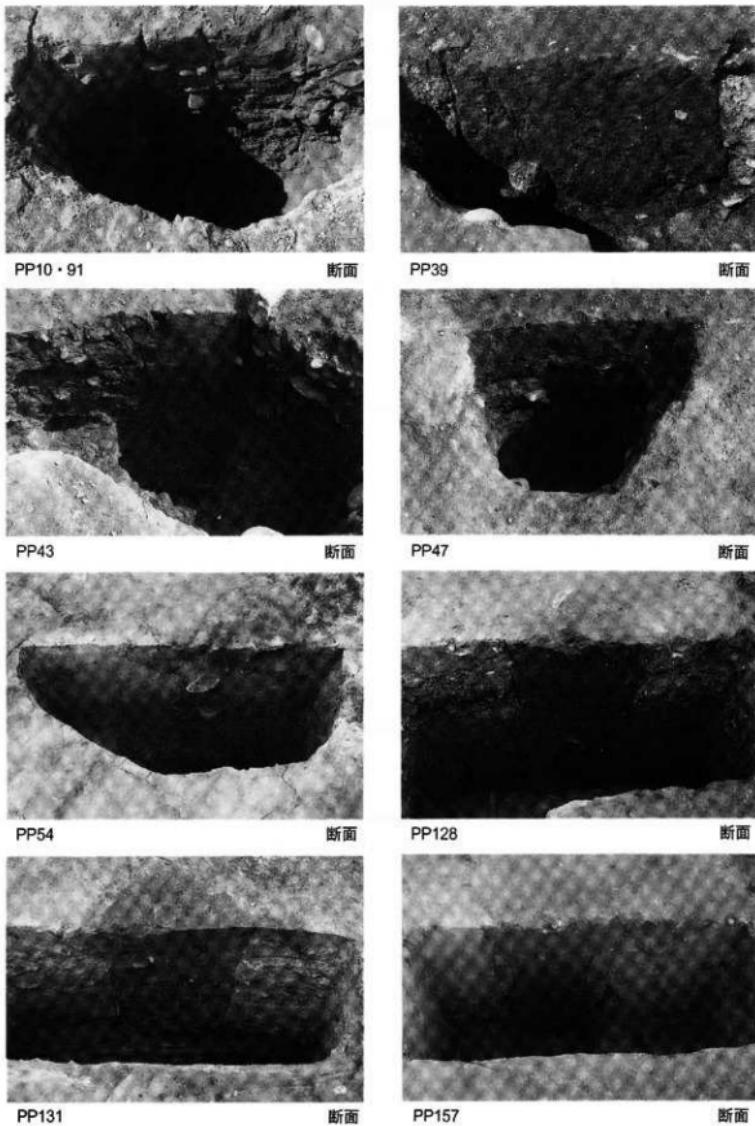
2号埋設土器

平面



断面

写真図版5 4・5号焼土遺構・1・2号埋設土器



写真図版 6 柱穴群

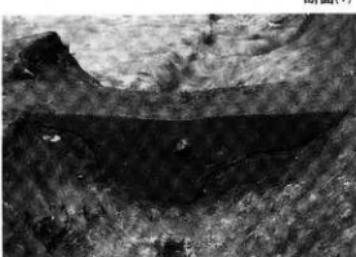


1号溝跡

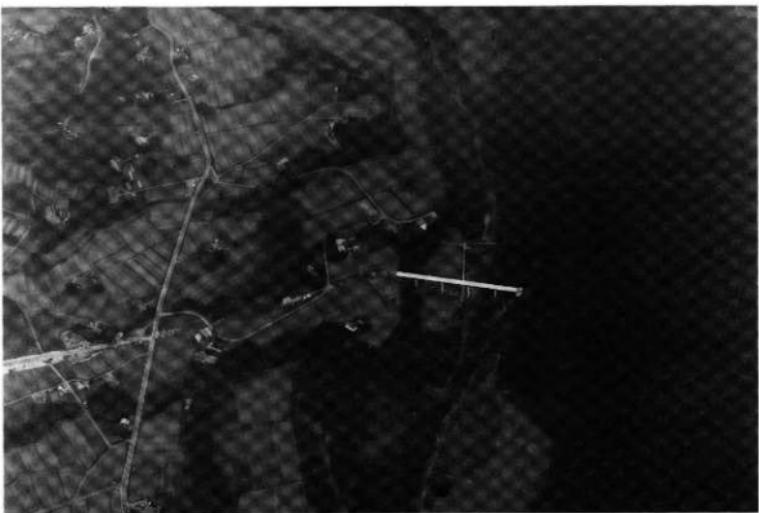
平面



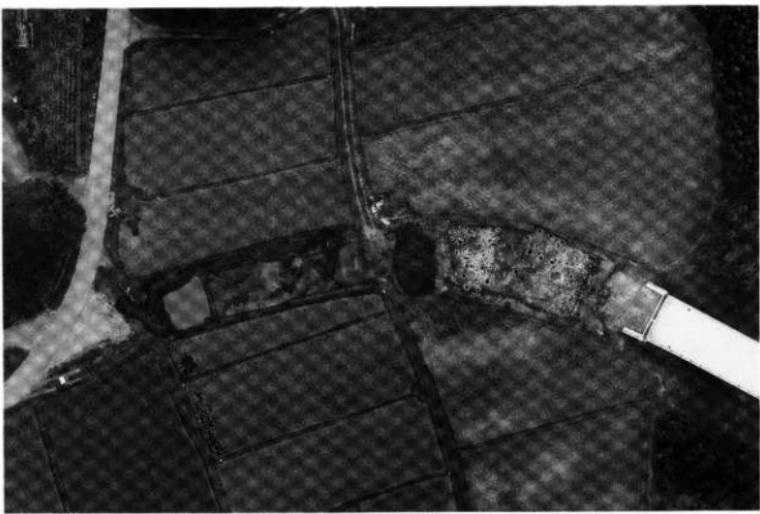
断面(1)



断面(2)

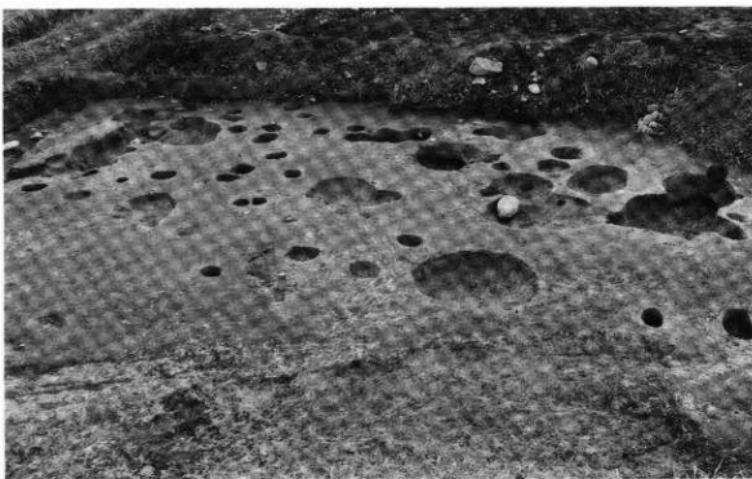


調査区遠景

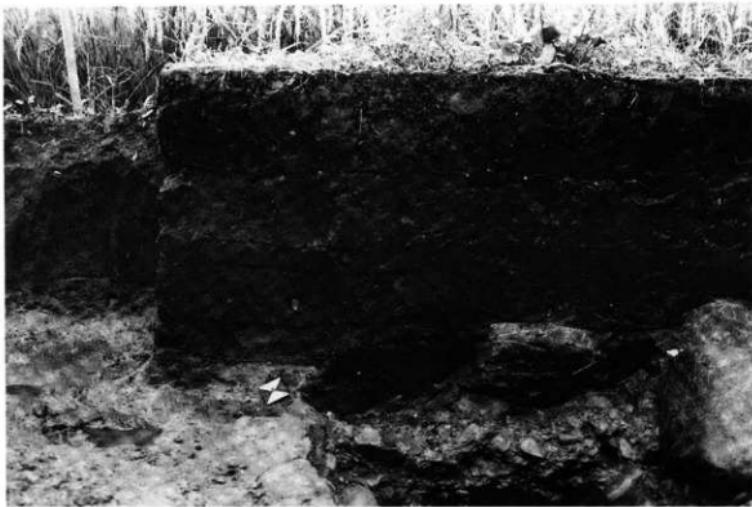


調査区近景

写真図版 8 調査区全景

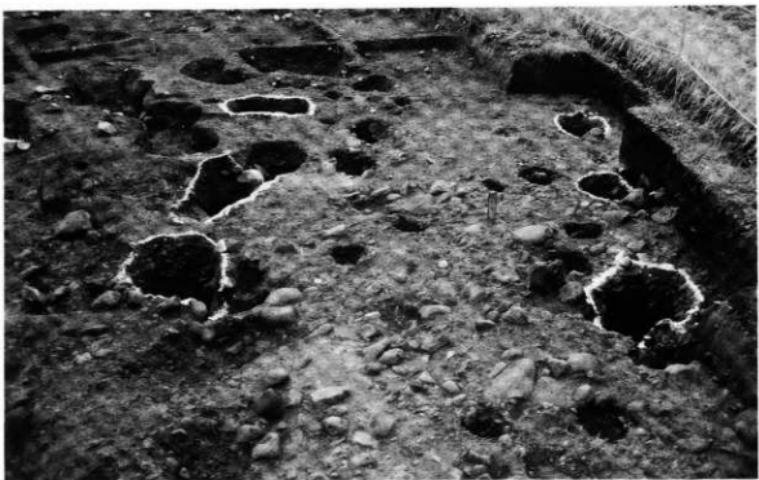


調査区中央部全景

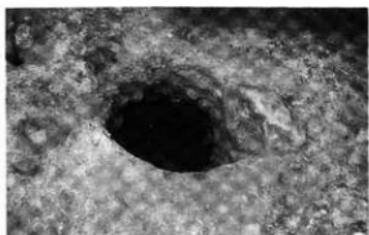


基本層序

写真図版 9 調査区中央部全景・基本層序

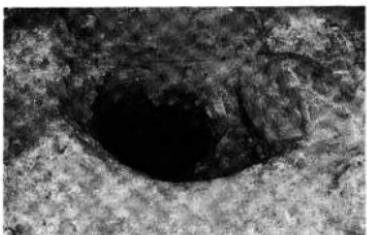


RB01 全景

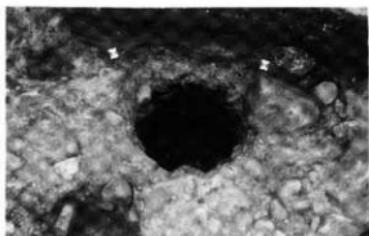


RB01 - A

平面

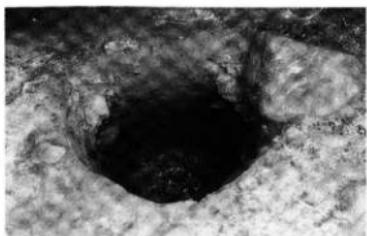


断面



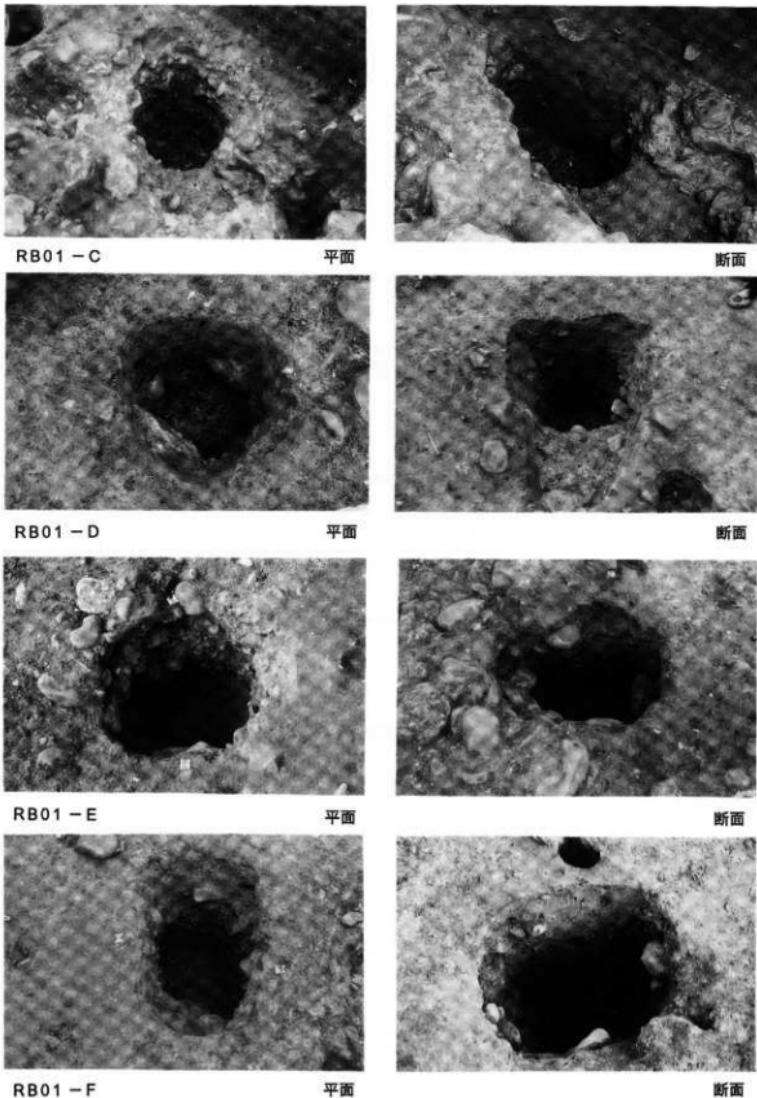
RB01 - B

平面

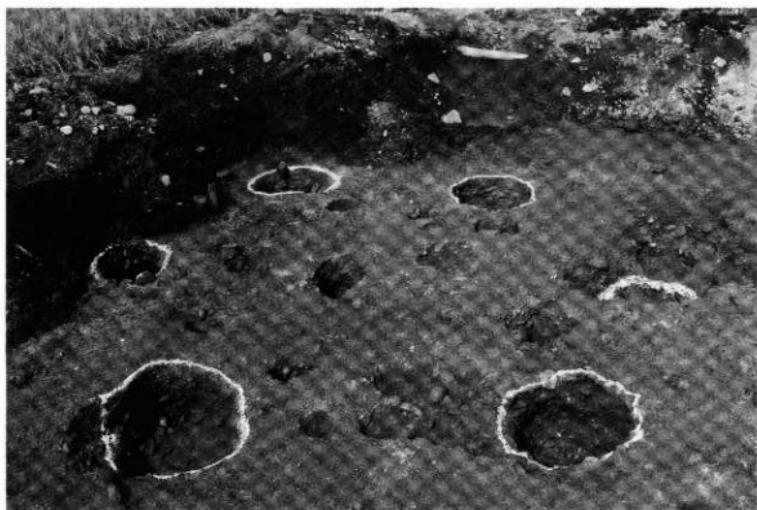


断面

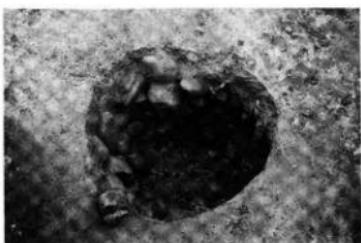
写真図版 10 RB01 捩立柱建物跡(1)



写真図版 11 RB01 挖立柱建物跡 (2)



RB02 全景

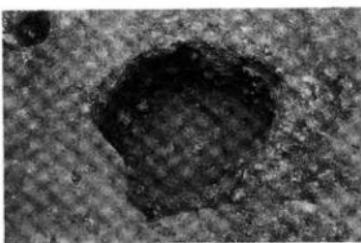


RB02 - A

平面

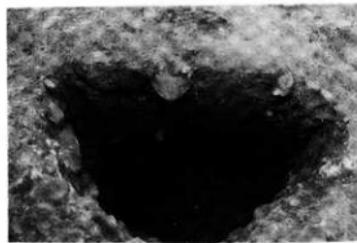


断面



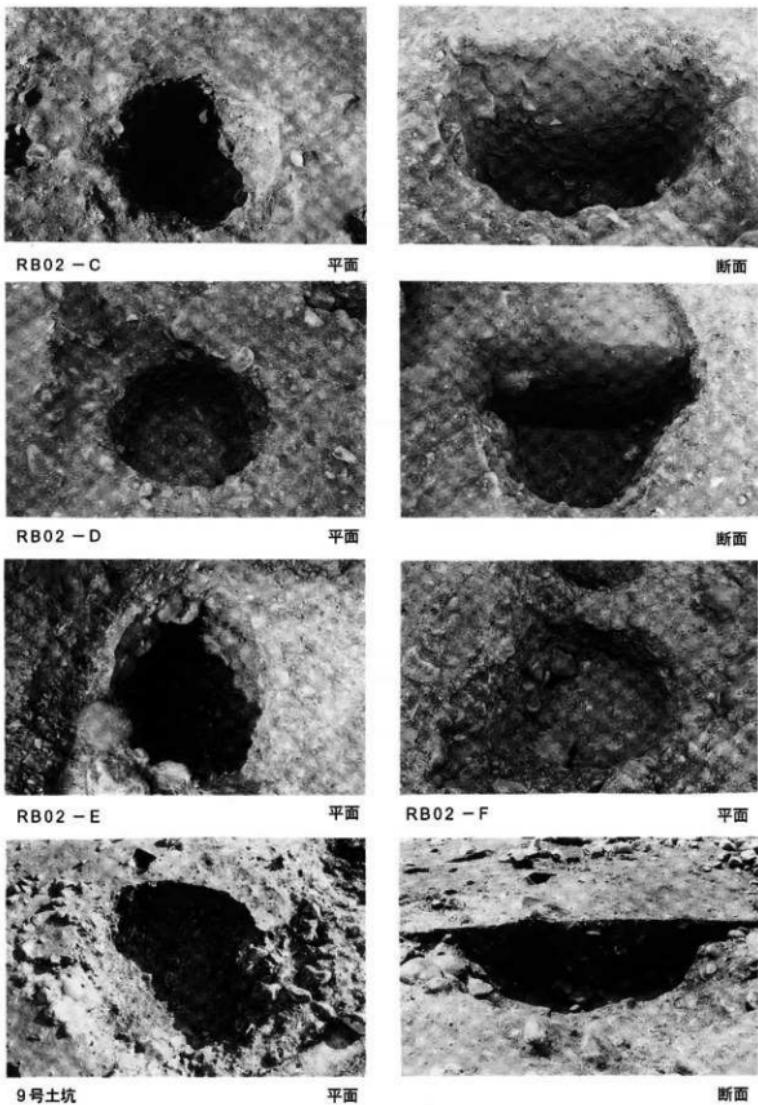
RB02 - B

平面

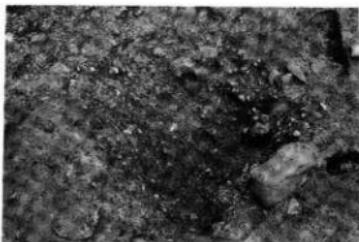


断面

写真図版 12 RB02 据立柱建物跡(1)



写真図版 13 RB02 掘立柱建物跡 (2)・土坑 (1)



10号土坑

平面



断面

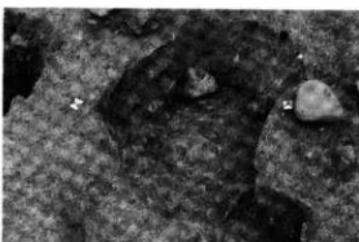


11号土坑

平面



断面

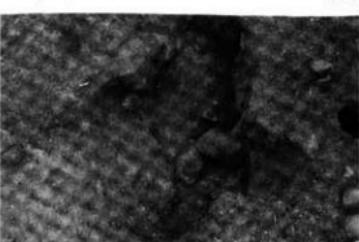


13号土坑

平面

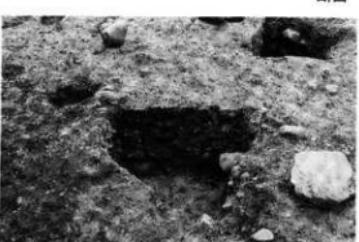


断面



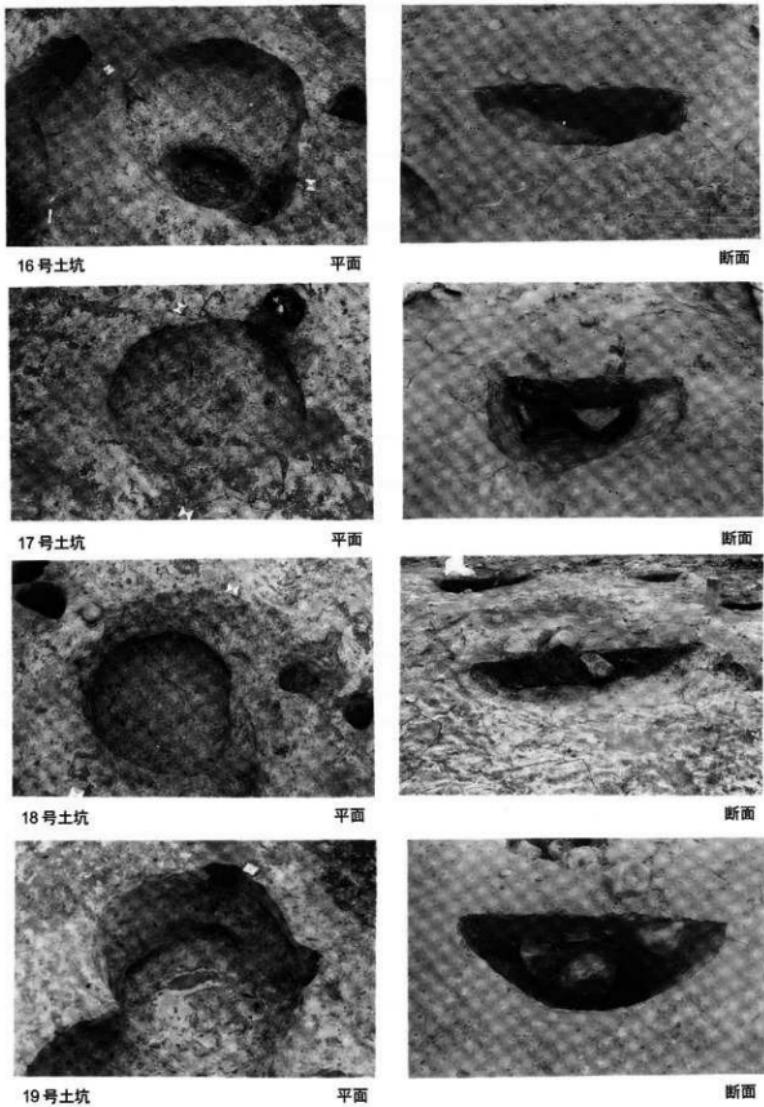
14号土坑

平面

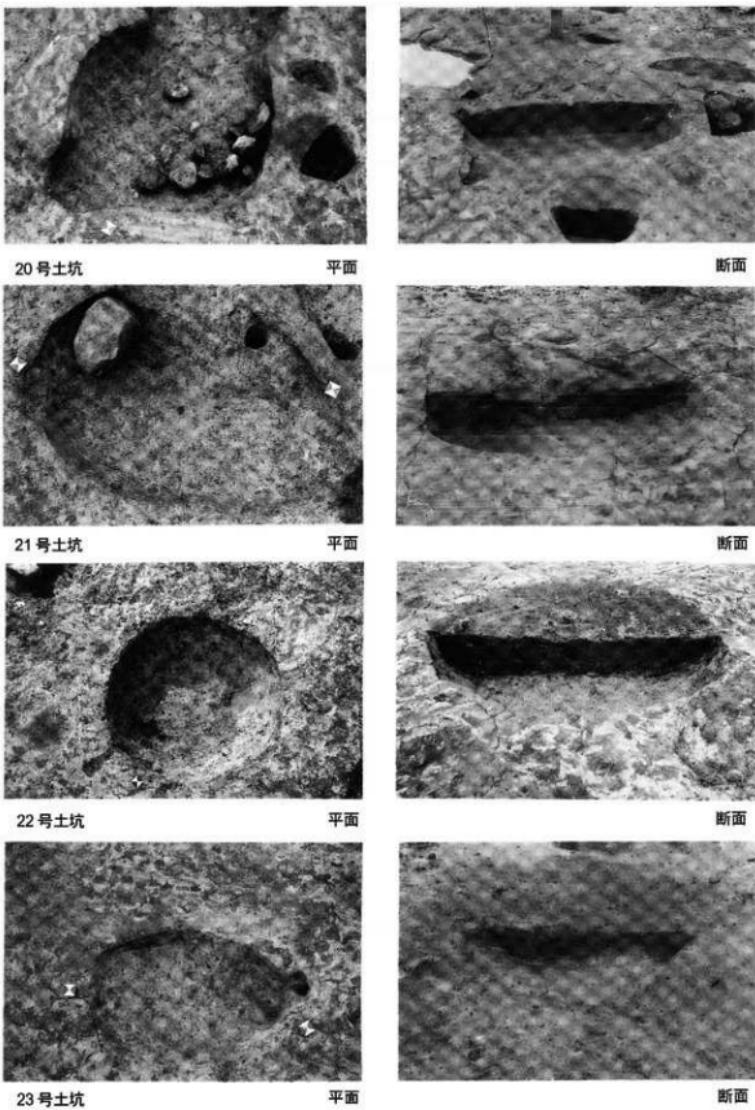


断面

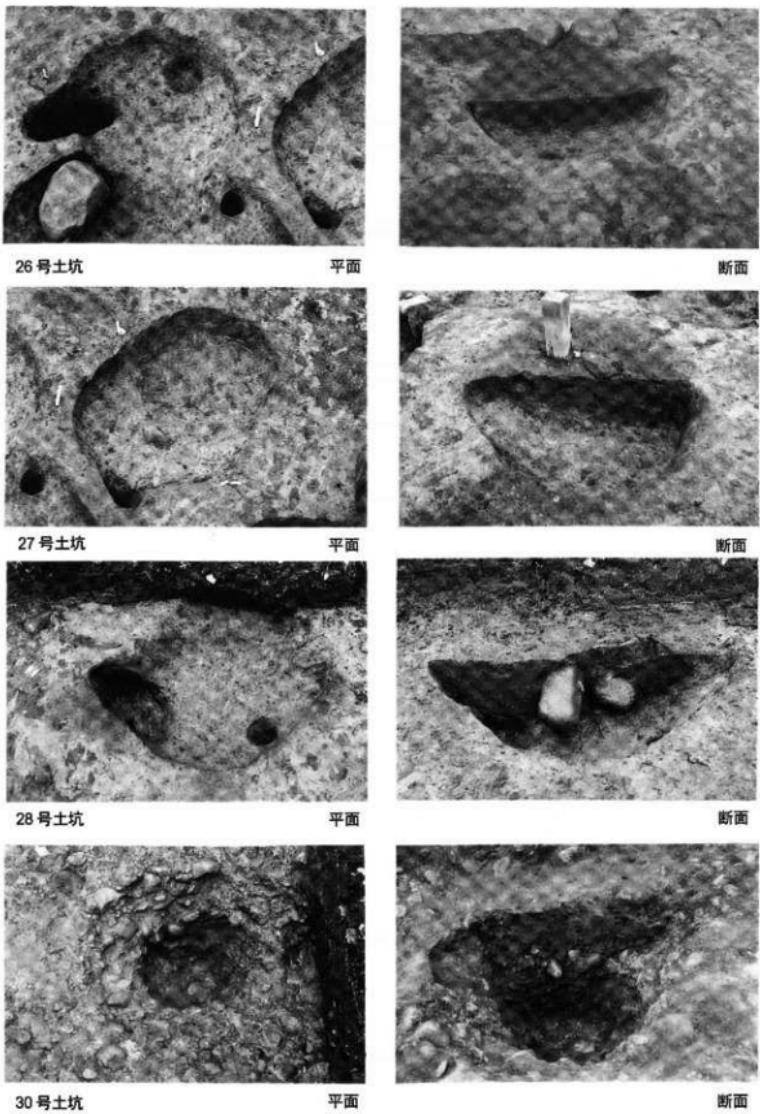
写真图版 14 土坑 (2)



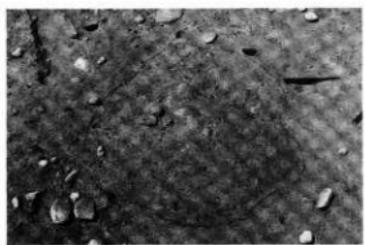
写真図版 15 土坑(3)



写真図版 16 土坑(4)



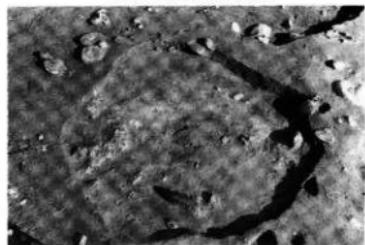
写真図版 17 土坑 (5)



6号焼土遺溝検出状況

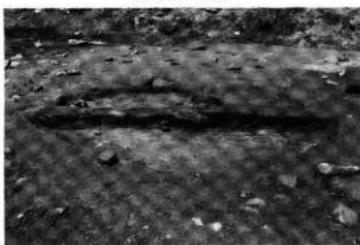


遺物出土状況

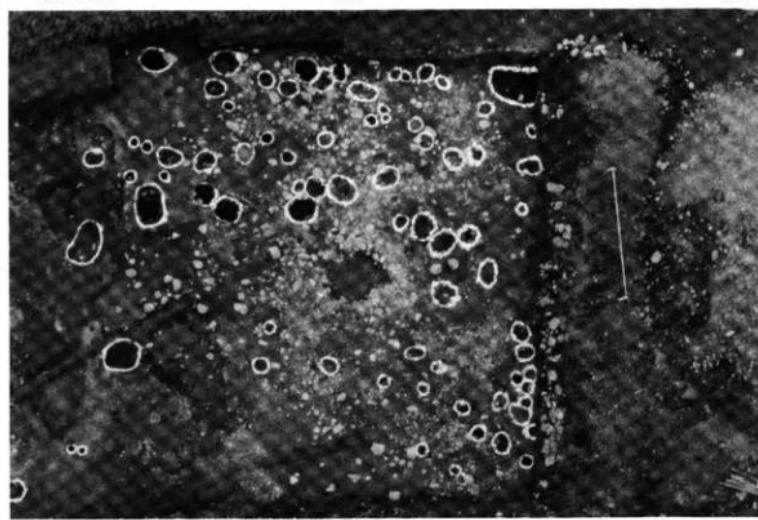


6号焼土遺溝

平面

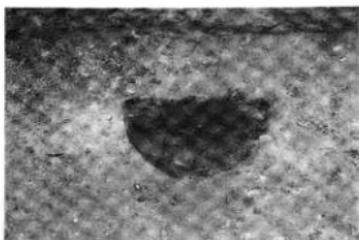


断面



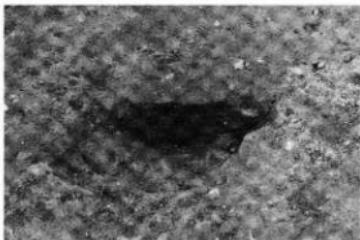
柱穴群（調査区南端部）

写真図版 18 焼土遺溝・柱穴群(1)



PP 233

断面



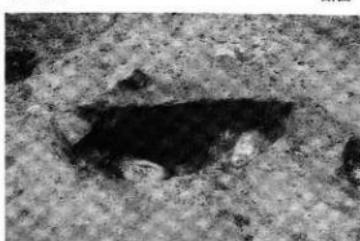
PP 234

断面



PP 236

断面



PP 237

断面



PP 239

断面



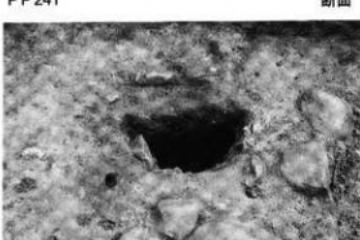
PP 241

断面



PP 242

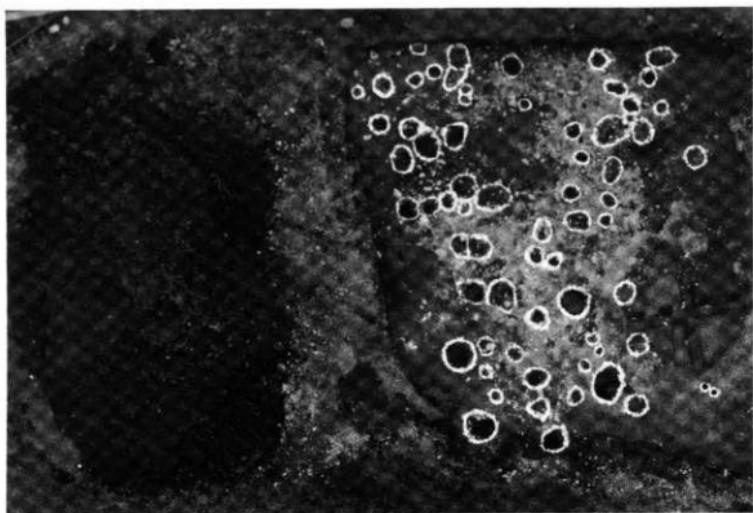
断面



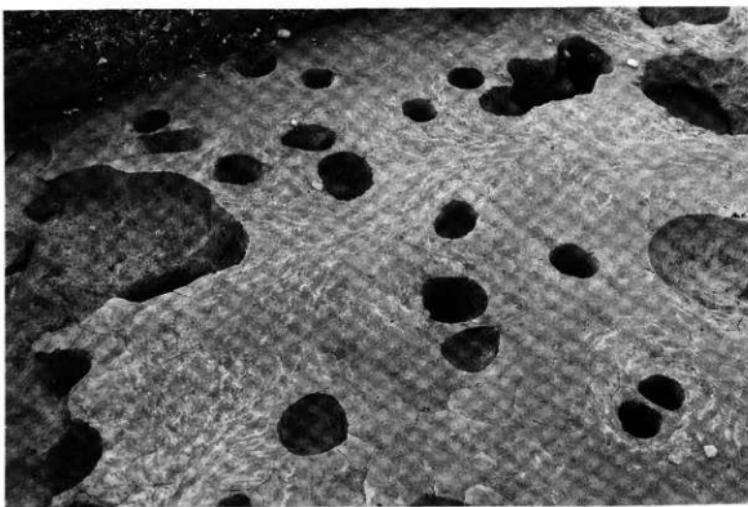
PP 244

断面

写真図版 19 柱穴（調査区南端部）

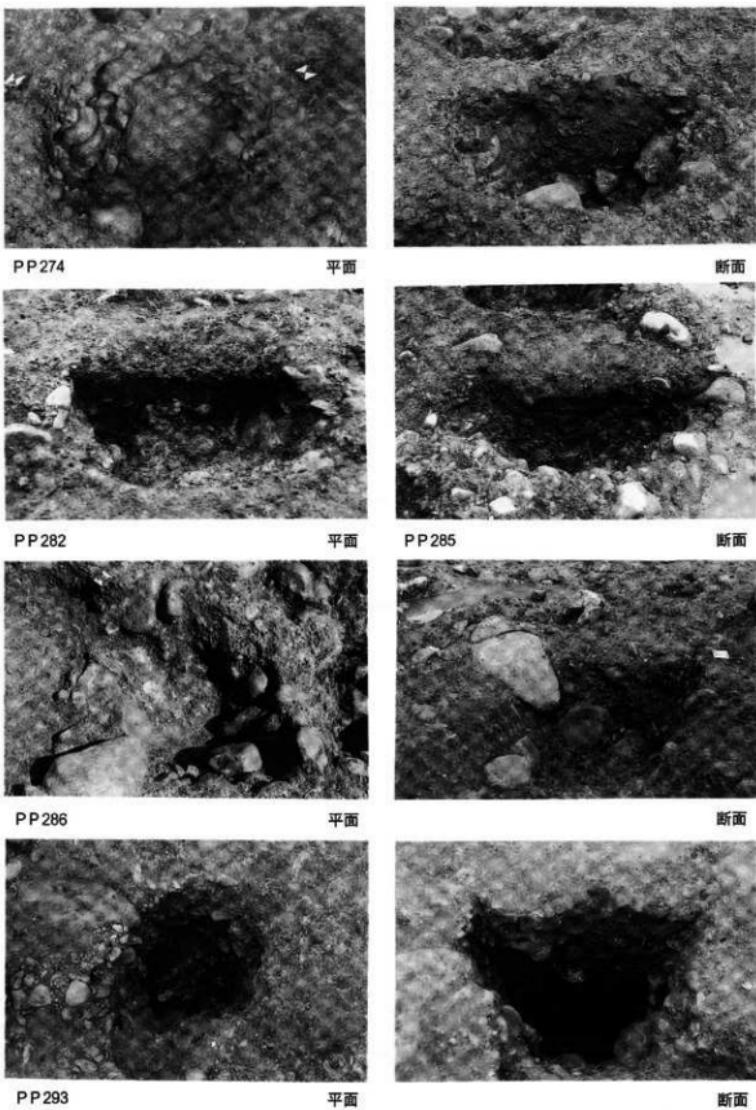


柱穴群（調査区南側中央部）

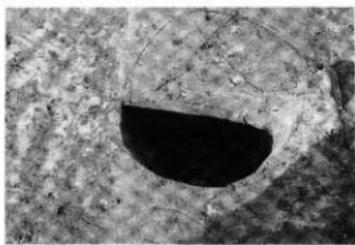


柱穴群（調査区中央部）

写真図版 20 柱穴群 (2)

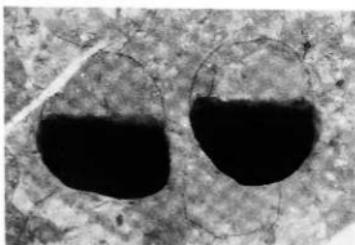


写真図版 21 柱穴（調査区南側中央部）



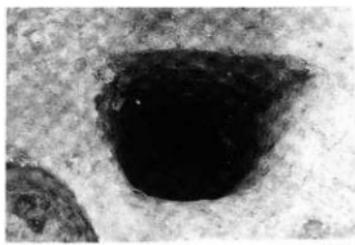
PP 301

断面



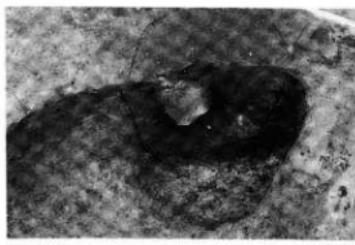
PP 306、307

断面



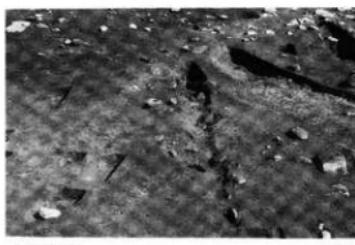
PP 320

断面



PP 321

断面

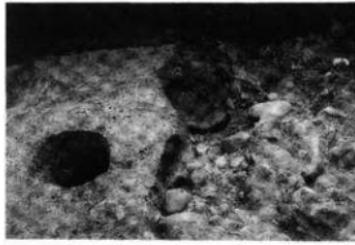


2号溝跡

平面

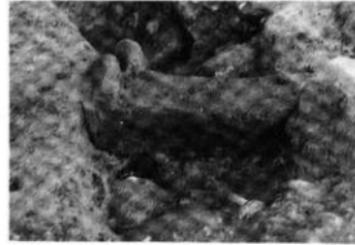


断面



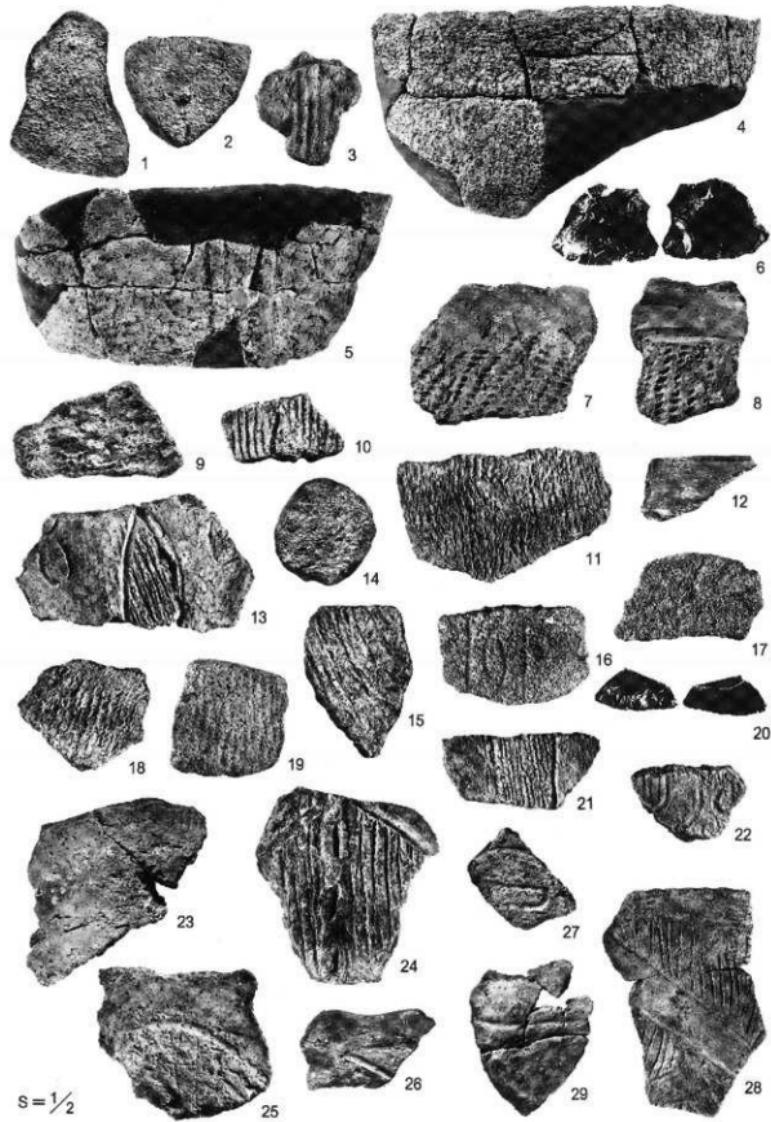
3号溝跡

平面

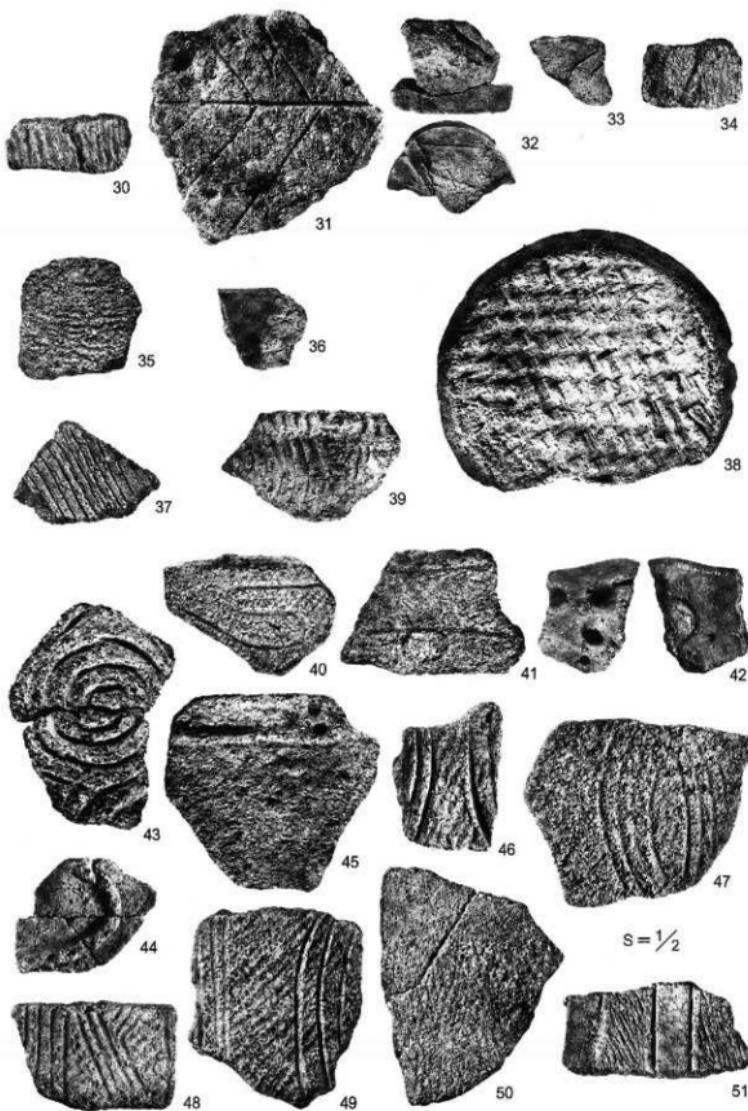


断面

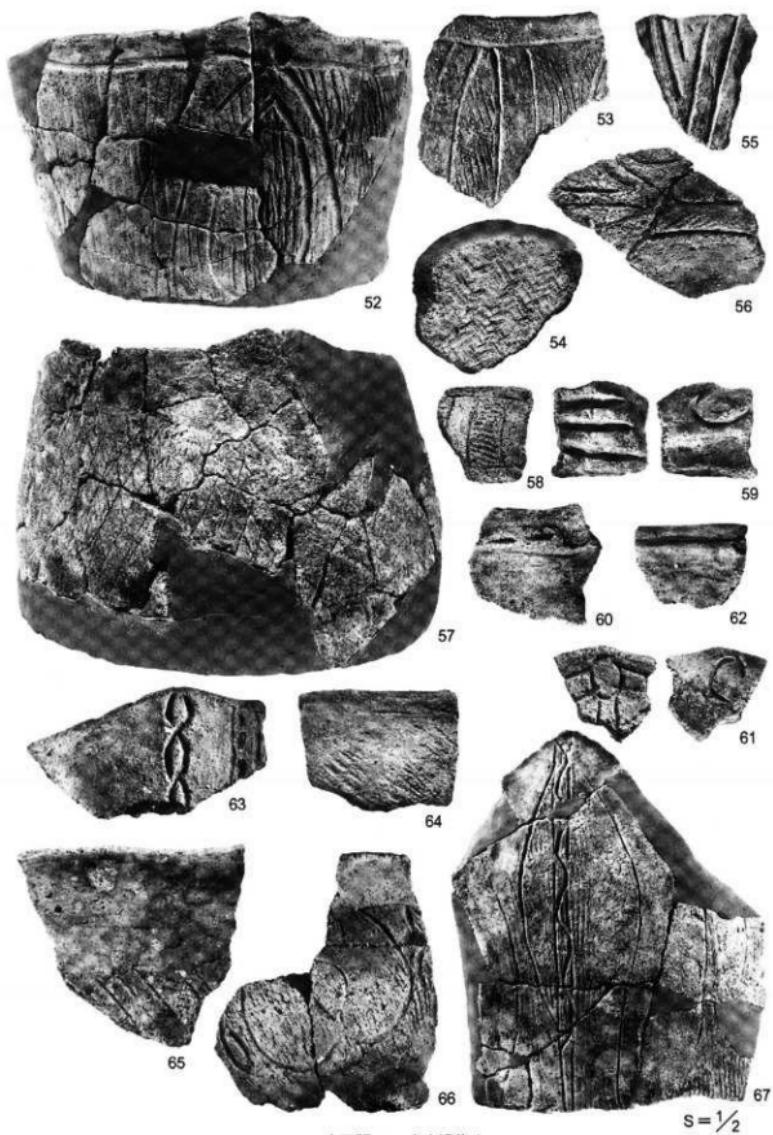
写真図版 22 柱穴（調査区中央部）、溝跡



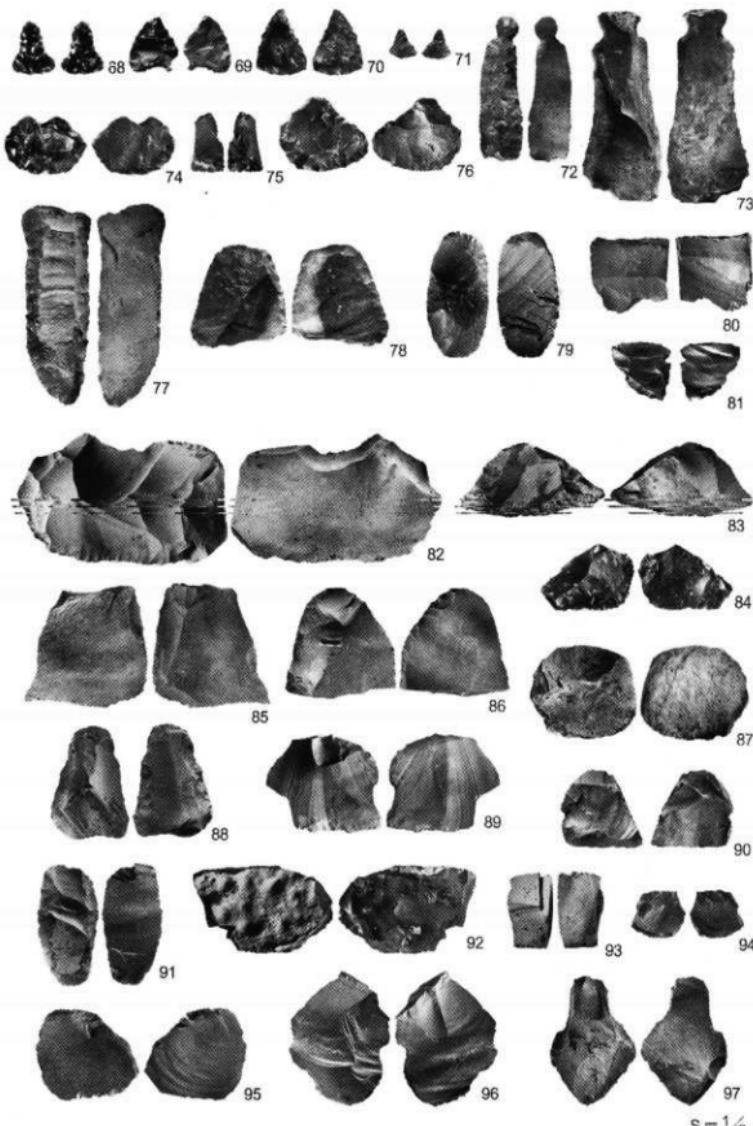
写真図版 23 出土遺物 1



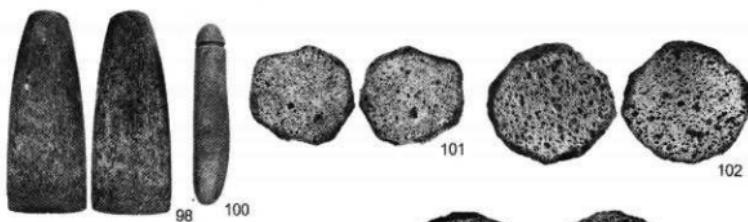
写真図版 24 出土遺物 2



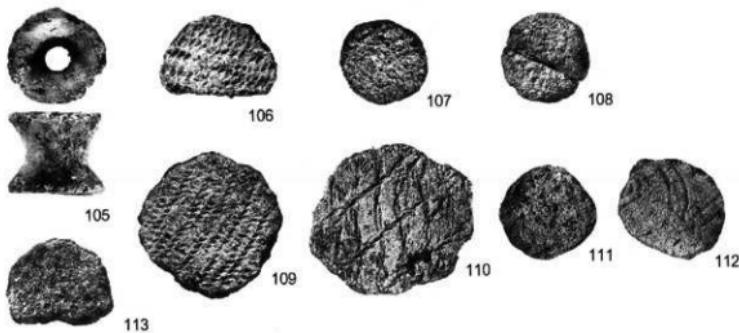
写真図版 25 出土遺物 3



写真図版 26 出土遺物 4

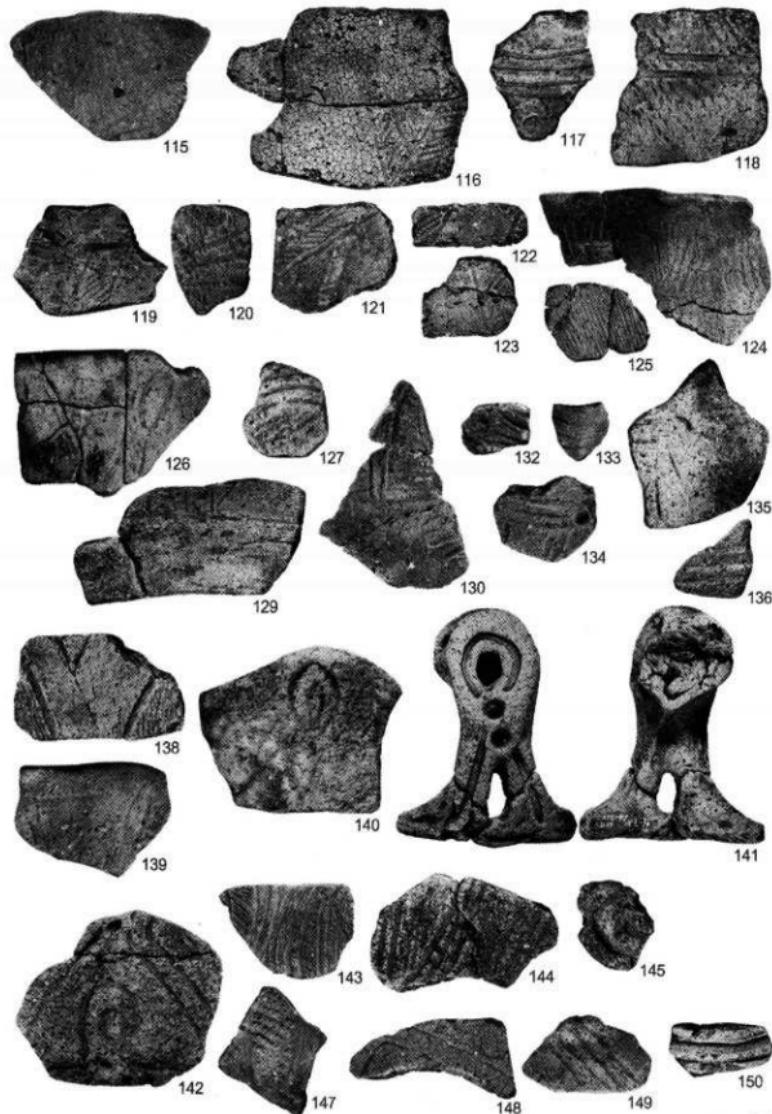


$S = 1/2$



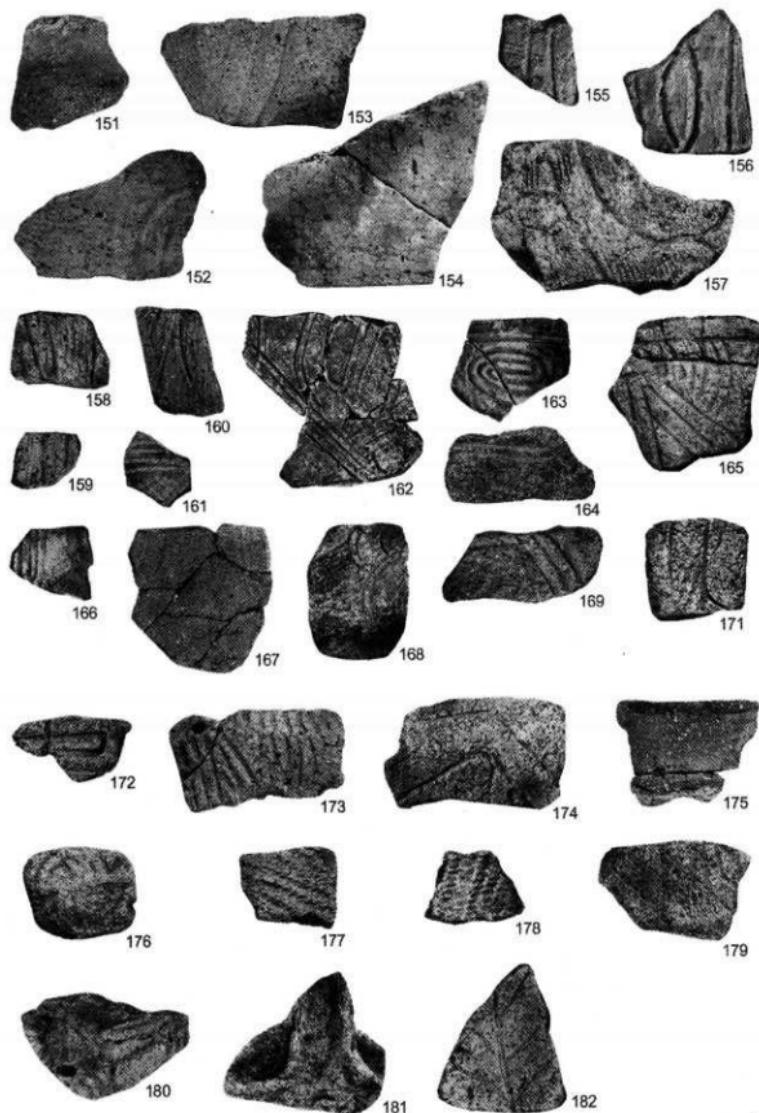
$S = 1/2$

写真図版 27 出土遺物 5



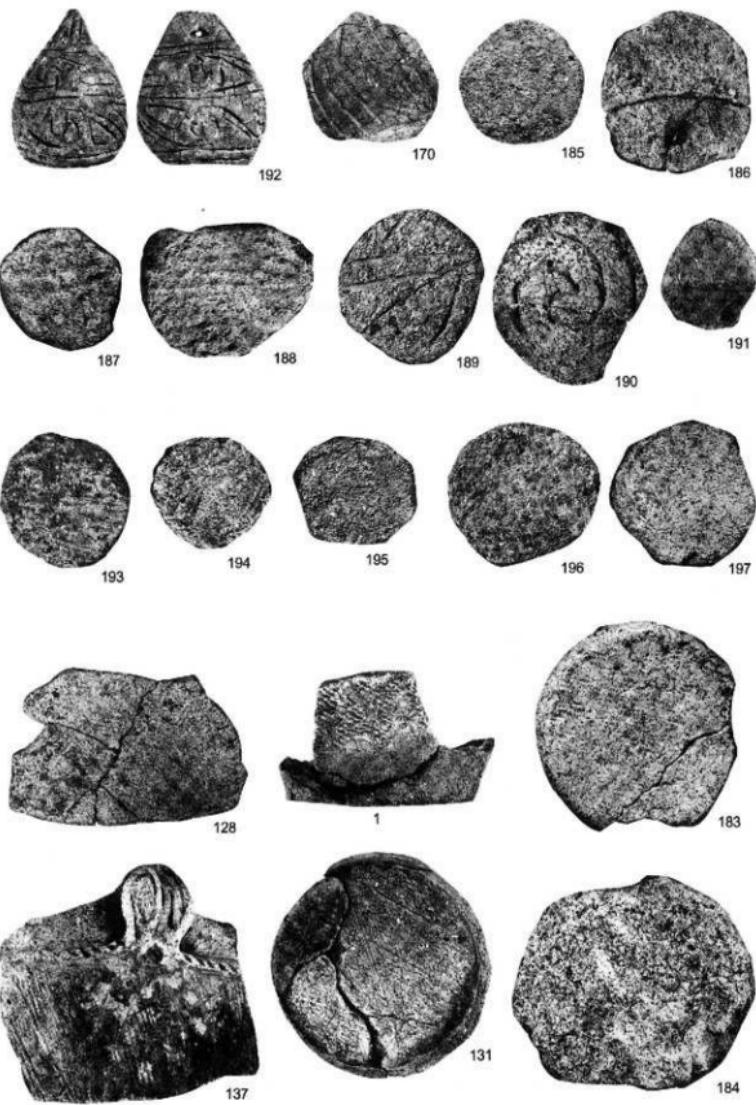
S = 1/2

写真図版 28 出土遺物 6



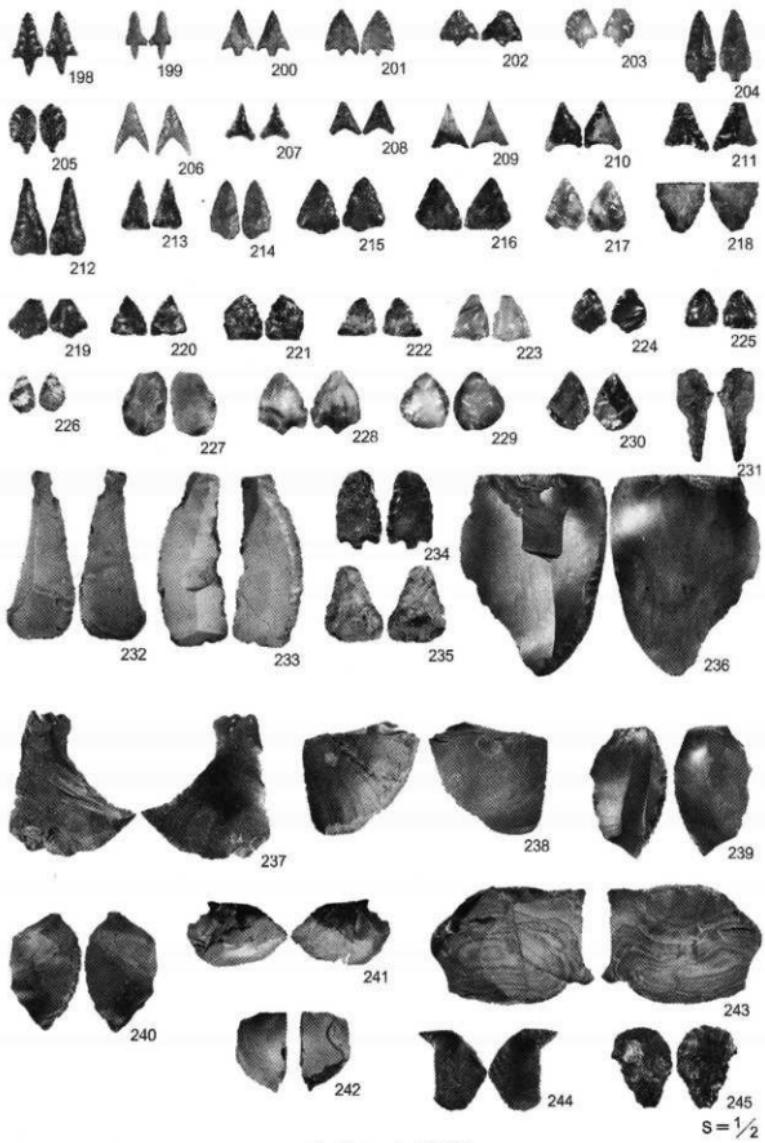
$S = 1/2$

写真図版 29 出土遺物 7

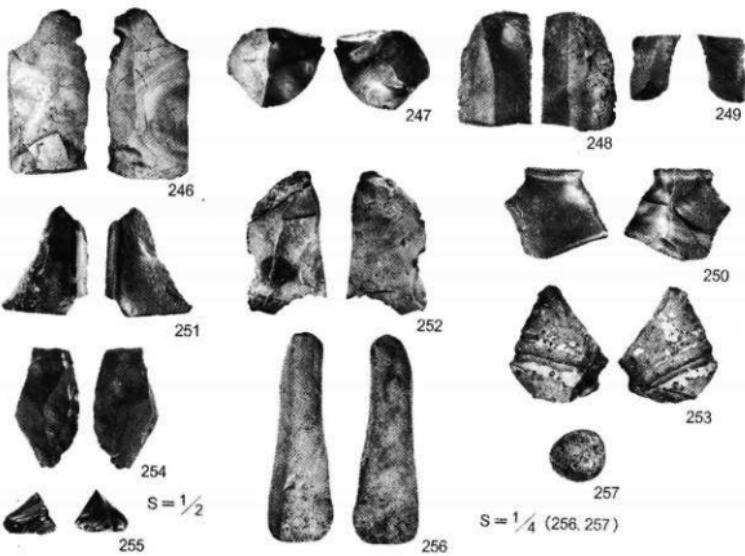


写真図版 30 出土遺物 8

$192, 170, 185 \sim 197 \cdots S = \frac{2}{3}$   
 $128, 131, 137, 183, 184 \cdots S = \frac{1}{3}$



写真図版 31 出土遺物 9



写真図版 32 出土遺物 10

## IV 本巻遺跡

所 在 地 衣川村大字上衣川字本巻 43-13  
委 託 者 水沢地方振興局水沢農村事務所  
事 業 名 広域農道整備事業胆沢南部地区  
発掘調査期間 平成 10 年 10 月 2 日～10 月 30 日  
調査対象面積 510 m<sup>2</sup>  
発掘調査面積 500 m<sup>2</sup>  
遺跡番号略号 NE 64-1016 MM-98  
調査担当者 烏居達人・佐々木志麻  
協力機関 衣川村教育委員会





図1 調査区と周辺図

## 1. 遺跡の環境

### (1) 遺跡の位置と環境

本巻遺跡は、胆沢郡衣川村上衣川字本巻43-13ほかにあり、衣川村の南西部に存在する。遺跡コードは、NE64-1016である。

東北自動車道平泉前沢インターチェンジから西方約8km、衣川役場のある古戸地区から南西に約5kmに位置する。南方1kmにはみちのく古都カントリークラブがある。

西には奥羽山脈山系に所属する高檜能山(927.1m)、綿山(683.6m)、国見山(788.1m)などがあり、それらを起点とする北俣川や南俣川が西流し古戸地区で合流、衣川となって北上川に注ぐが、本巻地区はその2つの川に挟まれたところにある。

### (2) 遺跡の立地

南俣川と北俣川に挟まれた本巻地区は、国見山の東方の蛭沢山から流れ出る南俣川の支流の北沢川が東流する沢沿いにある。その北沢川が大きく南側に蛇行し、舌状に張り出した河岸段丘の南端に遺跡は立地している。遺跡南端の川沿いは急激に落ち込み、一部平地が残るが泥炭地で非常に水はけが悪く、日当たりもよくな。

周囲は主に水田が広がるが、それにともない水路やため池が設営されており、また水田を改変して畑に変わっているところもある。よって遺跡の保存状況はよくないものと推定される。

### (3) 遺跡の基本層序(第2図)

調査区域は、ほぼ面積を同じくして現況が水田である西側と、畑地である東側の二つに分けることができる。標高は西側が1m程度高くなっている。第2図の基本層序図は西側の層位を示したものであるが、大きく7層に区分ができる。比較的耕作土が厚く堆積しており、旧耕作土下の黒褐色土から土器片が集中して出土している。暗褐色土からも土器片が出土するが少ない。最下層の褐色土・黄褐色土は砂質で、標高が低い区域からは水がわき出す。

東側は、畑の造成のためか、あるいは旧沢跡・ため池なのかは判別しないが、基本層序のII・III・IV・V層はほとんど存在しない。(V層のみ若干残る) その下は水が湧き出る灰色がかった黄褐色土の砂土である。

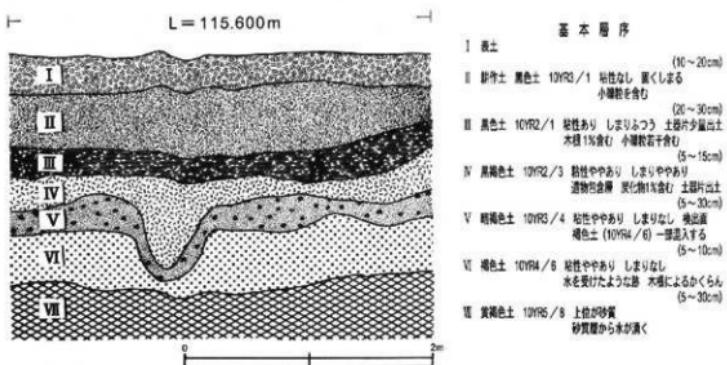
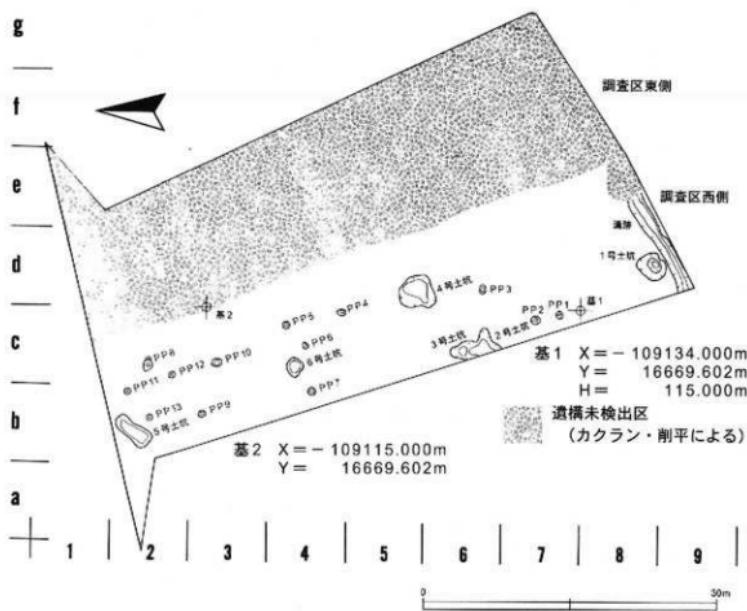


図2 基本層序図

本巻遺構遺構配置図



グリッド設定・トレンチ位置図

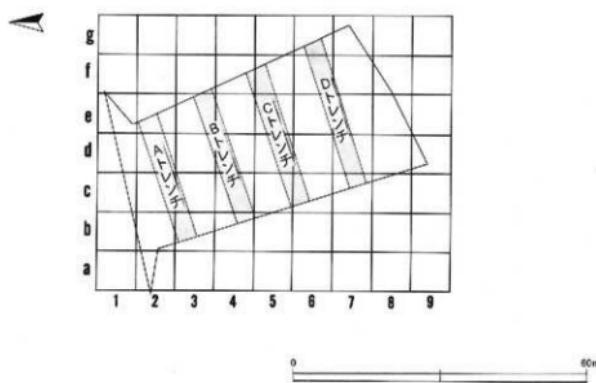


図3 遺構配置図とグリッド設定図

## 2. 検出遺構と出土遺物

調査区域は現況が水田であった西側半分と削平され畠地となった東側半分の2区域に分けることができるが、東側半分は基本土層でも述べたように、西側で遺物が出土するⅢ・Ⅳ層を失っており、またその下のVI層まで精査したが遺構は検出されなかった。西側では、縄文時代の土坑1基、時期不明の土坑5基、柱穴3基、溝状遺構1基を検出した。

### (1) 土坑

#### 1号土坑（図4・7、写真図版3・5）

##### 〈位置・検出状況〉

調査区西側グリッド8dで検出した。溝状遺構のすぐ北側に当たり、調査区域のなかでは最も標高が高い。検出面はIV～V層である。

##### 〈規模・平面形・方向〉

規模は開口部径165×135cm、底部径64×74cmで、主軸を北に見る梢円形である。断面形は皿状であるが、底部にややくぼみをもつ。柱穴状土坑としてもよいであろう。深さは最大で35cmを計る。

##### 〈埋土〉

黒色土の下に暗褐色土をもつ自然堆積である。南側によくしまる褐色土があり、柱穴状に掘られた可能性もある。下位の暗褐色土からは少量の炭化物が検出された。

##### 〈遺物・時期〉

埋土下位の暗褐色土から縄文土器と石器が出土した。1は深鉢の胴部で2本の沈線により渦巻状の文様が施される。一部縦位の鋸歯状の文様もあり底部側は刷り消した痕跡がある。内部はていねいに磨かれている。全体的に小振りで、欠落している口縁部は小さく外反するかもしくは内湾（キャリバー状）すると思われる。2は、深い鉢の口縁部で粘土組紐貼付文による区画内に粘土組紐貼付による渦巻状？の文様が施される。キャリバー状で山形あるいは小波状口縁の可能性もある。1と同じように小振りで、薄いが内面はよく磨かれており焼成はとてもよい。

3は深鉢の胴部で、1・2よりは大型と思われる。

石器の1はたたき石もしくは石斧で埋土の下位から出土した。2は削掻器と思われるが、上部がかけており定かではない。

時期は埋土下位から出土した2つの土器の特徴から縄文時代中期中葉（大木8b式）の遺構であると思われる。

#### 2号土坑（図4、写真図版3）

##### 〈位置・検出状況〉

調査区西側グリッド6c、調査区内で最も標高が低い凹地状の区域での検出である。3号土坑と重複する。また、西側半分は調査区外に伸びると思われる。検出はIV～V層である。

##### 〈規模・平面形・方向〉

規模は、開口部推定1m×90cm、底部推定1m50×40cmで、東西に長い梢円形であると思われる。断面形は皿状である。深さは、最大でも20cm程度で浅い。

##### 〈埋土〉

黒褐色土の単層に近く、固くしまる。

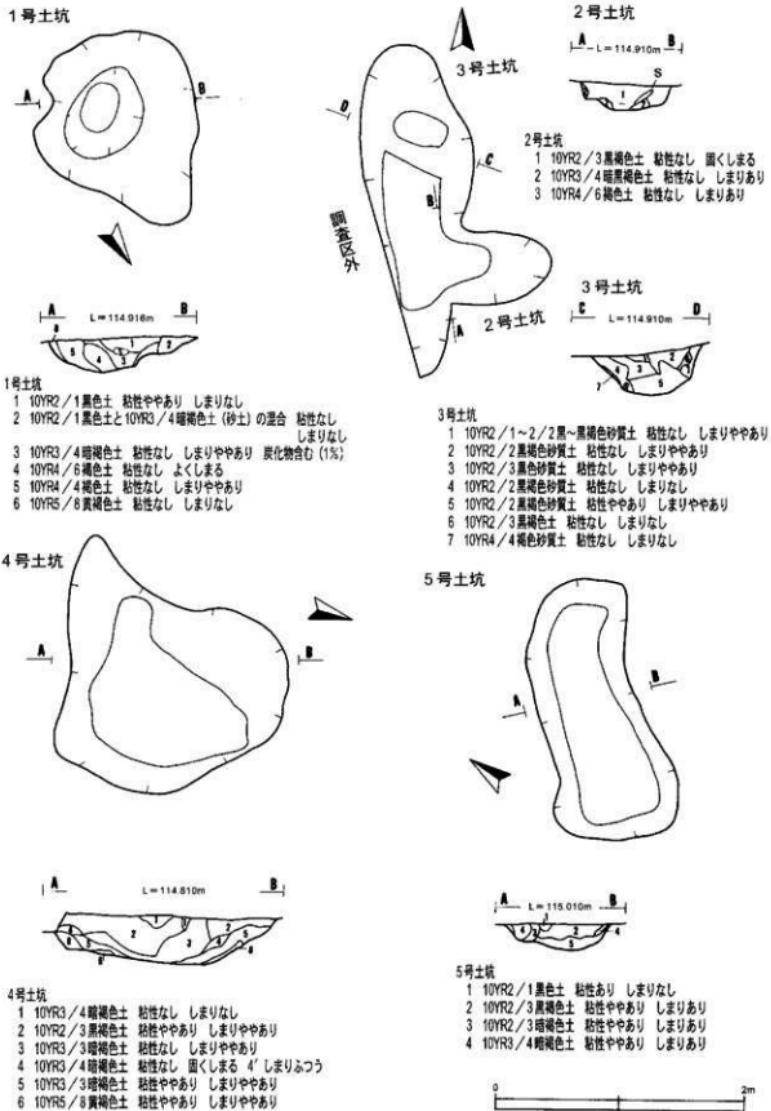


図4 土坑(1)

〈遺物・時期〉

遺物はなく、時期も不明であるが、埋土状況などから1号土坑よりも新しいと思われる。

3号土坑（図4、写真図版3）

〈位置・検出状況〉

位置・検出状況は2号土坑と同じである。よって2号土坑と重複し、南側半分を切られる。

〈規模・平面形・方向〉

規模は、開口部推定1m70×90cm、底部推定1m50×50cmで、南北に長い楕円形であると思われる。

断面形は皿状である。北側底部に柱穴状のくぼみをもつ。最大の深さは45cmを計る。

〈埋土〉

7層に細分されるがほとんどが黒色土または黒褐色土の粘性のない粗い砂の自然堆積である。

〈遺物・時期〉

遺物はなく、時期も不明であるが、1号土坑よりも新しく、2号土坑よりも古いものである。

4号土坑（図4、写真図版3）

〈位置・検出状況〉

調査区西側グリッド5dで検出した。VI層の褐色土からVII層砂質の黄褐色土面での検出である。2・3号土坑の南西側にあり、検出面での標高は2・3号よりなお低い。

〈規模・平面形・方向〉

規模は、開口部1m80×1m60cm、底部1m40×98cmの円形で西側にやや張り出す。断面形は皿状と思われ、最大の深さは38cmを計る。

〈埋土〉

6層に細分され、ややしまりのある黒褐色土と暗褐色土が厚く積もる自然堆積である。

〈遺物・時期〉

遺物はなく時期も不明であるが、埋土状況や周りの遺物から縄文時代である可能性が高い。

5号土坑（図4、写真図版4）

〈位置・検出状況〉

調査区西側グリッド2bで検出した。検出面はVI層である。調査区のもっとも北側に位置する。

〈規模・平面形・方向〉

規模は、開口部2m15×81cm、底部1m80×45cmの隅丸の略長方形で、断面形は皿状を呈す。深さは最大でも20cmと浅い。

〈埋土〉

砂質の黒褐色土が下層に積もり、北側がやや攪乱を受けている。

〈遺物・時期〉

遺物はなく時期も不明であるが、埋土状況などから縄文時代より新しいと思われる。

## 6号土坑（図5、写真図版4）

### 〈位置・検出状況〉

調査区西側グリッド4cで検出した。検出面はVI層である。遺物がもっとも出土しているBトレンチの西側に位置する。

### 〈規模・平面形・方向〉

規模は、開口部1m25×1m10cm、底部62×48cmの真円形に近い形状で、断面形は皿状を呈す。深さは最大35cmである。

### 〈埋土〉

黒褐色土と暗褐色土を中心とした自然堆積で、下部に壁の崩落土と思われる砂質の褐色土が見られる。

### 〈遺物・時期〉

遺物はないが、埋土状況や周辺の遺物から縄文時代である可能性が高い。

## （2）溝跡（図5、写真図版4）

### 〈位置・検出状況〉

調査区西側の最南端、グリッド9d～8eで検出した。南側の調査区外は急激に落ち込んでおり、その落ち込み分と思われたが南側壁の立ち上がりを確認したことから溝跡と登録した。

### 〈規模・平面形・方向〉

西南西から北北東に長さ5m50cmを計り、西側は調査区外に延びると思われる。東側は削平されている。幅は平均で70cmで、断面形は皿状を呈す。深さは最大でも20cm程度である。

### 〈埋土〉

黒色土の単層で、基本層序でいえば、Ⅲ層に当たる。

### 〈遺物・時期〉

遺物はない。近代以降の水路跡ではないかと思われる。

## （3）柱穴（図版5・7図）

調査区西側で13基検出しているが、ここでは3分割して概略で報告し、詳細は表で示す。

### ① PP1～PP3（図5、写真図版4）

調査区西側南部、グリッド6・7c・dで検出。検出面はVI層。深さ、配列とともに、統一性は見られない。PP1は黒褐色土中心の埋土で、深さは35cmである。時代は判別しない。

### ② PP4～PP7（図6）

調査区西側中央部、グリッド4cを中心にして検出。検出面はVI層。深さ、配列とともに、統一性は見られない。周辺の遺物等から縄文時代の住居跡の柱穴の可能性もある。

### ③ PP8～PP13（図6）

調査区西側北部、グリッド2・3b・cで検出。検出面はV層。深さ配列にやや統一性が見られる。PP8の埋土上位からは縄文前期と思われる土器片（図版第7図の4、写真図版5の4）が出土している。また中心に向かってやや円形状に広がることから、これらは縄文時代前期の住居跡の柱穴である可能性もあるが、明確な壁のプランが立たず、炉の跡や焼土等も検出できなかった。

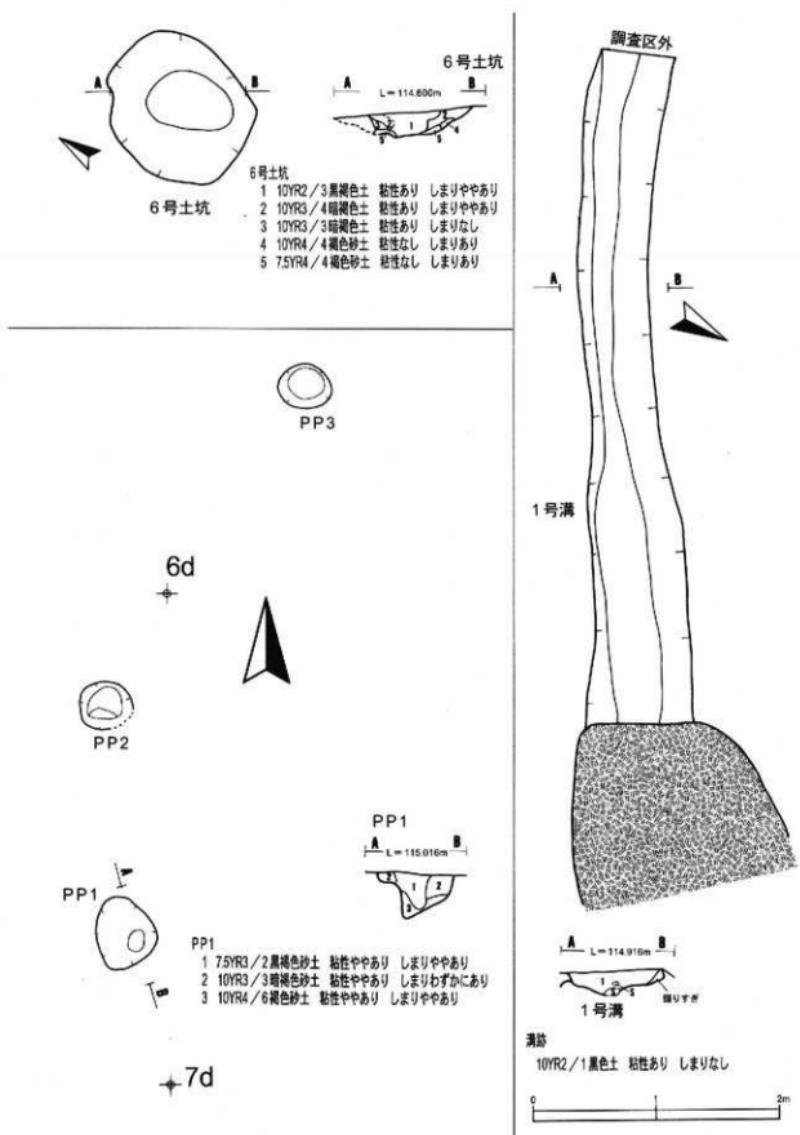


図 5 土坑・溝跡・柱穴(1)

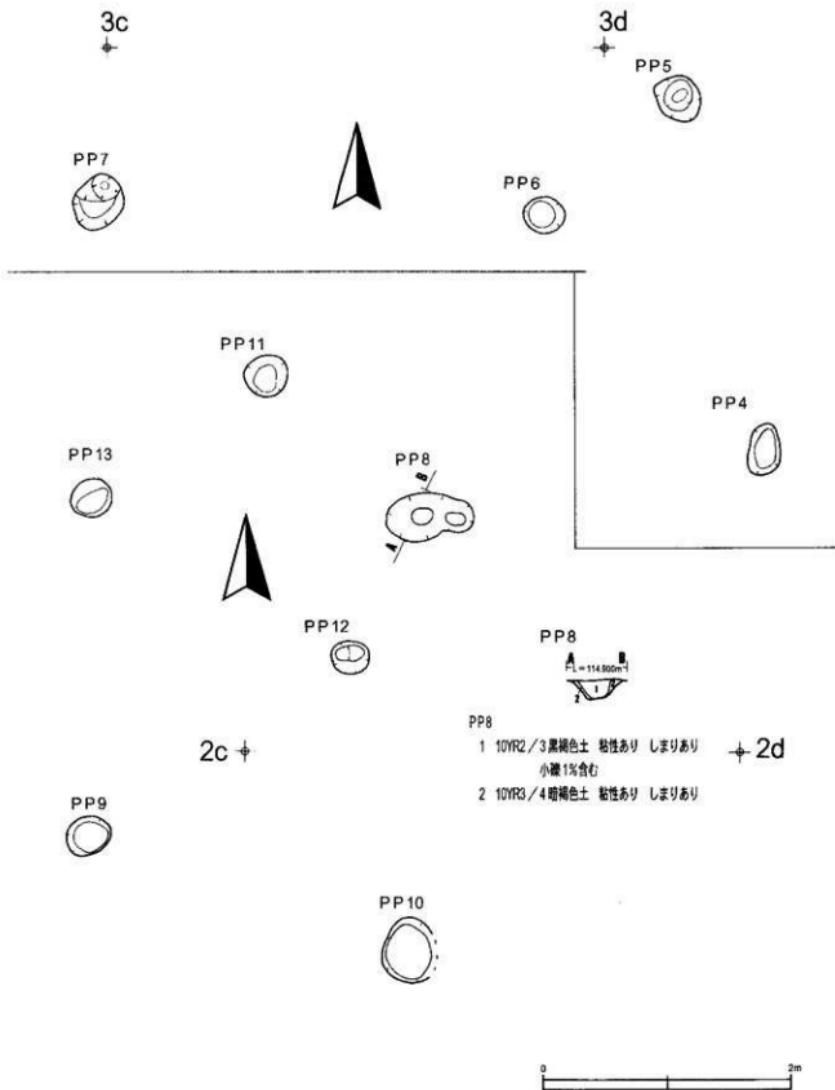


図6 柱穴(2)

柱穴観察表

番号	出土地点	検出面	規模(口径 下径 深さ cm)			埋土等	特筆事項
PP 1	7c	VI層	断面図				
PP 2	6d	VI層	20	17	10	暗褐色砂質土	しまりややあり
PP 3	7c	VI層	30	30	12	暗褐色砂質土	しまりややあり
PP 4	4c	VI層	28	25	12	黒褐色土	しまりややあり
PP 5	4c	VI層	30	10	20	暗褐色砂質土	しまりややあり
PP 6	4c	VI層	26	10	14	暗褐色砂質土	しまりややあり
PP 7	4b	VI層	32	20	14	黒色土	しまりややあり
PP 8	2c	V層	断面図			埋土上位から土器	
PP 9	3b	V層	30	25	7	黒褐色土	しまりなし
PP 10	3c	V層	32	20	14	黒褐色砂質土	しまりややあり
PP 11	2b	V層	27	11	8	暗褐色砂質土	しまりややあり
PP 12	2c	V層	33	19	10	黒褐色土	しまりあり
PP 13	2b	V層	28	20	8	暗褐色土	固くしまる

## (4) 遺構内外出土遺物

遺物としては、遺構内外にかかわらず縄文土器は大コンテナ2箱、石器は小コンテナ1箱出土した。これらはほとんどが西側調査区での出土であるが、東側調査区の耕作土中あるいは精査中に堆土とした土中から出土したものもある。

そのなかで、遺構外として出土した土器片・石器の中から、土器は口縁部を中心に比較的文様や地文の残存度の高いものや特徴的なものを46点、石器は完成品を中心に24点取り上げた。

## ①縄文土器

縄文土器は1号土坑から縄文時代中期中葉ごろと思われる深鉢(1・2)が出土しているが、全体的にPP8の埋土から出土した4を含めて、縄文時代前期後葉から中期前葉と思われる土器片が多数を占める。ここでは口縁部と思われる部位から胴部・ミニチュア土器(土製品)まで、時代・時期の判別ができるものから不明のものの順に並べている。

## ●縄文時代前期後葉に相当すると思われる土器(図7、5~20 写真図版5)

5は羊頭状・6は渦巻状の突起をもつ。7・8は細い粘土紐を貼り付けて文様を描いている。9・10は口唇部に太い粘土紐が横走し、10は2重に装飾されている。

11・12は鋸歯状の沈線主体の装飾帯をもつものである。11は縦位で太くはっきりと描かれているが、12は横平行で11より細いが、文様が細かい。どちらも平行沈線で区画されている。

刺突文もしくは押し引き文を施しているものは比較的多い(13~20)。13・14は刻み目鋸歯状の突起を形成し13はその下に短い沈文、14は口縁部が肥厚し上下に大きな沈文を施している。15は横に巡らす粘土紐上に円形の刺突文、16は縦位に垂下する粘土紐上に沈文が施される。

17~20は上記のうち装飾帯をもつものや隆帶をもつもので、沈線で区画し、その内側をなでているものもある。

●縄文時代中期前葉に相当すると思われる土器（図8～9、21～29、写真図版5・6）

21は肥厚している口縁部の中を割り取り2本の隆帯状にしその上に沈文を施し、22は短い刻み目文を施す。23は口縁部に山形の突起物をもち、連続した力強い短い押し引き文が施される。24・25は円形の刺突文をもち、25はその下にはっきりとした平行沈線が施される。

26～29は半截竹管による2本の平行沈線を主体としたものである。28・29は半截竹管による鋸歯状の沈線と連続刺突をもつ。

これらは、大木7a・7b式土器に相当するものと思われるが、21・22に関しては自信を持てない。

●縄文時代中期中葉に相当すると思われる土器（図7・9・10、1・2・30～41、写真図版5・6）

31・32は3本の平行な粘土紐貼付文の下に渦巻状の文様が施されるもので、32は波状口縁と思われる。30も同じ形態であると予測する。33～37は口唇部とその下に隆帯をもち、その中がなでられて、下側の隆帯を平行沈線で区画しているものである。33は突起物をもつ可能性があり、35はキャリバー状に内湾する。また37は円形の突起物をもつ。33はその形状から浅鉢の可能性があり、ほかは深鉢と思われる。38は沈文の施された隆帯の下に平行なV字の沈線が施される。また39は斜位のはっきりとした沈線で文様を描く。40・41は平行な沈線で区画された区画内に円形と思われる沈線を施す。

これらは、大木8a・8b式土器に相当するものと思われ、41は1号土坑で出土している1と同一個体である可能性が高い。

●時代不明な土器（図10、42～50 写真図版6）

42は○状の突起を粘土紐で巡らし、装飾帶のはがれたような痕跡が認められる。上記の37と同じ形態で縄文時代中期に相当する可能性がある。43は渦巻状の突起物であり、中期の後葉か（大木10式？）44～50は撚糸文や多軸絡条帶を地文にもつものを集めた。時代は不明であるが、前期後葉から中期にかけてのものと思われる。

②石器（図11・12・13、写真図版7・8）

遺構内で出土した1・2は本文で説明しているのでここでは取り上げない。

3は磨石で、磨り面はあまり研磨されていない。4～10は石匙である。4は小型で石鏃と思われたが、基部状の突起をつまみ部と判断した。石質は赤色頁岩である。5～10のすべてが細部加工の剥離は片面のみでそのうち6・9は刃部に集中する。また7は中央まで加工しようとした痕跡があり作りかけの可能性がある。8は先端部とサイドが10はサイドが欠損しており、刃部は欠損側で使用中に欠けたものかもしれない。

11から14は石鎧である。11は大型ではあるが周縁の加工は荒い。12は小型ではあるが片面を削といねいに剥離調整している。13も11と同じく加工は荒い。14は尖頭様石器に似るが、明確な尖頭部をもたない。加工は荒い。

15は尖頭部をもつが加工は荒い。形状は二等辺三角形状を呈す。破損しているが尖頭様石器とした。

16から26は数多い削搔器の中で削と剥離面のしっかりしているものを集めたものである。そのうち16は片面に鋭利な刃をもち、また19も両側がていねいに剥離調整されており形も整っていることから石匙の可能性もある。22は片側に明確な使用痕が認められる。

石質は5から22が頁岩で23から26が珪質頁岩である。

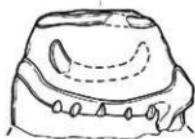
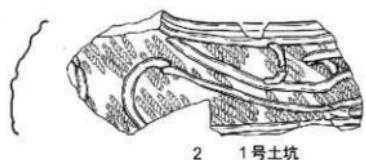
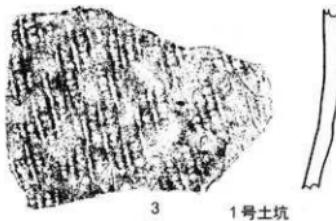
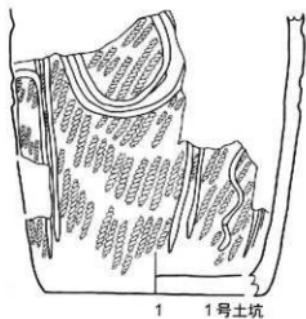


図7 土器(1) 遺構内・遺構外①



図8 土器(2) 遺構外 ②



図9 土器(3) 陶像③

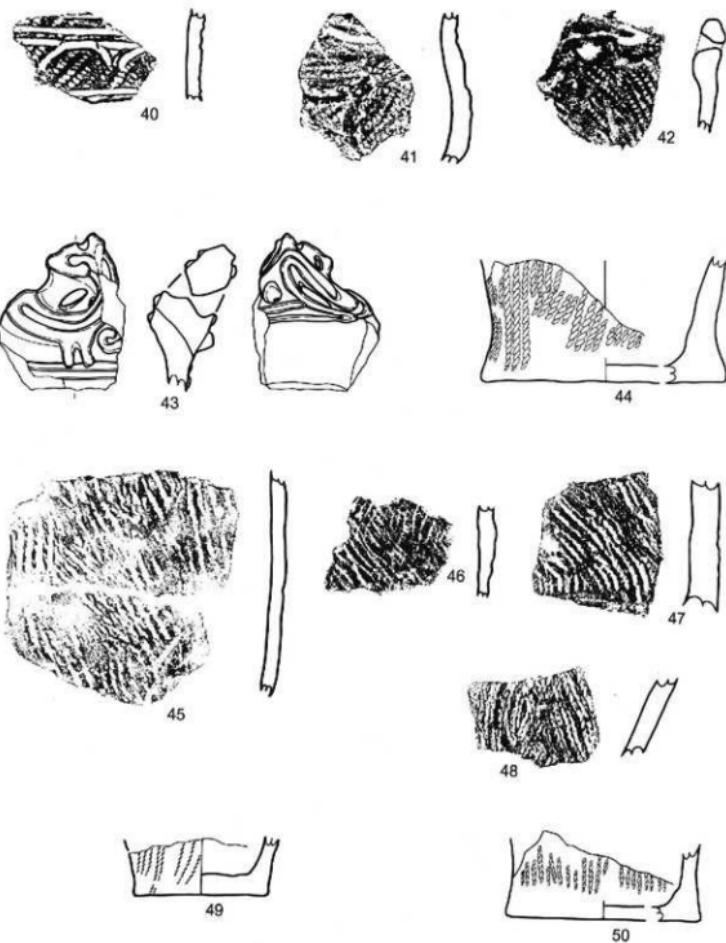
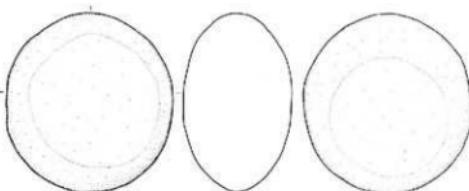


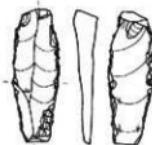
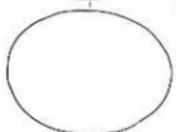
図 10 土器(4) 遺構外④



1 1号土坑埋土下位



3

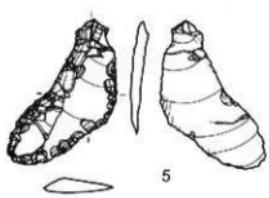


2

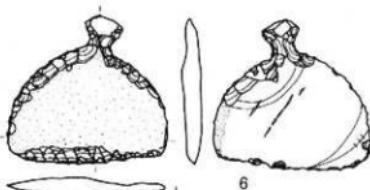
1号土坑埋土下位



4



5



6



図 11 石器(1) 遺構内・遺構外 ①

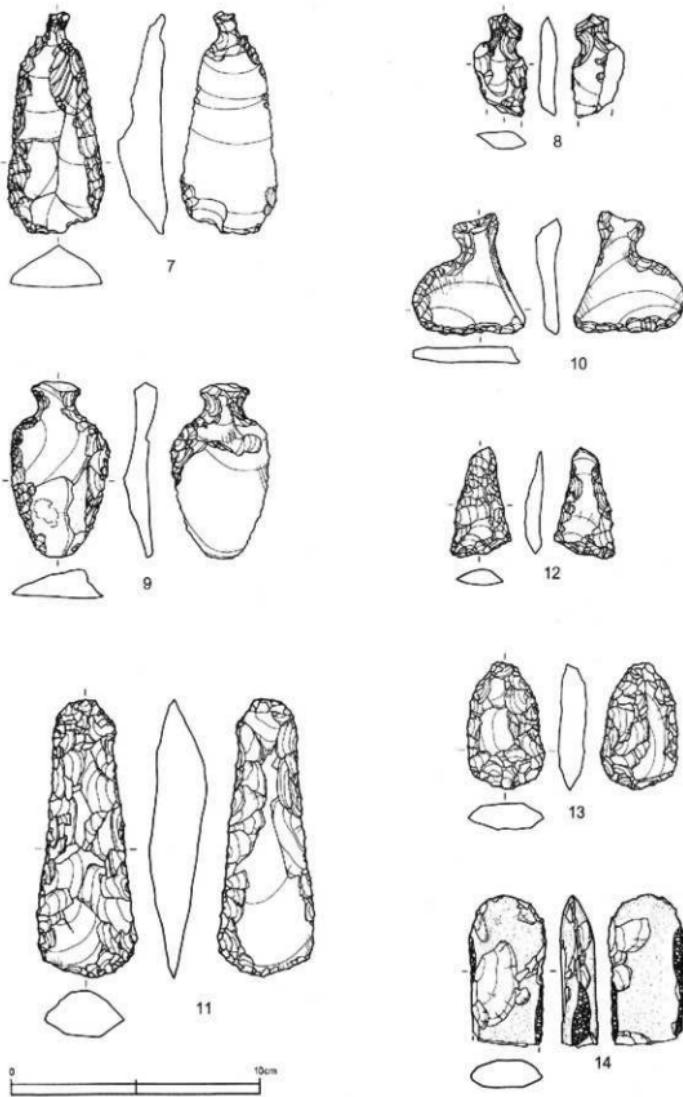


図 12 石器 (2) 遺構外 ②

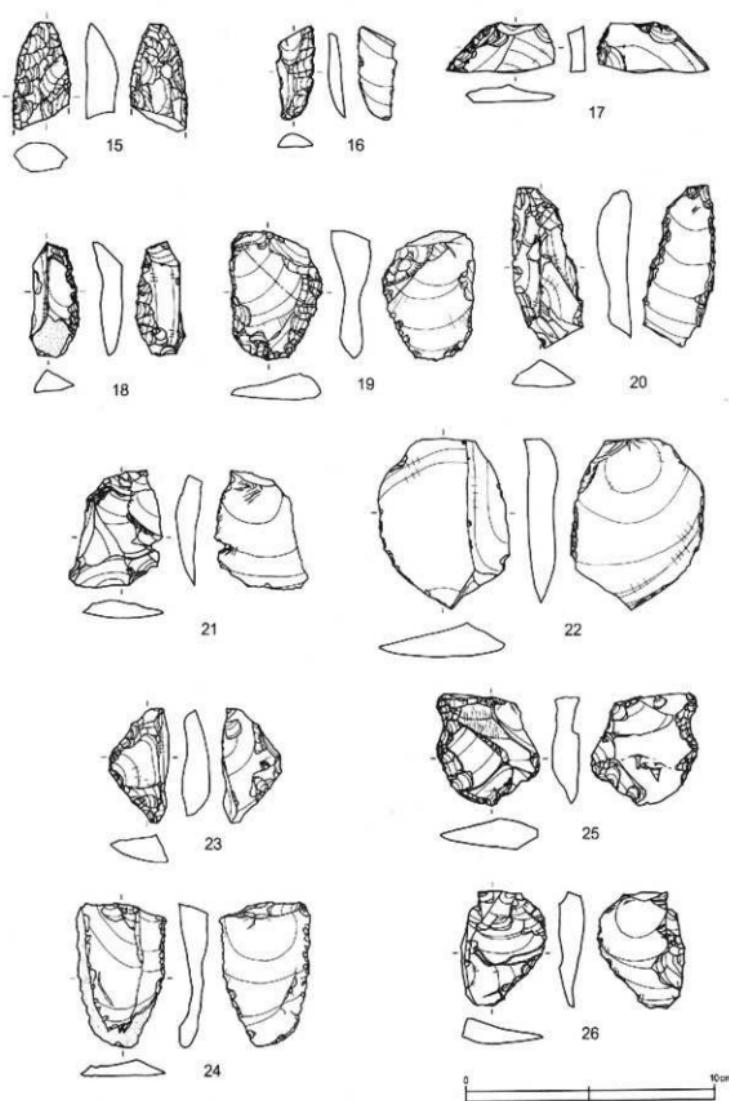


図13 石器(3) 遺構外③

## 本巻遺跡土器観察表 I 《遺構内》

図版No.	出土地点・層位	器種	部位	観 察	地 文	時 代	写 真
1	I号土坑 埋土中位	深鉢	脚部		單節鉢縞文 LR 底部擦削	大木 8b	5
2	I号土坑 埋土中位	深鉢	口縁	粘土縞貼付文 キャリパー状 内面擦き	單節鉢縞文 RL	大木 8b	5
3	I号土坑 埋土中位	深鉢	脚部	付着	無鉢縞文	不明	5
4	PPB 埋土上位	深鉢	口縁	縦に小さな押引文のような沈線		大木 6?	5

## 《遺構外》

図版No.	出土地点・層位	器種	部位	観 察	地 文	時 代	写 真
5	調査区東側 黒褐色土中	深鉢	口縁	突起物（羊頭状）	尖端圓	大木 5式	5
6	埋土中 層位不明	深鉢	口縁	高凸状の裝飾帯をもつ		大木 5式	5
7	Bトレンチ西 黒褐色土中	深鉢	口縁	若干縫貼付文 鉢底	拓本	單節鉢縞文 LR	大木 5式
8	Bトレンチ西 黒褐色土中	深鉢	口縁	若干縫貼付文 鉢底		西系文?	大木 5式
9	Bトレンチ西 検出面V層下	深鉢	口縁	若干縫貼付文 口唇部		摩滅著しい 無文?	大木 5式
10	Dトレンチ北西 黒褐色土中	深鉢	口縁	若干縫貼付文 口唇部 3本の隆起		—	大木 5式
11	Aトレンチ西 黒褐色土中	深鉢	口縁	沈線なし	沈線なし	太く強い平行沈線	大木 5式
12	Dトレンチ北西 黒褐色土下	深鉢	口縁	沈線なし	沈線なし	太く強い平行沈線	大木 5式
13	Cトレンチ西 検出面V層下	深鉢	口縁	突起物		押引文	大木 5式
14	Dトレンチ北西 黒褐色土中	深鉢	口縁	平行な強い沈線		強い押し引き文	大木 5式
15	Cトレンチ西 黒褐色土中	深鉢	口縁	隆起状に連続する円形の刺突穴			大木 5?式
16	Bトレンチ西 黒褐色土中	深鉢	口縁	刺突穴		隆起状に連続する沈線	大木 5式
17	Bトレンチ西 黒褐色土中	深鉢	口縁	円形の装飾帶内側をなす。外側に刺突穴			大木 6式
18	Bトレンチ北西 黒褐色土中	深鉢	口縁	円形の装飾帶内側をなす。外側に刺突穴			大木 6式
19	Bトレンチ北西 黒褐色土中	深鉢	口縁	平行な花瓶形区画		縦に小さな押引文のような沈線	大木 6式
20	Cトレンチ北西 黒褐色土中	深鉢	口縁	平底管による花瓶形区画		隆起管による沈線	大木 6式
21	Bトレンチ北西 黒褐色土中	深鉢	口縁	管による沈線		太く強い平行沈線	大木 7a式
22	Aトレンチ北西 黒褐色土中	深鉢	口縁	管による組縫貼付		単節鉢縞文 LR	大木 7a式
23	Dトレンチ北東 黒褐色土下	深鉢	口縁	管による山形突起部		太く強い押し引き文	大木 7a式
24	Dトレンチ北西 黒褐色土中	深鉢	口縁	管による連続刺突穴		2本のはっきりした沈線	大木 7a式?
25	Dトレンチ北西 黒褐色土中	深鉢	口縁	管による山形突起部		太く強い押し引き文	大木 7a?
26	Aトレンチ北東 黒褐色土中	深鉢	口縁	半裁切管による2本の沈線			大木 7a式
27	Cトレンチ北西 黒褐色土中	深鉢	口縁	管による沈線		2本の沈線	大木 7a式
28	Aトレンチ北西 黒褐色土中	深鉢	口縁	管による沈線		2本の沈線 滑経剥丸穴	大木 7a式
29	Aトレンチ北西 黒褐色土中	深鉢	口縁	管による沈線		2本の沈線 滑経剥丸穴	大木 7a式
30	Aトレンチ北西 堆山面	深鉢	口縁	管による組縫貼付		半裁切管	単節鉢縞文 RL
31	Bトレンチ北西 黒褐色土下	深鉢	口縁	粘土縫貼付文 口辺部3本の平行溝巻状			大木 8a式
32	埋土中 層位不明	深鉢	口縁	粘土縫貼付文 滑巻状? 2本の沈線の間ナデ 大木8a式?			大木 8a式
33	Cトレンチ北西 検出面V層下	深鉢	口縁	隆起を沈線で区画		2本の沈線の間ナデ	大木 8a式
34	埋土中 層位不明	深鉢	口縁	沈線で区画された隆起		2本の沈線の間ナデ	大木 8a式
35	Aトレンチ北東 検出面V層下	深鉢	口縁	沈線で区画された隆起		キャリバー状の間ナデ	大木 8a式?
36	Cトレンチ西 黒褐色土中	深鉢	口縁	沈線で区画された隆起		2本の平行沈線と亞下する隆起沈線	大木 8a式
37	埋土中 層位不明	深鉢	口縁	沈線で区画された隆起		隆起と口唇部の間ナデ	大木 8a式

本卷遺跡土器片観察表2

図版No.	出土地点・部位	器種	部位	観察	地文	時代	写真
38	B下レンチ西 黒褐色土中	浅鉢?	口縁	粗面貼付帯 V字に平行沈線		大木8a~b	6
39	D下レンチ西 黒褐色土中	深鉢	口縁?	3本の半截竹管によるはっきりとした沈線		大木8a~b?	6
40	D下レンチ北西 黒褐色土中	深鉢	口縁	平行な沈線で区画 区画内に円形?の沈線による文様		大木8a~b	6
41	D下レンチ北西 黒褐色土中	深鉢	口縁	平行な沈線で区画 区画内に円形?の沈線による文様		大木8a~b	6
42	B下レンチ西 黒褐色土中	深鉢	口縁	粗面貼付帯 ○状の突起を添る 磨耗?		大木8?	6
43	C下レンチ西 層位不明	深鉢	口縁	溝巻状突起物 内面でいねいな巻き		大木8a	6
44	A下レンチ西 層位不明	深鉢	胸~底部	焼成なし 底部大きく張り出す	熟成文	大木8?	6
45	C下レンチ北西 黒褐色土中	深鉢	胸部		多輪 輪条帶 網目状 熟成文	不明	6
46	B下レンチ西 黒褐色土中	深鉢	胸部			不明	6
47	D下レンチ西 黒褐色土中	深鉢	胸部		熟成文	不明	6
48	C下レンチ北西 黒褐色土下	深鉢	胸部		木目状 熟成文	不明	6
49	溝柵区側 排上中	ミニチュ ア土器	底部	手づくね上器	熟成文	不明	6
50	C下レンチ西 黒褐色土中	ミニチュ ア土器	底部	手づくね土器	熟成文	不明	6

## 石器観察表

図版No.	器種	出 土 地 点	層 位	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ g	石 質 (产地)	写 真
1	磨石	1号土坑	埋土下位	10.6	8.5	3.5	425.00	砂岩	7
2	削器	1号土坑	埋土上位	5.4	1.8	1.0	7.15	頁岩	7
3	磨石	トレンチC ~ D の中央部	黒色土下位	11.0	10.2	7.5	1260.00	安山岩 (奥羽山脈)	7
4	石匙	トレンチA ~ B の西側	黒色土中	2.3	1.8	0.4	1.21	赤色頁岩	7
5	石匙	トレンチB	排上	6.0	4.3	0.9	9.29	頁岩	7
6	石匙	東側調査区 北側	黒色土中	6.0	6.4	0.7	31.02	頁岩	7
7	石匙	東側調査区 南側	表土下	9.0	3.9	2.0	48.48	頁岩	7
8	石匙	西側調査区 南側	表土下	4.2	2.1	0.7	7.05	頁岩	7
9	石匙	トレンチC ~ D の中央部	黒色土下位	7.15	4.0	1.6	6.41	頁岩	7
10	石匙	西側調査区南トレンチ	地山	4.9	4.5	1.0	14.80	頁岩	7
11	石匙	トレンチC	黒色土中	10.2	4.0	2.4	70.80	頁岩	7
12	石匙	トレンチD	黒色土中	4.5	2.5	0.7	6.29	頁岩	7
13	石匙	東側調査区 北側	黒色土下	5.2	3.1	1.1	17.74	頁岩	7
14	石匙	トレンチC	検出面	6.1	3.0	1.1	34.82	頁岩	7
15	石槍	6号土坑周辺	黒色土下	4.3	2.3	1.3	11.80	頁岩	7
16	削器	トレンチA ~ B の間中央	黒色土中	3.8	1.5	0.5	3.04	頁岩	7
17	削器	東側調査区 中央	黒色土下	4.4	2.0	0.7	6.18	頁岩	7
18	削器	西側調査区 トレンチ	表土下	4.7	1.9	1.2	9.16	頁岩	7
19	搔耙	トレンチA ~ B の間中央	黒色土中	5.3	3.8	1.8	26.60	頁岩	7
20	削器	トレンチA 拡張部分註跡部	黒色土中	6.6	2.8	1.2	18.32	頁岩	7
21	削器	トレンチB ~ C の間中央	黒色土中	4.85	3.8	1.2	12.82	頁岩	7
22	削器	トレンチB ~ C の間中央	黒色土下位	6.9	5.2	1.4	44.36	頁岩	8
23	削器	トレンチB	排土	5.6	2.4	1.1	12.14	珪質頁岩	8
24	削器	トレンチA	黒色土中	5.9	3.6	1.3	19.96	珪質頁岩	8
25	削器	トレンチC ~ D の間中央	検出面上	4.5	4.3	1.2	22.66	珪質頁岩	8
26	削器	トレンチC ~ D の間中央	黒色土中	4.7	3.5	1.4	14.92	珪質頁岩	8

### 3.まとめ

本巻遺跡は、住居跡が検出されるであろうという期待があったが、残念ながらそれは果たせなかつた。しかし、この遺跡の性格を語るには不十分ではあるが、過去の情報量のことを考えると今回の発掘調査で多くの土器を採集することができたことは意義がある。

というのは、1987年岩手県衣川村文化財報告書第2集 上衣川地区遺跡詳細分布調査報告書（1987年3月衣川教育委員会発行）には本巻遺跡については以下のようない説明がなされている。

遺跡は、南俣川の支流になる北沢川が東流する……（略）土器は前期・中期・後期に属する破片、および弥生式土器1片が採集されている。弥生式土器片は高壺形土器の筒形になる脚部の破片で、谷起島式に属するものである。また丹彩の痕跡のある石器が採集されている。時期は不詳であるが、特別の用途に使用された石器と考えられる。……（略）

実際、土器は前期・中期・後期？にわたる破片が出土しているがその中で前期に相当する土器片が多い。また弥生式土器や石器は出土しなかつた。

これらのことと踏まえ、今回の発掘調査の総括として、遺構と出土した土器を中心としてまとめ、従来の情報量にプラスすべく若干の考察を述べたいと思う。

#### （1）遺構

埋土に縄文時代中期中葉・大木8b式に相当すると思われる土器を含む土坑を検出した。埋土の下位の出土で摩滅も少なく、この土坑は土器の時期とさほど変わらないものではないかと判断した。その他の5基には埋土には何も得られなかつたが、少なくとも2基は同時代のものか、それより古い時期のものと思われる。

また、柱穴状のピットは13基検出しているが、円形状の配列をもつ柱穴状ピットのひとつが埋土上位から縄文時代前期のものと思われる土器片が出土しており、その周辺（トレンチA・3b～2c）からは同時期の土器片が多数出土していることから、堅穴住居跡が存在していたかも知れず、あったと仮定するならばそれは縄文時代前期後葉の時期に違いない。

これらのことから、縄文時代中期中葉ころには人々はこの地域で生活していたと予測でき、可能性としてそれは縄文時代前期後葉までさかのばることができる。

#### （2）遺物（図版p127、写真図版8②）

縄文土器では、大コントナ2箱出土した中で、遺構内外に関わらず口縁部を中心に残存度のよいもの50点を選択して本文の2 検出遺構と出土遺物の中で説明しているが、縄文時代の前期後葉から中期中葉にかけての土器が中心になっている。その中でも圧倒的に前期後葉と思われる土器が多く、全体の60%ほどを占めている。摩滅が激しいもの、掲載した土器片と同じ形態をしたものは省いているが、そのことを考えると全体の80%はその時期に当たるのではないかと思われる。

そこで、遺構外で不掲載の土器片の中から摩滅の少ない口縁部をランダムサンプリングしてみた。（土器片セレクト後の再確認で漏れたものを紹介する意味も含めて）そして、1～23を以下の3時期にあてはめると以下の通りになる。

A 前期後葉	1 2 3 5 6 8 14 15 16 17 18 20 21 22
B 中期前葉から中葉	4 7 9 11 12
C 中期中葉以降もしくは後期	10 13 19 23

Bに相当すると思われる5個体のうちいくつかは前期後葉に分類できる可能性もあり、またその逆もありうる。

Cに入れた4つのうち19と23は全体の土器片の中でもっとも薄くてもっとも焼成が良いものを探し出したもので後期に属するものか。10と13は自信がなく、10はやはりAに属するものかもしれない。

いずれにせよ、本遺跡は縄文時代前期後葉を中心とするものであることが言えるであろう。

石器は比較的形のそろった石匙や石鋸が出土している。これらは上記の土器片と同じ層位から出土しているものがほとんどである。断言はできないが、同時期のものである可能性が高い。石錐は1片も採集できず、その他でも、石質が明らかに違うものは見当たらず、すべて現地性のものようである。

### (3) おわりに

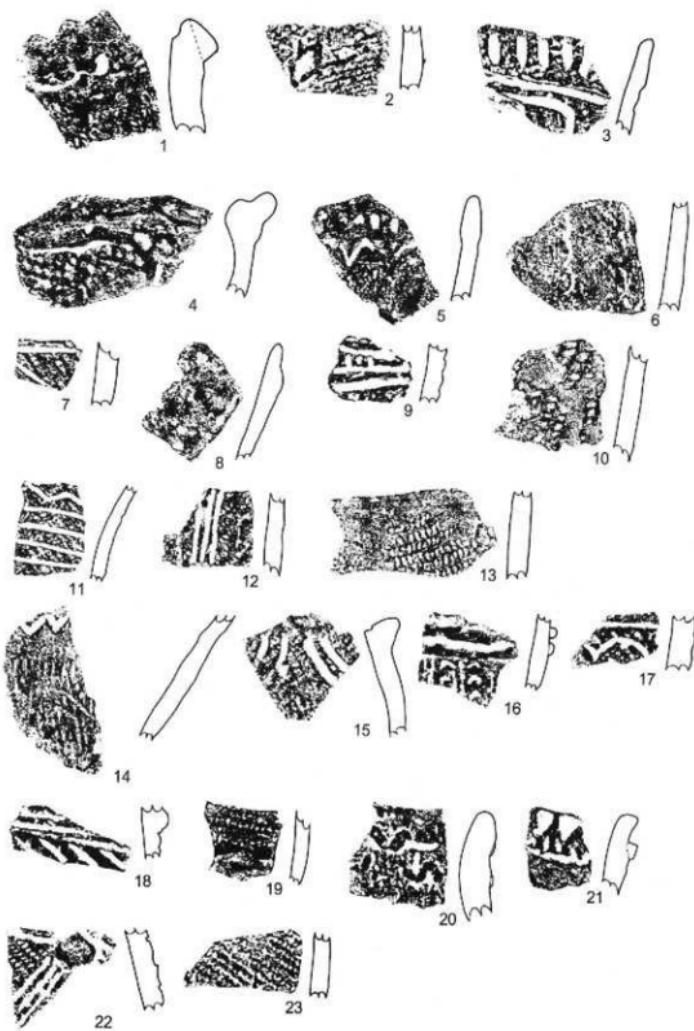
従米の本巻遺跡の情報量に付け加えるとするならば、縄文時代前期後葉の土器が割合多く出土したことと縄文時代中期の土坑が検出されたということである。縄文時代前期の住居跡があったかも知れないという可能性もプラスできるかもしれない。

しかし掲載した土器片は、全体の出土量が少なく、その調査区域の層位に時代の格差を細分できなかつたために、既に発刊されている当遺跡に近く情報の豊富な報告書に照らし合わせて、その時期を紹介するにとどまり、新しい情報を提供するには至らなかった。また、担当者の勉強不足などにより正確な時期を指摘しているかにも疑問がもたれる。

今後の発掘調査に期待したい部分が数多く残るが、遺跡全体が削平されている観があり、また今回採集できなかつた石錐などは近隣の人たちが昔からよく見かけていることから、遺物含有層なども攪乱を受けていることが予想される。そのことを考えれば、今回の発掘調査は貴重な資料を提供したと言えるであろう。

#### 引用・参考文献（本巻遺跡分）

- |                 |                                   |
|-----------------|-----------------------------------|
| 本郷遺跡発掘調査報告書     | 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第164集 1992年3月 |
| 焼岡崎の台遺跡発掘調査報告書  | 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第240集 1996年3月 |
| 牧田貝塚発掘調査報告書     | 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第241集 1996年3月 |
| 田代遺跡発掘調査報告書     | 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第262集 1998年3月 |
| 上衣川地区遺跡群分布調査報告書 | 岩手県衣川村文化財報告書第2集 1983年3月           |
| 下衣川地区遺跡群分布調査報告書 | 岩手県衣川村文化財報告書第3集 1983年3月           |



土器片資料圖

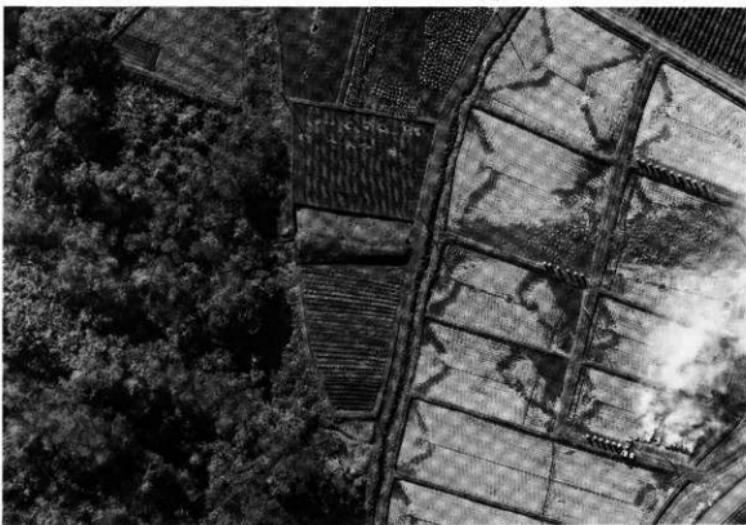


# 写 真 図 版



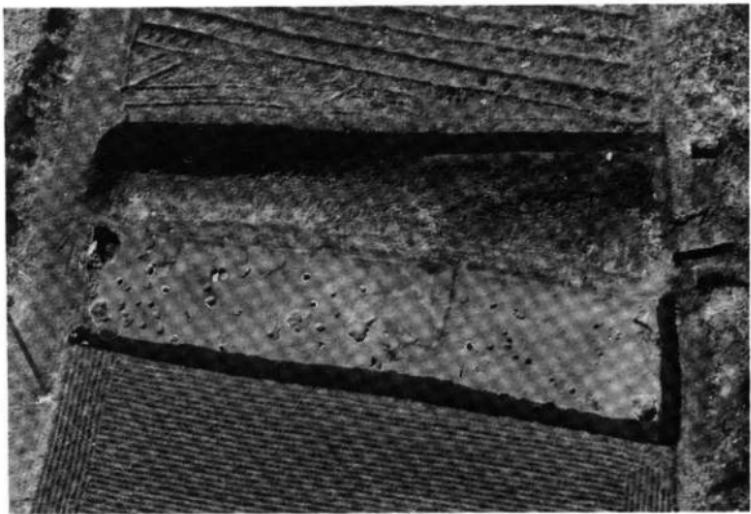


遺跡遠景（北上空からの空中写真）



遺跡遠景（真上からの空中写真）

写真図版1 遺跡遠景（空中写真）



遺跡近景（完掘）②

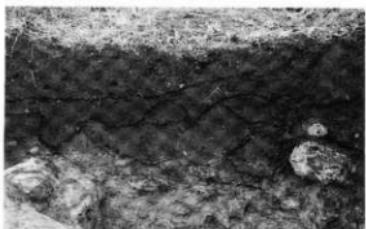


東区完掘（S→）

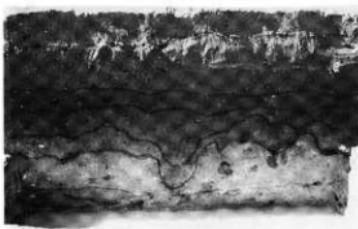


西区完掘（N→）

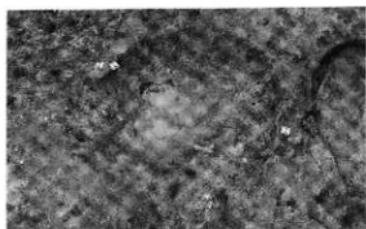
写真図版2 遺跡近景 東区・西区完掘



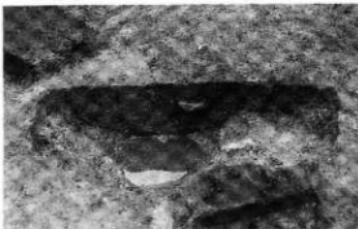
东区基本层序



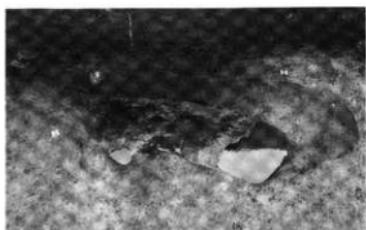
西区基本层序



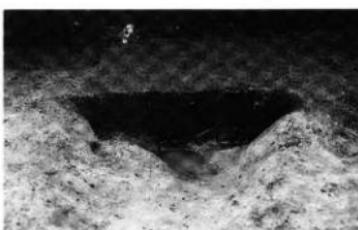
1号土坑



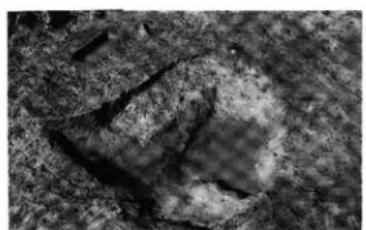
断面



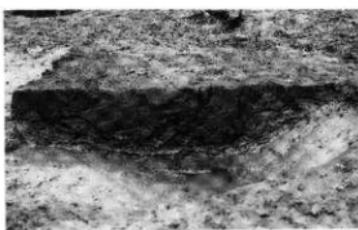
2·3号土坑



RD2断面



4号土坑

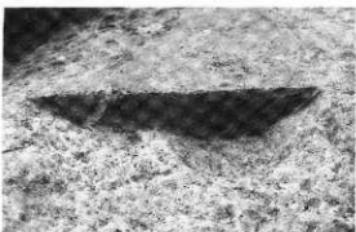


断面

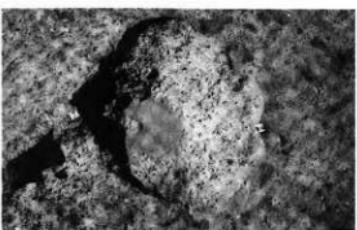
写真图版3 基本层序 1号、2号、3号、4号土坑



5号土坑



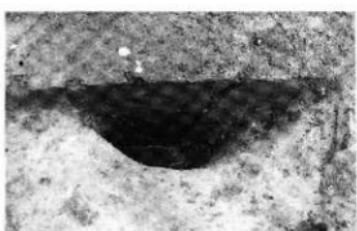
断面



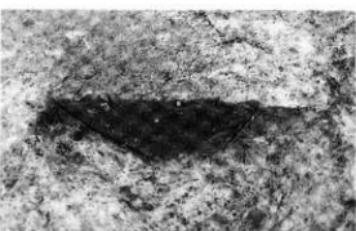
6号土坑



断面



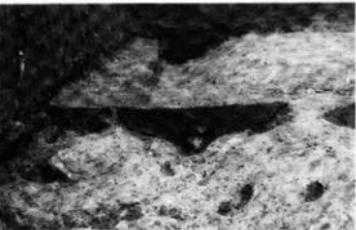
PP01 断面



PP08 断面

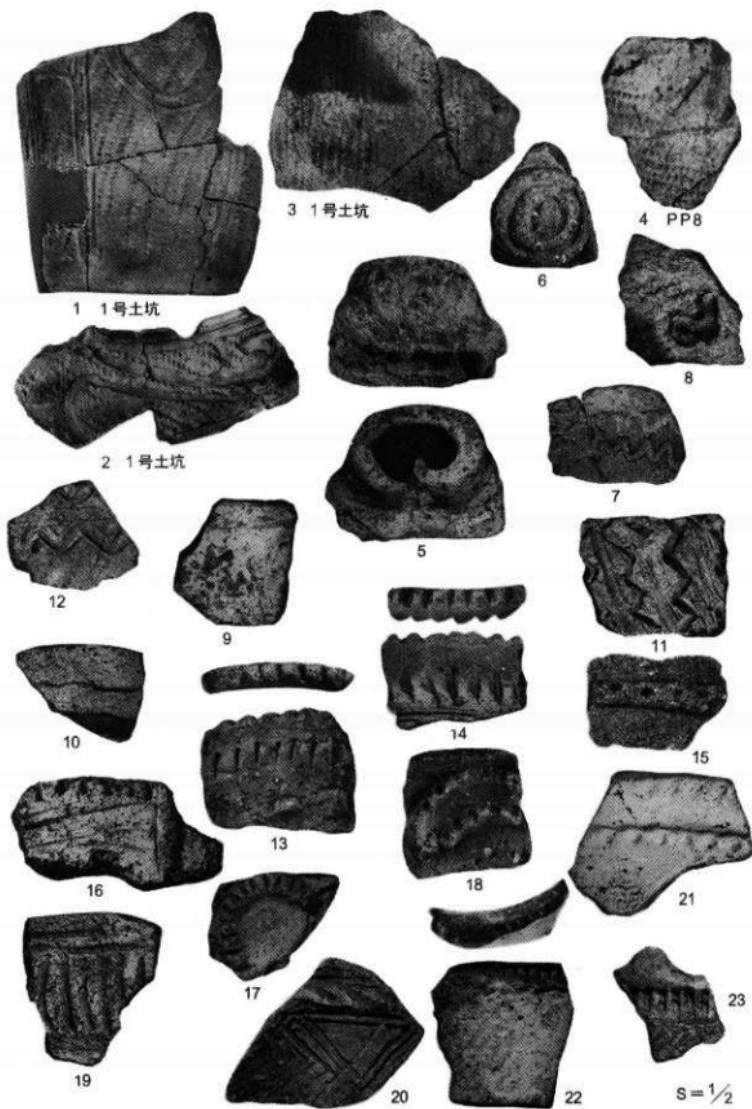


溝跡

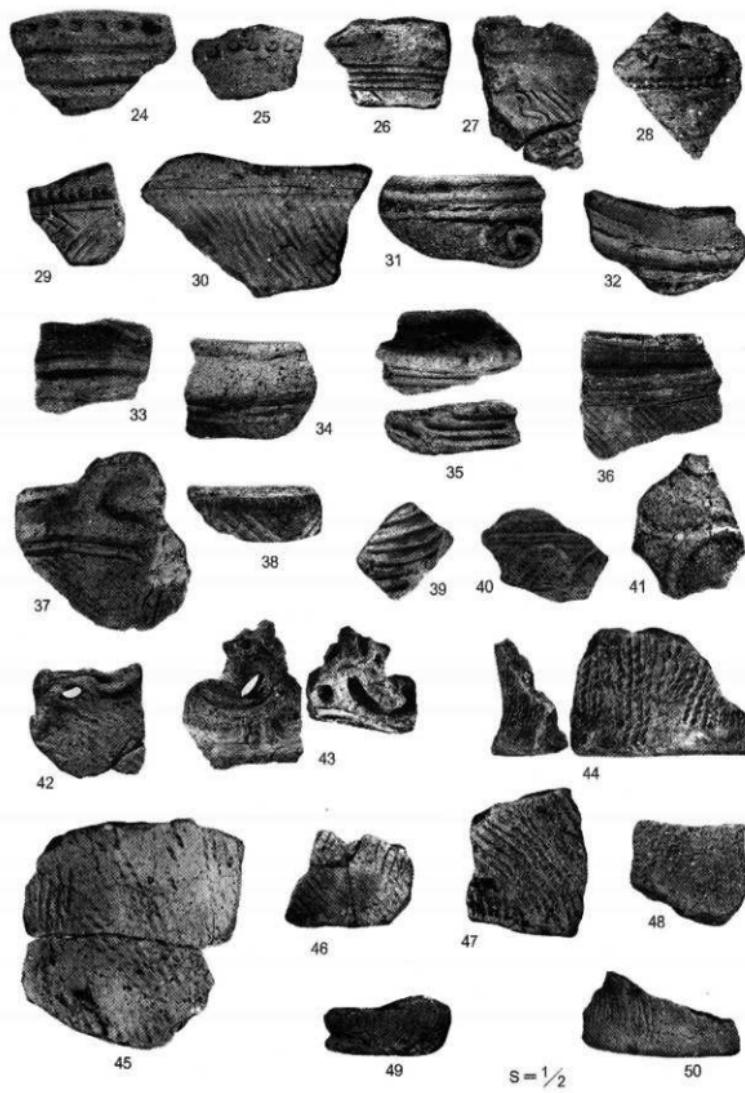


断面

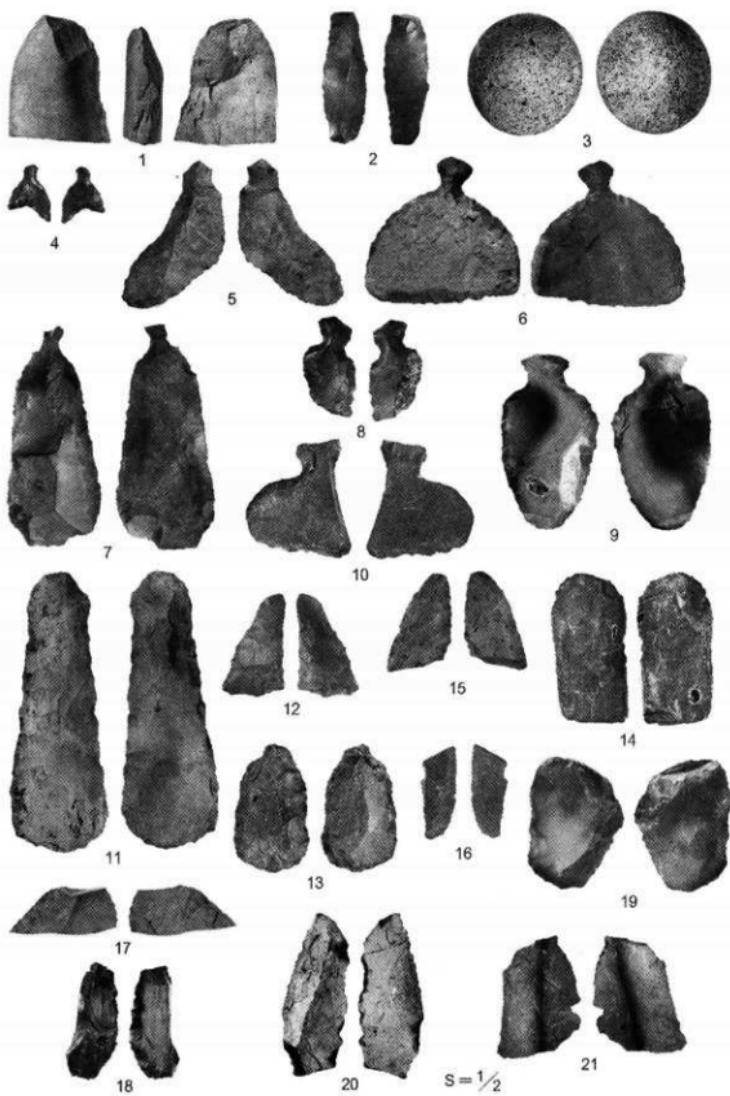
写真図版4 5号、6号土坑 柱穴断面、溝跡



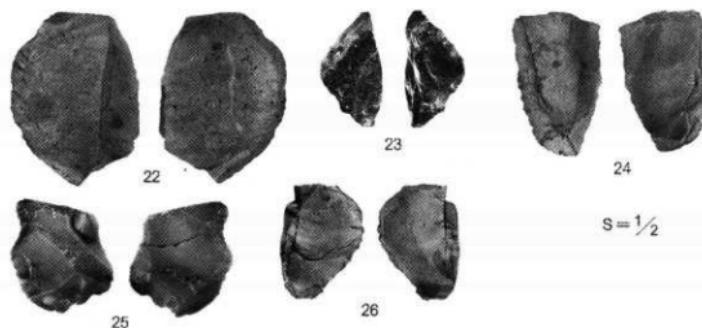
写真図版5 出土遺物(1) 土器①



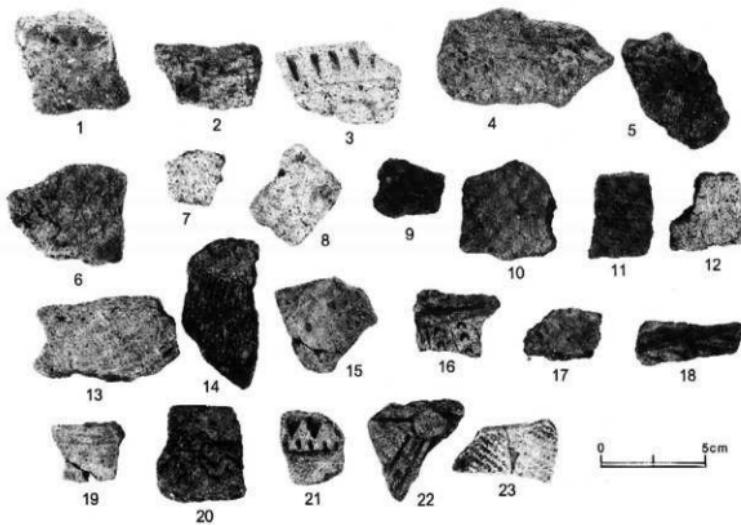
写真図版6 出土遺物(2) 土器(2)



写真図版7 出土遺物(3) 石器①



石器②



土器集成写真

## 報告書抄録

ふりがな	かみてらだ・もとまきいせきはっくつちょうさほうこくしょ					
書名	上寺田・本巻遺跡発掘調査報告書					
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書					
シリーズ番号	第328集					
編著者名	中村比呂志・中村直美・大森博文・鳥居達人・佐々木志麻					
編集機関	財團法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター					
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11-185 TEL 019-638-9001					
発行年月日	西暦2000年3月10日					
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード 市町村 遺跡番号	北緯	東經	調査期間	調査面積
かみてらだ いせき 上寺田遺跡	いわてけんこうもがわむら 岩手県衣川村 かみこころがわあざかみのへらだ 上衣川字上寺田 97	033 NE54 84 - 0254	39度 03分 01秒	141度 02分 31秒	1997年4月8日 ~1997年5月15日 1998年7月16日 ~1998年9月30日	442m <sup>2</sup> 900m <sup>2</sup>
ほんまき いせき 本巻遺跡	いわてけんこうもがわむら 岩手県衣川村 かみこころがわあざもとたま 上衣川字本巻 43	033 NE64 84 - 1616	39度 00分 59秒	141度 01分 33秒	1998年10月2日 ~1998年10月30日	500m <sup>2</sup>
調査原因	「広域農道整備事業胆沢南部地区」の施行に伴う緊急発掘調査					
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
上寺田遺跡	散布地	縄文時代	掘立柱建物跡 2基 土坑 30基 柱穴 341基 溝跡 3基 焼土遺構 6基	縄文時代中期後葉から後期に該当すると思われる土器 鐸形土製品 石器は石鎚・石匙・石範など	掘立柱建物跡は2基の検出となるが、大型の柱穴が多く存在する。	
本巻遺跡	散布地	縄文時代	土坑 6基 柱穴 13基 溝跡 1条	縄文時代前期~中期 大木4~8b式土器 石器は石匙7点 石範4点ほか	土器では縄文時代前期後葉(大木4・5・6式)のものが多い。	



岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第328集

**上寺田・本巻遺跡発掘調査報告書**

広域農道整備事業胆沢南部地区関連発掘調査

印刷 平成12年3月3日

発行 平成12年3月10日

発行 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11-185

TEL (019) 638-9001

印刷 (株)阿部謙写堂

〒020-0015 盛岡市本町通2丁目8-37

TEL (019) 623-2361

